

2024年度
大学院スポーツ健康学研究科
講義概要 (シラバス)



法政大学

科目一覽

〔発行日：2024/5/1〕 最新版のシラバスは、法政大学Webシラバス (<https://syllabus.hosei.ac.jp/>) で確認してください。

凡例 その他属性

〈他〉：他学部公開科目	〈グ〉：グローバル・オープン科目
〈優〉：成績優秀者の他学部科目履修制度対象科目	〈実〉：実務経験のある教員による授業科目
〈S〉：サーティフィケートプログラム_SDGs	〈ア〉：サーティフィケートプログラム_アーバンデザイン
〈ダ〉：サーティフィケートプログラム_ダイバーシティ	〈未〉：サーティフィケートプログラム_未来教室
〈カ〉：サーティフィケートプログラム_カーボンニュートラル	

修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5010】 研究デザイン・フィロソフィー [木下 訓光、中澤 史、瀬戸 宏明、片上 千恵、泉 重樹、伊藤 真紀、小田 佳子、NEMES ROLAND JANOS、井上 尊寛、苅部 俊二、島本 好平、高見 京太、木村 新、越智 英輔] 春学期授業/Spring	1
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5020】 スポーツ健康学特論Ⅰ(心身科学) [島本 好平、博田 広樹] 春学期授業/Spring	3
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5030】 スポーツ健康学特論Ⅱ(自然科学) [木下 訓光、瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring	4
修士課程授業科目/Master's Course_基礎科目/Basic courses 【S5040】 スポーツ健康学特論Ⅲ(人文社会科学) [伊藤 真紀、望月 拓実、片上 千恵] 秋学期授業/Fall	6
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6010】 公衆衛生学特論 [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	7
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6020】 健康体力学特論 [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	8
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6030】 健康心理学特論 [島本 好平] 秋学期授業/Fall	9
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6040】 スポーツ栄養学特論 [小清水 孝子] 秋学期授業/Fall	10
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6100】 運動器疾患特論予防と対処特論 [安藤 正志] 秋学期授業/Fall.....	11
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6060】 学校保健学特論 [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	12
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6070】 体力・機能測定評価演習 [高見 京太] 秋学期授業/Fall.....	13
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(ヘルスプロモーション科目群) /Advanced courses(health promotion program) 【S6080】 運動疫学演習 [笹井 浩行] 春学期授業/Spring.....	14
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7090】 スポーツマーケティングリサーチ演習 [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	15
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S6090】 スポーツマネジメント特論 [齋藤 れい] 春学期授業/Spring	16
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7020】 スポーツ産業学特論 [片上 千恵] 春学期授業/Spring	18
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7030】 スポーツ健康政策学特論 [海老島 均] 春学期授業/Spring	19
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7040】 スポーツジャーナリズム特論 [片上 千恵] 秋学期授業/Fall	20
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7050】 スポーツメディア特論 [赤堀 宏幸、小池 隆俊] 春学期授業/Spring	21
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7100】 スポーツ組織構造特論 [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall	22
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツマネジメント科目群) /Advanced courses(sport management program) 【S7080】 スポーツフィールドスタディー演習 [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring	23
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目(スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8010】 スポーツコーチング学特論 [苅部 俊二] 秋学期授業/Fall	24

修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8020】 スポーツ運動学特論 [木村 新] 春学期授業/Spring.....	25
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8030】 スポーツバイオメカニクス特論 [木村 新] 秋学期授業/Fall.....	26
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8040】 スポーツトレーニング学特論 [NEMES ROLAND JANOS] 秋学期授業/Fall.....	27
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8050】 発育発達学特論 [高見 京太] 秋学期授業/Fall.....	28
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8060】 スポーツ教育学特論 [永木 耕介] 秋学期授業/Fall.....	29
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8070】 スポーツメンタルトレーニング演習 [中澤 史] 秋学期授業/Fall.....	30
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8080】 チームビルディング演習 [山田 快] 秋学期授業/Fall.....	31
修士課程授業科目/Master's Course_展開科目 (スポーツコーチング科目群) /Advanced courses(sport coaching program) 【S8090】 アスレティックトレーニング特別演習 [泉 重樹] 春学期授業/Spring.....	32
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9012】 スポーツ健康学演習Ⅰ [泉 重樹] 春学期授業/Spring.....	33
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9014】 スポーツ健康学演習Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring.....	34
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9020】 スポーツ健康学演習Ⅰ [小田 佳子] 春学期授業/Spring.....	35
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9029】 スポーツ健康学演習Ⅰ [瀬戸 宏明] 春学期授業/Spring.....	36
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9030】 スポーツ健康学演習Ⅰ [望月 拓実] 春学期授業/Spring.....	37
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9112】 スポーツ健康学演習Ⅱ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall.....	38
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9114】 スポーツ健康学演習Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall.....	39
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9120】 スポーツ健康学演習Ⅱ [小田 佳子] 秋学期授業/Fall.....	40
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9129】 スポーツ健康学演習Ⅱ [瀬戸 宏明] 秋学期授業/Fall.....	41
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9130】 スポーツ健康学演習Ⅱ [望月 拓実] 秋学期授業/Fall.....	42
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9212】 スポーツ健康学演習Ⅲ [泉 重樹] 春学期授業/Spring.....	43
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9213】 スポーツ健康学演習Ⅲ [伊藤 真紀] 春学期授業/Spring.....	44
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9214】 スポーツ健康学演習Ⅲ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring.....	45
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9215】 スポーツ健康学演習Ⅲ [越智 英輔] 春学期授業/Spring.....	46
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9217】 スポーツ健康学演習Ⅲ [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring.....	47
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9312】 スポーツ健康学演習Ⅳ [泉 重樹] 秋学期授業/Fall.....	48
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9313】 スポーツ健康学演習Ⅳ [伊藤 真紀] 秋学期授業/Fall.....	49
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9314】 スポーツ健康学演習Ⅳ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall.....	50
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9315】 スポーツ健康学演習Ⅳ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall.....	51
修士課程授業科目/Master's Course_研究指導/Research courses 【S9317】 スポーツ健康学演習Ⅳ [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall.....	52

博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9501】 スポーツ健康学高度開発特論A (ヘルス領域) [泉 重樹、越智 英輔、鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall.....	53
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9502】 スポーツ健康学高度開発特論B (マネジメント領域) [伊藤 真紀、井上 尊寛] 春学期授業/Spring	54
博士後期課程授業科目/Doctor's course_専門科目/Specialized courses 【S9503】 スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域) [永木 耕介、中澤 史、林 容市、木村 新] 春学期授業/Spring	55
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9611】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [井上 尊寛] 春学期授業/Spring	57
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9609】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [木村 新] 春学期授業/Spring	58
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9605】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [島本 好平] 春学期授業/Spring	59
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9608】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ [林 容市] 春学期授業/Spring	60
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9631】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	61
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9629】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [木村 新] 秋学期授業/Fall.....	62
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9625】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [島本 好平] 秋学期授業/Fall	63
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9628】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ [林 容市] 秋学期授業/Fall.....	64
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9643】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	65
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9644】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [鬼頭 英明] 春学期授業/Spring	66
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9649】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ [木村 新] 春学期授業/Spring	67
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9663】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	68
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9664】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [鬼頭 英明] 秋学期授業/Fall	69
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9669】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ [木村 新] 秋学期授業/Fall.....	70
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9683】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [越智 英輔] 春学期授業/Spring	71
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9685】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [島本 好平] 春学期授業/Spring	72
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9686】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [中澤 史] 春学期授業/Spring	73
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9688】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ [林 容市] 春学期授業/Spring	75
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9703】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [越智 英輔] 秋学期授業/Fall	76
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9705】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [島本 好平] 秋学期授業/Fall	77
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9706】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [中澤 史] 秋学期授業/Fall.....	78
博士後期課程授業科目/Doctor's course_研究指導科目/Research courses 【S9708】 スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ [林 容市] 秋学期授業/Fall.....	79
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9911】 スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究/理論研究) [井上 尊寛] 秋学期授業/Fall	80
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9909】 スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究/理論研究) [木村 新] 秋学期授業/Fall.....	81
博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9905】 スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究/理論研究) [島本 好平] 秋学期授業/Fall	82

博士後期課程授業科目/Doctor's course_演習科目/Seminar courses 【S9908】 スポーツ健康学高度開発演習（実践研究／理論研究）[林 容市] 秋学期授業/Fall..... 83

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

研究デザイン・フィロソフィー

木下 訓光、中澤 史、瀬戸 宏明、片上 千恵、泉 重樹、伊藤 真紀、小田 佳子、NEMES ROLAND JANOS、井上 尊寛、苅部 俊二、島本 好平、高見 京太、木村 新、越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を研究するためには、倫理面をはじめとする基礎的で幅広い知識と技能、およびそれらを計画立てて使う方法を知ることが必要となる。そのため、本授業では、複数の専任教員が各々独自の視点から研究の在り方（フィロソフィー）と設計の仕方（デザイン）について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

受講生が、スポーツ健康学を構成するヘルス系、コーチング系、マネジメント系の各領域における研究の在り方および計画の立て方を知り、自身の研究の基礎として役立てることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、スポーツ健康学研究科の複数の専任教員が担当する。各教員は自身の専門分野を切り口に、研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	スポーツ健康学分野で研究を行う上で必須の研究倫理（含む利益相反）について理解する（木下訓光・1回）。 なお授業内であつかう資料は下記【参考書】欄に記載したので授業前に確認しておくこと。
2回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・スポーツ心理学）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ心理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、質的研究法の研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（中澤史・1回）
3回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学）	研究倫理面をはじめスポーツ健康学分野の外科スポーツ医学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する（瀬戸宏明・1回）。

4回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（ヘルスプロモーション領域・スポーツ医学・アスレティックトレーニング）	スポーツ健康学分野のアスレティックトレーニングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（泉重樹・1回）
5回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツ組織論）	スポーツ健康学分野の特にスポーツ組織論に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（伊藤真紀・1回）
6回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・体育原理・スポーツ哲学）	学校体育・スポーツ哲学分野に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（小田佳子・1回）
7回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・武道教育論）	武道教育論に関する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。修士論文作成のために必要となる研究デザイン、調査方法等について理解する（永木・1回）。
8回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・ライフスキルコーチング）	スポーツ健康学分野の特にライフスキルコーチングに関する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、質的研究法の研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（島本好平・1回）
9回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・競技力向上）	スポーツ健康学分野の特に競技力向上に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（ネメシュ・ローランド・1回）
10回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツマネジメント領域・スポーツマーケティング）	スポーツ健康学分野の特にスポーツマーケティングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる研究デザイン、調査、データの整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（井上尊寛・1回）
11回	スポーツ健康学の理解と研究課題の発見（スポーツコーチング領域・コーチング）	スポーツ健康学分野の特にコーチングに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。（苅部俊二・1回）

- | | | |
|-----|---|--|
| 12回 | スポーツ健康学の理解と研究課題の発見(スポーツマネジメント領域・スポーツマネジメント) | スポーツ健康学分野の特にスポーツマネジメントに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。(吉田政幸・1回) |
| 13回 | スポーツ健康学の理解と研究課題の発見(ヘルスプロモーション領域・健康体力づくり) | スポーツ健康学分野の特に健康体力づくりに関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、研究倫理、測定調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。(高見京太・1回) |
| 14回 | スポーツ健康学の理解と研究課題の発見(ヘルスプロモーション領域・健康科学) | スポーツ健康学分野の特に運動生理学に関連する研究と実践を進めるうえで必要となる知識と方法を理解する。また、修士論文作成のために必要となる、研究デザイン、調査、データ整理、論文執筆等の具体的な手法について理解する。(越智英輔・1回) |

【Grading Criteria/Policy】

Each professor evaluates the appropriateness in the classroom discussion and in the contents of reaction paper.

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。授業時間外でレポート作成を要する場合がある。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

その都度紹介する。

【第1回（担当：木下）】

・『ヘルシンキ宣言』（<https://www.med.or.jp/doctor/international/wma/helsinki.html>）

・『人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針（2021 制定・2022,2023 改正）』など国の機関が定めた一連の指針（<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hokabunya/kenkyujigyoku/i-kenkyu/index.html>）

・個人情報保護法

（<https://www.ppc.go.jp/personalinfo/>）

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価して0点から7点で採点する（7点×14回＝98点満点）。98点を100点に補正してS～Dの評価をする。

なお、2/3以上の出席がない場合は評価の対象外とする（E評価）。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き有意義な講義を行っていく。

科目名にあるように、個々の教員の研究に対する哲学、研究に対する計画の立て方を中心に講義を行っていく。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムを利用することがある。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Our professors on Sports and Health studies alternately present the desirable situation and own history of the research including research ethics education.

【Learning Objectives】

Students understand and utilize the desirable situation and procedure of the research on each area in Sports and Health studies.

【Learning activities outside of classroom】

nothing special

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学特論 I (心身科学)

島本 好平、博田 広樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学領域における心身科学分野の研究を紹介しながら、学術論文の読み方や執筆の仕方の基礎的技術について学習します。数量的および質的研究の理論や方法について体験的学習や文献講読などを通じて理解を深めます。

【到達目標】

心身科学分野の研究の視点を学習し、当該分野の文献を読み、理解する能力を養う。修士論文を執筆する上で必要となる基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業の前半では、心身科学に関する研究を進めていく上での主要なツールである心理尺度を取り上げます。そして、その基本的な考え方や因子分析を通じた作成方法を学び、自身の研究テーマへの心理尺度の活用についても考えていきます。後半では心身科学分野の量的・質的研究の学術論文を実際に精読することで、当該研究の特徴等への理解を深めます。また、終盤では介入研究にも話題を広げ、理論と実践の両面から研究活動を行う意義について考えます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回【担当：島本】	アクティビティ	自己理解・他者理解に関するアクティビティを通じて、受講生間の交流を深める。
第2回【担当：島本】	こころを評価する方法を知る	心理尺度の基本的な考え方について理解を深める。
第3回【担当：島本】	こころを評価する練習	既存の心理尺度を取り上げ、尺度の質問項目の作成方法について理解を深める。
第4回【担当：島本】	こころを評価する項目の作成	自らが興味・関心のある構成概念（イメージ）を取り上げ、それを評価するための項目の作成を試みる。
第5回【担当：島本】	項目の採否を決める因子分析	因子分析の基本的な考え方について理解を深める。
第6回【担当：島本】	心理尺度の活用	自身の研究テーマへの心理尺度の活用について考える。
第7回【担当：島本】	アンケート調査の実践	アンケート調査を実施する際の手続きやノウハウについて理解を深める。
第8回【担当：博田】	量的研究①	量的研究の方法を学ぶ。指導者のリーダーシップに関する文献を参考にし、量的研究の特徴を理解する。
第9回【担当：博田】	量的研究②	ライフスキルに関する量的研究の文献を精読する。事例で行われた統計分析（t検定、回帰分析）について、例題を用いて実践する。
第10回【担当：博田】	量的研究③	目標設定理論に関する量的研究の文献を精読し、スポーツ現場への応用を考える。
第11回【担当：博田】	質的研究①	質的研究の方法を学ぶ。熟達指導者に関する文献を参考にし、質的研究の特徴を理解する。
第12回【担当：博田】	質的研究②	サッカーのチームづくりに関する質的研究の文献を精読し、スポーツ現場への応用を考える。
第13回【担当：博田】	介入研究①	介入研究の方法を学習する。
第14回【担当：博田】	介入研究②	ライフスキルに関する介入研究を精読し、理解を深める。チームビルディングの概念について学習し、事例を通して理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。

2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【成績評価の方法と基準】

前半・後半の担当教員ごとに評価し、その平均点を評価点数とします。前後半ともに授業への参画状況やリアクションペーパー、各課題の提出状況等をもとに総合的に評価し点数化します。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

データを分析するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

While introducing research in the field of psychosomatic science in the field of sports and health, you will learn the basic techniques of how to read and write academic treatises. Deepen your understanding of the theory and methods of quantitative and qualitative research through experiential learning and reading literature.

【Learning Objectives】

To learn the viewpoint of research in the field of psychosomatic science and to develop the ability to read and understand the literature in the field. Acquire the basic skills required to write a master's thesis.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. It is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.

【Grading Criteria / Policy】

Evaluation is made for each instructor in charge of the first half and the second half, and the average score is used as the evaluation score. In the first half (the part in charge of Nakazawa), the resume, reaction paper, and participation status in the lesson submitted at the time of each lesson are scored and averaged to be the evaluation score for the first half.

In the second half (the part in charge of Shimamoto), we will comprehensively evaluate and score based on the status of participation in classes, reaction papers, submission status of each assignment, etc.

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学特論Ⅱ (自然科学)

木下 訓光、瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木5/Thu.5 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学を学修するために必要な自然科学系知識とその基礎の習得、および論理的・批判的・科学的思考法の習得および自然科学領域における学術論文の読み方と執筆の基礎と技術を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ健康学領域における自然科学的現象をめぐる最新の知見や事例を概観することにより、当該領域の動向について理解する。修士論文の執筆に必要な基礎的技術を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半はスポーツ医学領域の最新知見を理解するために必要となる理数科学的基礎と、スポーツ医学領域の基盤的研究テーマについて学習する。提示する参考書と文献を事前に精読し、この内容を確認しながら双方向性に講義・討議を行う。

後半はスポーツ医学領域の先端知見・研究成果について学習する。基本的に①各回のテーマに関連する文献紹介・精読、②各回のテーマに関する講義、③症例提示の3部構成で行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	生体を構成する物質 【担当：瀬戸】	生体を構成する基本的な元素、細胞構築などの微小構造、エネルギー代謝や細胞内信号応答に必要な膜構造などを学習する。 【keyword】 元素、細胞構築、組織、細胞膜
2回	運動・身体活動の生化学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学分野の重点事項であるエネルギー代謝、身体組成の基礎知識として生化学分野の基本事項を確認する。 【keyword】 糖質、脂質、アミノ酸、タンパク質、核酸
3回	運動・身体活動と物理量 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究に必要な物理量について、実験データを例示しながら単位系概念も含めて学習する。 【keyword】 単位系、仕事、仕事率、エネルギー
4回	医学研究で活用する基礎統計学 【担当：瀬戸】	スポーツ医学研究で取り扱うデータ・数値に関する統計学の基礎を学習する。 【keyword】 記述統計、カイ2乗検定、2群の差の検定、分散分析、統計学的検出力
5回	運動と細胞内シグナル伝達 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスによる細胞レベルでの応答について解説する。古典的な内分泌応答と細胞内シグナル伝達を担う伝達物質について学習する。 【keyword】 内分泌系、ホルモン受容体、ステロイド、神経内分泌学
6回	運動と免疫系 【担当：瀬戸】	運動に伴う刺激、ストレスに伴う、生体防御システム（免疫系）の基礎的事項を学習する。 【keyword】 白血球、B細胞、T細胞、サイトカイン、炎症
7回	運動介入と機能への影響 【担当：瀬戸】	運動習慣、運動療法の効果のトピックスとして、運動介入（短期的・長期的）と機能への影響の関連性について基礎的事項を紹介する。 【keyword】 運動療法、変形性関節症、長寿

8回	最大酸素摂取量とその活用 【担当：木下】	最大酸素摂取量の決定方法に関する生理学的課題について文献を紹介・精読する。最大酸素摂取量の測定方法、特に近年普及の著しいbreath by breath法とその問題点について紹介する。実際のアスリートの最大酸素摂取量を考察する。 【keyword】 最大酸素摂取量、ATP、ミトコンドリア、エネルギー基質、呼吸生理学
9回	アスリートにおける生体エネルギー論の活用 【担当：木下】	mechanical efficiencyや、誤解が多いためほとんど場合で正しく運用されていない高強度インターバルなどについて学び、トレーニングやパフォーマンスについての生体エネルギー論的考察を行う。 【keyword】 クリティカルパワー、乳酸閾値、酸素摂取動態
10回	身体組成（体脂肪率）の医科学 【担当：木下】	体組成の基礎的概念、評価方法、その妥当性・信頼性、アスリートのコンディショニング・競技力向上および臨床への応用について学習する。 【keyword】 体脂肪率、コンポーネントモデル、DXA、BIA
11回	エネルギー代謝とアスリートの減量 【担当：木下】	基礎代謝とエネルギーバランスの基礎について学習し、その評価方法、減量・リバウンドの機序などについて学習する。 【keyword】 基礎代謝、減量、energy availability、ヒューマン・カロリメーター、内分泌（ホルモン）
12回	女性選手の三徴 【担当：木下】	女性選手の三徴（female athlete triad）の歴史、概念、実態、評価法、対処・治療法についてアスリートの摂食障害、骨粗鬆症などの事例を通して学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、骨代謝、月経異常、低用量ビル
13回	アスリートの臨床栄養学 【担当：木下】	サプリメント、low energy availability、within day energy balanceなど、アスリートの栄養とパフォーマンスを考えるうえで必要な最先端の理論と臨床（対処法・治療法）について学ぶ。 【keyword】 Low energy availability、within day energy balance、貧血、ergogenic aid
14回	スポーツ心臓病学 【担当：木下】	スポーツ心臓とは何か、歴史・定義・臨床的意義・パフォーマンスとの関係などについて最新のエビデンスを踏まえて学習する。 【keyword】 心肥大、左室リモデリング、アスリート、突然死、スポーツ心臓、メディカルチェック

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】
前半の授業（瀬戸担当部分）では、事前に提示する各分野の教科書及び文献を事前に参照して授業に臨むこと。
後半の授業（木下担当部分）においては、指定した文献がある場合には精読して授業に望むこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】
特になし

【参考書】
【前半の授業（瀬戸担当部分）】
適時授業で提示する。
【後半の授業（木下担当部分）】
テーマが多岐にわたるため、課題達成に必要な参考書などは授業回ごとに紹介する。

【成績評価の方法と基準】
前半・後半の担当教員ごとに独立して評定を行い、その平均点をもって評価点数とする。前半（瀬戸担当部分）においては、各授業後に学習課題を提示し次回までに毎回提出を義務づける。提出された課題に対するレポート内容をS～Dまで評定し、これを点数化して平均したものを前半（瀬戸担当部分）の点数とする。後半（木下担当部分）においては、以下の通りである。授業内で課題を課す場合がある。関連してレポート作成を求める場合がある。また授業内で試験を行う場合がある。試験を行う場合は筆記試験または口頭試験で行う。課題の達成度、レポートの内容、試験の結果などを総合評価して点数化し、後半（木下担当部分）の点数とする。

【学生の意見等からの気づき】
特に改善を検討すべき意見なし

【学生が準備すべき機器他】
特になし。

【その他の重要事項】

後半の木下担当部分に関しては、2020年度までとは完全に授業内容を変更し、最先端の臨床スポーツ医学的テーマを扱ったうえで、「ここでしか学べないスポーツ医学」を提供する。履修者が数学や化学・物理学、生化学といった科学の基礎となる分野に関して一定の習得をしていることを前提に授業を行うので注意すること。

臨床経験および医学研究歴を有する医師（日本スポーツ協会認定スポーツドクター、日本医師会健康認定スポーツ医）が授業を行う。

各回の授業内容を継続的に積み重ねて学習していかなければ学修目標を習得することが不可能となるので、できるだけ欠席をしないこと。やむを得ず欠席をする場合には、欠席回における学習内容相応の課題を与える。

【Outline (in English)】

[Course outline] The lecture intends to provide basic and advanced knowledge of biomedical science and skills of reading and reviewing research papers of science and medicine in sports and exercise. The lecture should provide skills of writing a master's graduate thesis.

[Learning objectives] The goal of the lecture is to obtain the basic and advanced knowledge of biomedical science necessary for writing a master's thesis.

[Learning activities outside of classroom] Total hours for studying outside of classroom is estimated to be 10 hours. Students are strongly encouraged to visit the laboratory for consultation about their thesis frequently.

[Grading criteria/policy] The grading will be determined on the basis of the score of task and exercise assigned in each classroom (100%).

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学特論Ⅲ (人文社会科学)

伊藤 真紀、望月 拓実、片上 千恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究領域における研究の視点と方法論について解説を行う。本授業では、三名の専任教員が各々の専門分野に関する研究について解説し、受講者が質の高い研究を実施できるようにすることを目的とする。

【到達目標】

人文社会科学諸分野の研究論文を読み込み、スポーツ健康学における研究の在り方を理解し、必要な研究計画、データ収集、分析、考察、成果発表を行うことができる力を身に付けていく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、スポーツ健康学における人文社会科学諸分野の研究の視点や方法論を理解するための講義を中心に進める。後半部では各教員は自身の専門分野を切り口に、実際に関連論文を読み込み、討論をおこなっていく。研究倫理面、研究に対する姿勢、問題設定、研究計画の立て方等々に関する講義を行い、ディスカッションやリアクションペーパーの状況に対して評価する（オムニバス方式・全14回）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	人文社会科学の視点	スポーツビジネス現場の課題について理解する。 スポーツビジネス現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2回	研究の方法論①	社会調査の種類について理解する。 量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けられるようになる
3回	研究の方法論②	スポーツ組織論に関連する研究と理論に関する知識と方法を理解する。 スポーツ組織論に関する研究論文を読み込む。
4回	研究の方法論③ 質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の種類について学ぶとともに、質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。
5回	研究の方法論④ 質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリー化、類型化について学習し、実際に収集した質的データの分析を行う。
6回	デジタル領域におけるスポーツとマネジメント	新しいスポーツ領域であるeスポーツと新しいテクノロジー(ビデオ判定等)、観戦方法(ストリーミング観戦、VR観戦)の実態を把握したうえで、最新の研究動向を確認し文献を抄読する
7回	社会科学における研究構造の理解	実態調査研究の学術的必要性とキャリア構築における必要性を確認したうえで、レビュー研究との関連性を解説する。
8回	研究の構造解説と実践①(システマチックレビュー)	レビュー研究のバリエーションを確認したうえでフレームワーク(PRISMA)、チェックリスト(SALSA)をふまえたシステマチックレビューの解説と実践を行う。
9回	研究の構造解説と実践②(エビデンスマップ)	エビデンスマップの概要と必要性を解説したうえで、前回作成したシステマチックレビューの内容をエビデンスマップに落とし込む。

10回	研究の構造解説と実践③(プレゼンテーション)	各自が作成したシステマチックレビューおよびエビデンスマップの内容を発表し、相互の質問による討論を行う。
11回	メディア・スポーツの視点	メディア・スポーツ研究の系譜を辿り、メディア・スポーツ概念を整理する。
12回	研究の方法論① 内容分析	論文抄読を通して、メディア・コンテンツの特徴と受け手への影響力を探る内容分析の方法を学ぶ。
13回	研究の方法論② テキスト分析	論文抄読を通して、多層的なメッセージを読み解くテキスト分析の方法を学ぶ。
14回	研究の方法論③ 実践	同じ事象を取り上げた新聞報道各紙をそれぞれ設定したテーマに沿って分析し、比較を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題される。これらに計画的に取り組む必要がある。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）。

【参考書】

その都度授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

各教員（各回）が、議論への参加やレポート等を総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

授業では、理論を基に履修者がより深く考えるように進めていく。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

[Course outline]In this class, we will explain the viewpoints and research methodologies in the research fields of social and human science in sports and health sciences. In this class, three full-time faculty members will explain about their research in their respective specialties so that students can carry out high-quality research.

[Learning Objectives]Students will read research papers in various fields of humanities and social sciences, understand the nature of research in sports and health, and acquire the ability to plan necessary research, collect data, analyze, discuss, and present results.

[Learning Activities Outside of Classroom]The assignments outside of the study class will include, in turn, the creation of questions, planning of the survey, conducting the survey, and tabulation of the results. It is necessary to tackle these tasks systematically.

[Grading Criteria/Policy]Each faculty member(each session)will evaluate participants by their attitudes in discussion and reports comprehensively.

SOM50011 (社会医学 / Society medicine 500)

公衆衛生学特論

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木4/Thu.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義は、ヒトが抱える健康課題について科学的根拠に基づく背景要因の理解を通して、課題解決の方策を探る力を身に付けられるようにすることである。

【到達目標】

集団の疾病及び健康の保持増進の方策について理解し、生涯を通じての健康的なライフスタイルの形成に役立てることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「健康」、「保健統計」、「疾病とその予防」、「疫学」、「感染症」、「母子保健」「産業保健」「環境保健」について、歴史的経緯、マスメディアによってとりあげられる関連事項、実例や研究例を題材に取り上げ、興味・関心がもてるようにするとともに、講義だけでなく考え方や対処法等についてディスカッションにより掘り下げる。また、映像教材を積極的に活用する。なお、授業は対面授業を原則とし、課題に対する双方の意見交換により進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり/Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	概論と歴史	公衆衛生学の歴史と学問領域の特性について概説
2回	保健統計－人口統計－	保健統計のうち、人口ピラミッド、人口静態統計、人口動態統計及びデータの国際比較、国内の地域の実情、背景について概説
3回	保健統計－死因統計－	死因統計とは何か、どのような意味をもつのか解説するとともに、日本と諸外国との実態を比較し課題を探る。
4回	保健統計－生命表－	生命表、平均余命及び平均寿命について概説
5回	健康と疾病の概念	健康及び疾病の概念について概説
6回	生活習慣病とその予防	悪性新生物、心疾患など生活習慣がももとなる疾患について、予防方法も含めて解説
7回	感染症	感染症とは何か、問題点及び法律上の対応について概説
8回	感染症の予防	感染症の予防方法及び予防接種について解説
9回	疫学 考え方	疫学の考え方について過去の事例をもとに解説
10回	疫学－コホート研究－	疫学研究の代表的な方法であるコホート研究について事例を紹介しながら、利点、欠点も交えて解説
11回	疫学－症例対照研究－	疫学研究のうち症例－対照研究について事例をもとに利点、欠点も交えて解説
12回	母子保健	母子の健康状態の尺度となる健康指標及び法律上の対応、行政の取組について解説
13回	産業保健	労働衛生の実態及び産業保健活動について解説
14回	環境保健	公害、環境衛生及び環境保健活動について解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

日常的に公衆衛生に関する新聞記事や行政機関の動向、発信された情報に関心を持ち、目を通しておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

テーマ毎に資料を配付する。

【参考書】

国民衛生の動向

【成績評価の方法と基準】

授業毎のレポート（50%）及び最終レポート（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

少人数での実施であることから、事例について詳細な意見交換が可能であることから、学生の要望も踏まえ、大学院にふさわしい一歩踏み込んだ意見交換が継続する。

【学生が準備すべき機器他】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The purpose of this course is for students to deepen the understanding of public health, and find solutions to a challenge.

(learning Objectives)To understand the diseases of populations and measures to maintain and promote their health, and to be able to help them develop healthy lifestyles throughout their lives.

(Learning activities outside of classroom)Students should be interested in and read through newspaper articles, trends in government agencies, and transmitted information related to public health on a daily basis.

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each. (Grading Criteria/Policy)Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports : 50%, Final report : 50%

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

健康体力学特論

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火2/Tue.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、さらに学校体育に関連した体力学の基礎的知識を学習する。健康やスポーツに対し、様々な視点からみた体力の諸要素がどのように関連し、貢献するのかについて学び、理論を実践場面へ適用できる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②健康やスポーツに関わる主たる体力要素について、理論と測定法を習得する。
- ③体育科教育等の様々な場面における体力の定量的評価法およびその解釈について理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

生涯にわたる健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関する概念や理論を理解した上で、特に健康やスポーツ・身体活動に重要な体力要素を紹介していきます。また、実際の測定方法や評価方法についてもその手法を解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、一方向的な知識提供の場になることを避けるため、授業内容に対する受講者全体での討論や個別に課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

また、前回の授業で実施した内容や提出された課題に対しては、授業内で全体に対してフィードバックを行います。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動・体力の発達	体力の基礎的的概念と共に、身体の発育発達や加齢に応じた各体力要素の変化について理解する。
2回	健康関連体力：全身持久性体力の概念	健康関連体力の一つである全身持久性体力の概念と、呼吸・循環・代謝などの関連する生理学的バックグラウンドを理解する。
3回	健康関連体力：全身持久性体力の測定指標と理解	全身持久性体力の直接測定法および推定法を学び、種々の評価法を習得する。
4回	健康関連体力：筋力・筋持久力の概念	健康関連体力の一つである筋力・筋持久力の概念と生理学的バックグラウンドを理解する。
5回	健康関連体力：筋力・筋持久力の測定指標と理解	筋力・筋持久力の主たる測定法を学び、種々の評価法を習得する。
6回	健康関連体力：柔軟性の概念	健康関連体力の一つである柔軟性の概念と生理学的・解剖学的バックグラウンドを理解し、評価法を習得する。
7回	健康関連体力：身体組成の概念	健康関連体力の一つである身体組成の概念と生理・生化学的バックグラウンドを理解する。
8回	健康関連体力：身体組成の測定指標と理解	身体組成を測定する種々の測定法における測定（推定）原理を理解し、評価法を習得する。
9回	サイバネティクスの体力：調整力	身体を自在に操作するために必要な調整力について、その概念と神経生理学的なバックグラウンド、および測定・評価法を理解する。
10回	サイバネティクスの体力：敏捷性・巧緻性	身体を自在に操作するために必要な敏捷性・巧緻性について概念と神経生理学的なバックグラウンド、高齢者における特徴などを学び、その測定・評価法を理解する。
11回	パフォーマンスに関連する体力の定量化	各年代のスポーツ実践場面で特異的に必要となる種々の体力要素について、その具体的な測定・評価方法を習得する。
12回	体育科教育における体力の評価とその基準	学校体育における体力測定・調査を実施する際の具体的な手順・方法および留意点について学習する。

13回 測定結果の分析・データマイニング 体力測定結果を目的に応じて分析するための主たる方法を学習し、データから新たな体力学的知見を抽出するための手法を理解する。

14回 体力学における課題と展開 現在の体力学・体力測定における課題を学び、それを解決するために今後、体力学分野において展開が期待される研究内容について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で指示された課題の内容に基づいて授業中に頻繁に発言を求めます。課題は授業内で提示しますが、次回までに必ず予習して来てください。また、数回のプレゼンテーションを求める予定ですので、授業内で指示される準備も必ず実施して行くようにしてください。毎回の予習と復習はそれぞれ標準で2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村愼一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業への参画（討論への参画）状況：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

初めての担当のため、次年度以降学生からの意見に対応します。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This class has two objectives of learning. The first is to learn fundamental theories about physical fitness and the physical functions related to health, sports, physical activity, and school physical education. The second is to learn how physical strength elements relate to health and sports and how they contribute and acquire the ability to apply theories to practice.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concepts and constructs related to physical fitness.
2. Acquire theories and measurement methods of the primary physical fitness components related to health and sports.
3. Understand the quantitative evaluation methods of physical fitness and their interpretation in various situations such as physical education.

【Learning activities outside of the classroom】 Students are expected to speak frequently in class based on the assignments. Students must prepare for the assignments presented in each session before the next class. In addition, students will be required to prepare several presentations throughout the semester. Students are expected to have 2 hours of study time outside of class time in this course.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

健康心理学特論

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：木1/Thu.1 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

身体的・心理的（精神的）・社会的健康に対する、ライフスキル教育的アプローチを学ぶことをテーマとします。

【到達目標】

個人・集団を対象として、ライフスキル教育にもとづくヘルスプロモーションの実際を理解することを目標とします。最終的には、受講生自らライフスキルの獲得が個人の健康の維持・増進にどのように貢献するかを説明でき、その実現に向けて行動できるようになることを目指します。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

ライフスキルを構成する個々のスキルが、個人の身体的・心理的・社会的健康の維持・増進にどのようにつながるのかを学習します。また、各回ではあるテーマについてグループディスカッションを実施し、各グループからの提示されたアイデアをクラス全体でも共有することで、一人ひとりの考え方の幅を広げ、個人の中でのイノベーションの形成を促していきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方、成績評価の方法等を説明するとともに、アイスブレイクを実施する。
2回	精神的健康の維持・増進に向けて（ストレスパターン）	心理検査をもとに、自らのストレスパターンを診断する。
3回	精神的健康の維持・増進に向けて（失敗に対する肯定的認知）	失敗に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
4回	精神的健康の維持・増進に向けて（緊張に対する肯定的認知）	緊張に対する肯定的認知について学習する（認知の構造等）。
5回	精神的健康の維持・増進に向けて（アンガーマネジメント）	怒り等の感情をコントロールする方法について学ぶ。
6回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標設定）	目標を適切に設定するスキル（目標設定スキル）について学ぶ。
7回	精神的健康の維持・増進に向けて（目標と自分との距離を縮める）	自分に合った目標を設定するために必要な自己理解について学ぶ。
8回	精神的健康の維持・増進に向けて（他者とかかわり自己を理解する）	他者理解を通じて自己理解を深める方法について学ぶ（他己紹介）。
9回	精神的健康の維持・増進に向けて（自分らしさとは何かを理解する）	「自分らしさ」を見つけ、確立するための方法を学ぶ（ジョハリの窓）。
10回	精神的健康の維持・増進に向けて（性格診断から進める自己理解）	性格検査をもとに、自己理解を深めていくための方法について学ぶ。
11回	社会的健康の維持・増進に向けて（コミュニケーション）	円滑な人間関係のために必要なコミュニケーションスキルについて学ぶ。
12回	社会的健康の維持・増進に向けて（グループワーク）	グループワークを活用した、コミュニケーションスキルの高め方について学ぶ。
13回	社会的健康の維持・増進に向けて（コーチングスキル）	上下関係を円滑に進めるために必要なコーチングスキルについて学ぶ。
14回	まとめ	心身相関の考え方をもとに、これまでの一連の内容を振り返りさらに理解を深める。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ライフスキルの考え方を取れた研究計画（最終課題レポート）を、受講者それぞれのフィールドにて検討の上、提出してもらいます。本授業の準備・復習時間は、各2時間以上を標準とします。

【テキスト（教科書）】

なし。

【参考書】

授業の中でその都度紹介します。

【成績評価の方法と基準】

(1) 作成した最終レポートの内容が60%、(2) 意見交換やグループワークへの参加状況が40%です。欠席・遅刻をした場合は評価が下がります。

【学生の意見等からの気づき】

できるだけ意見交換の時間を取りながら、授業を行えるようにと考えています。

【学生が準備すべき機器他】

なし。

【その他の重要事項】

なし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the basic knowledge of life skills to students taking this course.

【Learning Objectives】

At the end of the course, students are expected to be able to practice life skills for enhancement the total health including physical, psychological and social health.

【Learning activities outside of classroom】

After each class meeting, students will be expected to spend a few hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following
 The participation attitude: 40%, The reaction paper: 20%, The final report: 40%

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ栄養学特論

小清水 孝子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水1/Wed.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ選手を主な対象として、コンディション維持・調整と体づくりのために必要な栄養学の知識と科学的理論を学ぶ。

【到達目標】

スポーツ栄養に関する基礎的知識と科学的理論を習得し、それらをスポーツ現場での栄養サポートに活用・実践できる能力を備えることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ栄養学に関する最新の文献や事例に基づき講義と議論を深めていく。また、スポーツ現場で栄養指導を実践していくうえでの課題点についても議論していく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	エネルギー消費量の評価	スポーツ選手のエネルギー消費量の考え方の特徴と測定方法について理解を深める。
2回	運動時のエネルギー補給	トレーニング状況に応じた栄養補給方法。糖質補給の必要性と摂取タイミングについて理解を深める。
3回	スポーツ選手の体づくりとたんぱく質	スポーツ選手のからだづくりに必要なたんぱく質の摂取量、摂取方法について理解を深める。
4回	ビタミンとミネラル	各種ビタミン・ミネラルの働きとコンディション維持との関連、摂取量について理解を深める。
5回	スポーツ選手の身体組成	スポーツ選手の身体組成の測定方法・データの解釈、およびパフォーマンスとの関係について理解を深める。
6回	スポーツ選手とウエイトコントロール（1）	増量時の食事管理と課題について考える。
7回	スポーツ選手とウエイトコントロール（2）	減量時の食事管理と課題について考える。
8回	スポーツ選手に多い栄養障害（1）	スポーツにおける相対的なエネルギー不足、女性・男性アスリートの三主徴について理解を深める。
9回	スポーツ選手に多い栄養障害（2）	スポーツ貧血について理解を深める。
10回	水分補給	運動時の水分補給の意義と方法について理解を深める。
11回	サプリメントとアンチドーピング	サプリメント摂取に関するスポーツ選手への教育、ドーピングとの関連について考える。
12回	試合前後の食事、遠征時の食事	試合スケジュールに応じた食事調整。遠征時の食環境の整え方について理解し、試合時の実践方法を考える。
13回	スポーツ選手の栄養管理計画立案	これまでの授業内容を基にスポーツ選手の栄養サポート計画を立案する。
14回	スポーツ選手の栄養管理計画に関して議論する。	第13回の授業で立案した栄養サポート計画を発表し、議論する。試験・まとめと解説。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で講義する内容に関して、あらかじめ配布資料等を読んで、自分の考えをまとめておくこと。

【テキスト（教科書）】

適宜資料、プリントを配布する。

【参考書】

Louise Burke & Vicki Deakin: Clinical Sports Nutrition 6th edition (McGraw Hill)

日本スポーツ栄養学会監修：エッセンシャルスポーツ栄養学（市村出版）

【成績評価の方法と基準】

授業での発表・議論への参加状況50%、期末に提出するレポート50%で総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

引き続き、スポーツ現場での栄養サポートの問題点などの事例を取り入れ、実践で活用できる内容の授業としていく。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduces the key principle of sports nutrition for elite athletes and recreational exercisers. It will cover sports nutrition for pre, during and post exercise considering various sports and body composition.

【Learning Objectives】

The goals of this course are to obtain basic knowledge about clinical sports nutrition and apply an evidence-based approach to formulate nutrition support plan for athletes and recreational exercisers.

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to have read the handouts. Your required study time is at least one hour for each class meeting.

【Grading criteria/policy】

Your overall grade in the class will be decided based on the following attitude in class 50%, term-end report 50%.

SOM50011 (社会医学 / Society medicine 500)

運動器疾患特論予防と対処特論

安藤 正志

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

筋肉や関節（スポーツ傷害も含む）傷害と予防について学びます。筋骨格系障害の発生のメカニズムおよび予防とリハビリテーションを理解する。また、痛みの対処法や個々の筋肉をストレッチする方法を体験する。

【到達目標】

この授業を学ぶことで以下のことを理解できます。
 スポーツ傷害を予防する方法
 運動器疾患発生のメカニズム（なぜその関節に傷害が発生するか）
 関節部位の機能解剖と触診（どの筋が収縮すると関節が動くのか）
 肩関節の障害はどのように診るべきか
 肘、手関節の障害はどのように診るべきか
 股関節の障害はどのように診るべきか
 膝、足部障害の診方
 各関節に発生する障害を予防するためには
 傷害が発生した場合、その対処方法（外科的治療、リハビリテーション、メディカルトレーニング）をどのように進めるべきか。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

各部位の機能解剖を理解するために多くのセラピストやトレーナーがバイブルにしているカバンディのテキストを紐解く。特殊な機器を用いずに運動器の障害を機能診断する徒手医学による機能診断学を学ぶ。また徒手療法手技による対処方法あるいは機能改善を目的としたメディカルトレーニングの方法を考える。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動器疾患（スポーツ傷害を含む）の成り立ちと機能診断のみかた	概論、運動器疾患治療の歴史、専門用語の理解、手順など。個々の筋力を測定手順、各関節の可動性の測定手順、バランス機能の測定手順など用具や測定機器の紹介をする。実際の使用は2回目以降に分散して実施する。
2回	肩関節障害の予防と評価および対処方法	肩関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価する。また肩障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
3回	肘関節障害の予防と評価および対処方法	肘関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価する。また肘障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
4回	手、手指関節障害の予防と評価および対処方法	手、手指関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価する。また手・手指障害の予防方法を理解することを授業目標とする。
5回	股関節障害の予防と評価および対処方法	股関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価する。またその予防方法を理解することを授業目標とする。
6回	膝関節障害の予防と評価および対処方法	膝関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
7回	足、足部関節障害の予防と評価および対処方法	足、足部関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。
8回	骨盤障害の予防と評価および対処方法	腸骨、仙腸関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。

9回	腰椎障害の予防と評価および対処方法（特に軟部組織障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（軟部組織）
10回	腰椎障害の予防と評価および対処方法（特に椎間板や関節障害）	腰椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、また治療手技を理解することを授業目標とする。（椎間板、関節）
11回	中下部頸椎（C2～T3）障害の予防と評価および対処方法	中下部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価できる。またその予防方法を理解することを授業目標とする。
12回	上部頸椎障害（後頭下関節～C2）の予防と評価および対処方法	上部頸椎の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、またその予防方法を理解することを授業目標とする。
13回	顎関節障害の予防と評価および対処方法（特に開口障害）	顎関節の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を徒手的に評価でき、またその予防方法を理解することを授業目標とする。
14回	胸部・肋骨障害の予防と評価および対処方法（肋間神経痛・吸気呼吸機能の障害など）	胸部・肋骨の骨学、筋および運動学を理解して、触診ができ、その機能を評価できる。またその予防方法を理解することを授業目標とする。肺活量を胸部トレーニング前後に測定し、変化していることを確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

解剖学、機能解剖の理解（機能解剖学あるいは解剖学と運動学に関する科目を修得しておく必要がある）本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。他には主な骨名や筋肉名が理解できていること。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業中に出された実習課題（50%）、宿題に出された課題（50%）

【学生の意見等からの気づき】

少人数であったので一人一人の指導時間がとれた。講義、実技、課題発表のバランスを考慮しながら進めたい。

【その他の重要事項】

ある程度の機能解剖学あるいは運動学と解剖学に関する知識があること。骨や骨部位の名称（例：大腿骨、大腿骨頭など）、主要な筋名（例：大腿四頭筋、上腕二頭筋など）、関節の動き（屈曲、伸展など）がわかること。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Understand the basic methods of reseachs of rehabilitation.

【Learning Objectives】

Understand about body and health.

【Learning activities outside of classroom】

Students should research the body and health in the title of the lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Grades will be determined by regular exams and reports.

SOM50011 (社会医学 / Society medicine 500)

学校保健学特論

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義の目的は、学校保健の理解を深め、子どもの健康課題解決の方策を提案できる能力を身に付けることである。

学校保健の領域を構成する保健管理、保健教育について基本的な知識を身に付けるとともに、課題解決のために考えられる方策について議論を深めながら理解を深め、実践力が身に付けられるようにする。

【到達目標】

学校保健の全体構造及び児童生徒の健康に係る課題の理解を通して、その重要性が認識できるようにするとともに教員等が果たす役割について身に付け、学校保健に関する実践力を身に付けることができるようにする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

「学校保健の歴史」、「学校保健の領域構造」、「関連する法律」を基礎とし、学校保健に関わる人的配置が「保健主事」「養護教諭」「学校三師」であること、その上で「学校保健活動」が実施されていること、さらには学校保健の中核となる領域は「保健教育」と「保健管理」であり、児童生徒の現代的な健康課題に対応するためには、その理解と効果的な教育や管理が必要であることについて、全体を通じて有機的なつながりを意識しながら進めていく。実態や実践事例を題材とし、ディスカッションを通じて理解を深める。原則、対面授業とし、課題解決型の授業振興とする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	学校保健の概要	学校保健の概要について保健教育、保健管理の各視点から解説。
2回	学校保健の歴史	学校保健が歩んできたこれまでの歴史的経緯について解説。
3回	学校保健の領域構造	学校保健の領域を構成する、保健教育、保健管理、組織活動についてそれぞれの意義を解説。
4回	関連する法律 －学校保健安全法を中心として－	学校保健の法的根拠となる学校保健安全法を中心に内容について詳説。
5回	保健主事と養護教諭	学校保健の中心的役割を担う保健主事及び養護教諭についてその職務内容を解説。
6回	学校三師とは	学校保健を側面から支援する学校医、学校歯科医、学校薬剤師についてその役割を解説。
7回	学校保健活動	学校保健活動とは何か、学校と家庭や地域をつなぐ連携の在り方について解説。
8回	保健教育	保健教育を構成する保健学習、保健指導について解説。
9回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －喫煙、飲酒－	児童生徒の現代的な健康課題について喫煙、飲酒を中心に取り上げ解説。
10回	児童生徒の健康に関する現代的課題と対応 －薬物乱用、性の逸脱行動－	児童生徒の現代的な健康課題について薬物乱用、性の逸脱行動を中心に取り上げ解説。
11回	保健管理の概要	保健管理の概要について解説。
12回	健康診断	保健管理のうち、対人管理として重要な健康診断の内容について解説。
13回	学校環境衛生総論	保健管理のうち、対物管理として学校環境衛生を取り上げ解説。
14回	学校環境衛生各論	学校環境衛生基準を題材とし、教室環境、飲料水、プール等、学校環境衛生について各論として取り上げ解説。実験演習を実施。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

児童生徒や学生に関わる健康課題、問題行動について関心をもち、マスメディアが発信する情報や文部科学省から発信される情報を収集し、問題点や動向について認識を深めることにより、問題意識を高めておくこと。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義内容に応じた資料を作成し配布

【参考書】

改訂8版学校保健マニュアル（南山堂）、学校保健実務必携（第一法規）

【成績評価の方法と基準】

レポート課題100%

【学生の意見等からの気づき】

授業時において理解が困難な点や改善点は学生との双方向の意見交換を実施することにより理解の徹底を図る

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The purpose of this course is for students to deepen the understanding of school health, and make proposals to find solutions to challenge.

(Learning Objectives)

At the end of the course, students are expected to understand school health and to get the practical skill for teacher.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policies)

Your overall grade in the class will be decided based on reports(100%)

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

体力・機能測定評価演習

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

健康やスポーツ・身体活動、学校体育に関連した体力およびそれに関する諸機能について、概念と基礎的理論を学習する。身体活動に関連する体力や身体諸機能を適切に測定し、評価しうる能力を習得する。

【到達目標】

- ①体力・身体機能に関わる一般的概念・構成を理解する。
- ②種々の体力要素について、理論と具体的な測定・評価法を習得する。
- ③種々の体力要素の測定結果を、様々な場面に適用できる実践力を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

身体活動を対象とした研究の実践時に重要な体力要素を取り上げ、その概念や具体的な測定方法を学ぶ演習を行います。また、実際の測定方法に加え、エビデンスに基づく評価方法について解説し、実際に使用する上での実践力の習得を目指します。

授業においては、演習における活動に加え、受講者全体での討論や課題提出の機会を設けます。そのため、授業においては、受講者の積極的な参加が重要となります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	体力・身体活動研究における現状の理解	体力学、身体活動研究における現状や概念を理解し、測定・評価法の歴史を学ぶ。
2回	人体の大きさ：体重と身体組成の生理学的背景と概念	体重、体型、身体組成について、体力的・生理学的側面から学習する。
3回	人体の大きさ：形態計測と体型指数の実際	形態計測と体型指数について、その具体的な方法を学ぶ。
4回	人体の大きさ：身体組成測定の実際	身体組成の具体的な測定方法を学ぶ。
5回	人体の大きさ：測定結果の分析と解釈	身体組成の測定結果の分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
6回	骨格筋活動：生理学的背景と測定法の理解	身体各骨格筋に関して、その収縮を司る神経系活動や収縮レベルに関与する生理学的背景について学習する。
7回	骨格筋活動：筋電図計測の実際	骨格筋活動を間接的に把握する筋電図の計測方法を習得する。
8回	骨格筋活動：筋電図の分析と解釈	計測された筋電図データの分析方法および結果の評価・解釈法について理解する。
9回	エネルギー代謝：概念・生理学的背景	基礎代謝および運動時のエネルギー代謝について、生理学的側面から概念・測定原理を理解する。
10回	エネルギー代謝：直接測定法の理解	安静時および身体活動時における呼気ガス分析を用いたエネルギー代謝測定法を習得する。
11回	エネルギー代謝：間接測定（推定）の実際	身体活動時のエネルギー代謝を簡易に推定する方法を習得する。
12回	エネルギー代謝：測定結果の分析と解釈	測定されたエネルギー代謝の結果を用いた安静時代謝量の計算や、身体活動中の糖・脂質代謝の計算方法を習得する。
13回	身体活動量・運動習慣：概念と調査法の理解	身体活動量の概念、運動習慣の定義などを学び、これらを測定する意義について学習する。
14回	身体活動量・運動習慣：調査の実際と分析法の理解	身体活動量の測定結果、および運動習慣調査などの結果について、具体的な分析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

5, 8, 12回においては、各体力要素の測定法演習の結果を取りまとめる簡易レポートの提出を求めます。また、3, 4, 7, 10, 11, 14回においては、授業内で測定したデータの取りまとめを授業時間外で行う必要があります。各授業における教員からの指示に従って、授業外学習を進めて下さい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

【参考書】

・健康づくりのための体力測定評価法/田中喜代次他（編）/金芳堂
・健康・スポーツ科学のための動作と体力の測定法/出村慎一（監）/杏林書院

【成績評価の方法と基準】

授業での演習の状況（討論への参画状況を含む）：60%、プレゼンテーション（資料等の評価も含む）：40%

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The learning objective of this class is to acquire the ability to accurately measure and evaluate physical fitness and physical functions related to physical activity.

【Learning Objectives】 By the end of the course, students should be able to:

1. Understand the general concept and structure of physical fitness and physical functions.
2. Acquire the theory and specific measurement and evaluation methods for various physical fitness components.
3. Acquire practical skills to apply the measurement results of various physical fitness components to various situations.

【Learning activities outside of the classroom】 In sessions 5, 8, and 12, students are required to submit a short report summarizing the results of the measurement exercises for each physical fitness element. Students must compile the data measured outside the class time in sessions 3, 4, 7, 10, 11, and 14. Please follow the instructions given by the instructor in each class and study outside the class. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】 Grading will be decided based on participating in the discussion on the session (60%), the presentation, and the evaluation of materials(40%).

SOM5001I (社会医学 / Society medicine 500)

運動疫学演習

笹井 浩行

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

運動疫学とはヒトにおける運動と健康の間に原因と結果の関係（因果関係）があるかどうかを明らかにする学問である。100人の血圧を測定し、その中で血圧が高い20人を2群に分け、A群には運動指導を、B群には「おまじない」をして1週間後に血圧を測定すると両群とも平均血圧は（ほぼまちがいに）低下する。このような研究デザインだと運動指導だけでなく「おまじない」にも降圧効果があることになってしまう。本授業では、このようなヒトを対象としたスポーツと健康に関する研究のピットホール（落とし穴）を解説するとともに、科学的に正しい研究結果を生み出す研究デザインを紹介し、ヒト集団を対象に実施されたスポーツと健康に関する研究結果を適切に理解できる能力を養うとともに、研究デザインを適切に立案できる能力を養う。なお、スポーツ健康学の文脈においてはスポーツ傷害やスポーツパフォーマンスも扱う。

【到達目標】

- ① 運動疫学に関する基本的な考え方、基本用語、基本統計を学ぶ。
- ② 運動疫学に限らずスポーツ科学全般における研究結果を適切に理解できる能力を養う。
- ③ 運動疫学研究の研究デザインを適切に立案できる能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントで作成した教材と数多くの先行研究や総説（叙述レビューおよび系統的レビュー）を通じて運動疫学研究の基本を理解するだけでなく、各テーマについて討議することによって理解を深める。また、研究結果を理解したり、研究を実施したりする場合に陥るピットホールの種類や危険性を具体例を通じて理解することにより、適切な研究デザインによって生み出された研究結果とはどのようなものであるかを理解する。さらに、講義や討議によって得られた知識を実習（修士論文の計画策定・発表）を通じてしっかりと身に着ける。

※授業は原則として対面でおこなう。ただし、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況によっては、大学の方針に従って授業はオンライン（リアルタイム双方向型）と対面を織り交ぜながら進めることがある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	運動疫学の基本および考え方	ガイダンス・自己紹介（講師、学生）・疫学のイメージ・疫学の基本や考え方について解説
2回	信頼性の高い健康情報とはどのような情報かを解説	信頼性の高い健康情報に関する解説と討議・ヘルスリテラシーに関連するピットホール（落とし穴）の紹介
3回	科学的根拠に基づく医療（EBM）およびスポーツ科学（EBSS）	科学的根拠（エビデンス）について解説・EBMおよびEBSSの概要や基本的な考え方を解説
4回	疫学の基本用語・基本統計・ピットホール（落とし穴）の紹介	疫学の基本用語を解説・基本統計の紹介・疫学研究におけるピットホールの代表（選択バイアス、交絡等）を解説
5回	記述疫学研究の概要紹介	記述疫学研究の概要を説明・記述疫学研究として国民健康・栄養調査や各種統計調査を紹介し解説
6回	地域相関研究の概要紹介	地域相関研究の概要を説明・地域相関研究として二ホンサン研究や赤ワインと心臓病に関する研究等を紹介し解説
7回	横断研究の読み方、やり方	横断研究の概要とピットホールを紹介・横断研究の読み方や実施方法を解説
8回	症例対照研究の読み方、やり方	症例対照研究の概要とピットホールを紹介・症例対照研究の読み方や実施方法を解説
9回	コホート研究の読み方、やり方	コホート研究の概要とピットホールを紹介・コホート研究の読み方や実施方法を解説

10回	ランダム化比較試験の読み方、やり方	ランダム化比較試験の概要とピットホールを紹介・ランダム化比較試験の読み方や実施方法を解説
11回	実習 オリエンテーション・研究疑問の検討	修士論文の計画発表（授業で紹介した疫学研究手法を用いて研究疑問の解決に向けた研究デザインを構築）の進め方を説明。各自で研究疑問に関連する先行研究について文献調査。先行研究を参考にリサーチクエスチョンを解決するための研究デザインを立案
12回	実習 修論の研究デザインの立案	パワーポイントを用いて、立案した修士論文の研究デザインの紹介スライドを作成
13回	実習 修論の研究デザインの発表準備	立案した修士論文のデザインを学会形式で発表し、質疑応答を通じて運動疫学に対する理解を深める
14回	修論の研究デザインの発表と授業の総括	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業前に、予習として授業テーマに関する事項をインターネット等を利用して確認しておくこと。各授業後には復習として授業で学んだ部分について参考図書を読んで内容を確認すること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特定のテキストは使用せず、毎回、関連文献・関連総説・資料等を配布する。

【参考書】

- ・はじめて学ぶやさしい疫学（改訂第3版）
- ・基礎から学ぶ楽しい疫学（改訂4版）
- ・身体活動・座位行動の科学～疫学・分子生物学から探る健康～
- ・医学的研究のデザイン：研究の質を高める疫学的アプローチ

【成績評価の方法と基準】

出席（20%）に加え、授業における積極的な発言や質問等の授業態度（30%）、文献紹介や研究計画プレゼンテーションの内容や発表態度、質疑応答内容（50%）により評価する。

【学生の意見等からの気づき】

クラスサイズが小さいため、各受講生の研究内容や個別の要望を聞き、適宜修正しながら授業を展開する。

【学生が準備すべき機器他】

プレゼンテーションができるよう、プレゼンソフトが入ったノートPCを毎回の授業で持参すること。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

Exercise epidemiology is an academic discipline to explore the cause-and-effect relationship between exercise and health in humans. This course will provide an overview of the epidemiological research designs and explain how to identify and avoid the pitfalls in sports and health studies. Sport-related injury and sports performance will also be addressed in this course.

【Learning Objectives】

Learning goals of this course were;

- (1) To learn basic concepts, terminology, and statistics related to exercise epidemiology.
- (2) To develop the ability to appropriately understand research findings written in English-language academic articles in sports and health studies.
- (3) To foster the ability to design research plans appropriately using the knowledge in exercise epidemiology.

【Learning activities outside of classroom】

Students are encouraged to prepare for each class by learning the topics using the Internet or related materials in advance. Then, they are expected to review the contents covered in class. The total time needed to prepare and review each class will be approximately 2 hours.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be relied on attendance (20%), class contributions (30%), and presentations, including performance in question and answer sessions (50%).

MAN50011 (経営学 / Management 500)

スポーツマーケティングリサーチ演習

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：木3/Thu.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究や実務においても重要となるデータマイニングやテキストマイニングといった定量的な情報の扱い方について理解を深めていく。具体的にはマーケティング実行のプロセスの基礎的な情報である消費者の行動や特性を把握するための実践的な能力を身に付ける。

【到達目標】

マーケティングをおこなううえで、経営上の課題を発見し、解決するための方法（リサーチデザイン・分析および統計解析の手法）を理解していること、さらにはリサーチを自ら活用（実務者の立場からのインプリケーションを行うこと）する能力を高めることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義では、講義部分としてマーケティングリサーチの概要および統計的な分析の手法を学んだうえで、演習として我が国を代表するプロスポーツであるプロ野球やJリーグなどの実際のプロスポーツ興行に会場した観戦者を対象とした定量調査を実施し、調査の手法についての学習および得られたデータの解析をおこなうものである。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	マーケティングリサーチの概要	マーケティングリサーチの概要及びリサーチのプロセスについて解説する
2回	課題設定	スポーツビジネスにおける経営的な課題を考え、調査すべき課題について検討していく
3回	調査の種類	国内外の調査研究から調査の事例や、尺度について解説していく
4回	定量データの扱い方①	SPSSについて、基礎的な使用法について解説する
5回	定量データの扱い方②	基礎集計（度数分布、記述統計、平均値、中央値）について学習する
6回	定量データの扱い方③	t検定および χ^2 検定、一元配置の分散分析について学習する
7回	定量データの扱い方④	二元配置の分散分析、重回帰分析について学習する
8回	定量データの扱い方⑤	探索的、確認的因子分析について学習する
9回	定量データの扱い方⑥	テキストデータの解析について学習する
10回	リサーチデザイン	調査項目の検討や妥当性について検討し、適切な調査を行うための準備を行う
11回	質問紙調査の作成	各自が設定した課題に対して仮説を設定した質問紙調査の作成および、データ入力後の準備（SPSSのシタックスの作成等）を行う
12回	フィールドサーベイ	スタジアム等で調査を行う
13回	サマリーの作成	得られたデータを入力し、集計作業を行う
14回	調査報告書の作成	得られたデータからさらに、自らの課題を踏まえ、分析を行い、報告書をまとめる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

SPSSについては与えられたデータセットから、分析および統計解析の手法について事前の学習と事後の復習を行うことが望ましい。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

その都度紹介する。

【参考書】

その都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業にて課す課題報告(40%)、レポートおよび実査から得られたサマリー報告(60%)などから総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

実査スケジュールを早目に公開し、早めに調整を図っていく

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)This course is an introduction to the basic elements of marketing research. Students will learn how to collect data, analyze the results, and interpret and report conclusions drawn from the findings. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can conduct marketing research. (Learning objectives)The goals of this course are set a research subject for a certain theme, make a hypothesis for a task, create a survey form that is easy to answer, understand and using analysis methods from simple aggregation to multivariate analysis, learn how to use the statistical analysis software spss. (Learning activities outside of classroom)Before each class, students are expected to read relevant book and articles. (Grading criteria)The grade is comprehensively evaluated by questionnaires (40%), analysis / reports (60%).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツマネジメント特論

齋藤 れい

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月1/Mon.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義において、受講者はスポーツをプロダクトとして捉え、それに関わる事業をスポーツビジネスとみなすスポーツマネジメントの理論と実践を総合的に学習する。

【到達目標】

本授業の到達目標は以下のとおりである：

1. スポーツマネジメントがビジネスマネジメントの一つとして登場し今日に至った歴史的経緯を説明することができる。
2. スポーツ組織の内部環境のマネジメント（組織論、施設管理）について理解し、その実践方法を説明することができる。
3. スポーツ施設の外部環境のマネジメント（マーケティング）について理解し、その実践方法を説明することができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業はスポーツマネジメントの主要分野とそれらに対応する事例に焦点を合わせながら、スポーツマネジメントを総合的に学習する。受講者は事前に配付資料を読み、各トピックについて予め疑問や問題意識を準備して授業に臨まなければならない。

また感染症などの社会情勢により、授業計画、授業の方法、成績評価の方法を変更する可能性がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンスおよび導入	講義の概要の説明を受けるとともに、スポーツマネジメントの導入の授業を受ける。
2回	スポーツマネジメントとは	ビジネスマネジメントとしてのスポーツマネジメントの定義、設立・発展の背景、現状について理解を深める。
3回	スポーツ産業とは	スポーツマネジメントの対象分野となるスポーツ産業の具体的な個別産業領域、それぞれの市場規模、これまでの発展の経緯、そして今後成長が期待できる産業について理解を深める。
4回	スポーツ組織論：計画、組織化	スポーツ組織論の中でも、事業の計画と担当部署の組織化について、企業理念、使命、方向性、目標、組織構造などの組織的コンセプトとともに学習する。
5回	スポーツ組織論：実行、評価	スポーツ組織論の中でも、所属メンバーの動機づけと事業評価について、マネジメント理論とともに学習する。
6回	スポーツ消費者行動	スポーツ観戦者とスポーツファンは異なる。スポーツファンはある日突然誕生するのではなく、何らかのきっかけや刺激による心理的・行動的変化を必要とする。ここではファンの誕生のメカニズムについて学習する。
7回	スポーツマーケティング	多様化する消費者ニーズを充足するスポーツプロダクトの創造に向け、最新のサービス中心の論理を含めたスポーツマーケティングコンセプトについて議論を展開し、その理解を深める。
8回	ブランドマネジメント	コアスポーツプロダクトとサービスマーケティングミックスを統合し、魅力的で一貫したブランドイメージの形成に欠かすことのできないブランドマネジメントのロジックについて学習する。

9回	マーケティングミックス	スポーツ消費者のニーズを満たし満足度を高めるため、スポーツ組織は様々な働きかけを行う。この活動をマーケティングミックスと呼び、それぞれの要素の特徴について学習する。
10回	スポーツスポンサーシップ	アスリート、チーム、リーグなどの知名度を生かしてプロモーション活動を展開するスポーツスポンサーシップのロジックを学習するとともに、現代社会のスポンサーシップのあり方と今後の方向性について議論する。
11回	スポーツ施設マネジメントの基礎	大規模施設、エンターテインメント事業、指定管理者制度、ITテクノロジーなどの経営要素とともに、スポーツ施設のマネジメントについて考える。
12回	スポーツ施設マネジメントの今後：第二局面のスポーツ施設	2000年以降、スポーツ「しか」見せない第一局面のスタジアムから、スポーツだけでなく多様なサービス「も」提供する第二局面のスタジアムへの転換が起こっている。こうした変化の背景を学習するとともに、第二局面のスタジアムが生み出す様々な効果について理解する。
13回	スポーツレガシーのマネジメント	スポーツイベントの開催において、大会の成功だけでなく、そのイベントが地元地域にもたらす恩恵を長期に渡って根付かせることが重要である。この恩恵はレガシーと呼ばれ、有形レガシーと無形レガシーの二つに分かれる。本授業ではこのレガシーについて理解を深める。
14回	スポーツマネジメントのまとめ	現代社会におけるスポーツマネジメントの重要性を振り返り、その位置づけと今後の展望について理解する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講者は事前に配付される資料を読んで内容を予習するとともに、予め疑問や感想をまとめ、授業に参加してください。本授業の準備学習・復習時間は各1時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回、資料を配付する）。

【参考書】

原田宗彦（編）（2021）スポーツ産業論（第7版）. 杏林書院：東京。
 仲澤真・吉田政幸（編著）（2017）よくわかるスポーツマーケティング. ミネルヴァ書房。
 原田宗彦・小笠原悦子（2008）スポーツマネジメント（スポーツビジネス叢書）. 大修館書店：東京。

【成績評価の方法と基準】

小レポート：10点×10回

【評価基準】

10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章の精度が非常に高い。
 8点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加えており、問いに対して合理的な説明を加えている。
 6点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分自身の視点から考察を加え、論じている。
 4点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつ論じている。
 2点：授業の内容を踏まえて論じている。
 25点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、さらに問いに対して合理的な説明を加え、文章的にも論旨を明確に伝えることができている。
 20点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いており、問いに対して合理的な説明を加えている。
 15点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から書いている。
 10点：授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いつつ書いている。
 5点：授業の内容を踏まえて書いている。

【学生の意見等からの気づき】

一方的な講義にならないよう、現在のスポーツ界で起きているマネジメント関連の問題を授業で取り上げ、皆で議論します。

【学生が準備すべき機器他】

マイクロソフトオフィスを使用できるノートパソコンなど

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English) (Course outline)】

This course considers sports as products and their projects and practices as sports businesses. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the sport management field.

(Learning objectives)

The goal of this course is to understand sport management principles such as organizational behavior and sport marketing at the master's level.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on ten short reports (10 short reports X 10 points).

ECN50011 (経済学 / Economics 500)

スポーツ産業学特論

片上 千恵

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水2/Wed.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

従来のスポーツ産業においては、用品産業、施設・空間産業、情報産業の3つの領域は独立し存在していた。しかしながら、近年スポーツ健康への関心の高まりや消費者のライフスタイルの多様化などを背景にスポーツ健康産業の市場が拡大し、それぞれの領域が密に接し、ついには交わるようになっていく。この複雑な産業構造や要素間の関係を理解し、スポーツその持つ価値を最大化し、かつ収益性を高めるということを踏まえつつ、スポーツそのものにダイナミズムを与えるスポーツ健康産業論を展開する。

【到達目標】

本講義では、スポーツ産業についての理解を深めることを目的としている。具体的にはスポーツを商品として捉えた場合の商品特性や多様化するスポーツサービス業についての構造的な理解と現代的な経営課題について学んでいく。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

多様化するスポーツ産業について、消費者行動や商品開発、ブランディングなど経営戦略やマーケティングなどの視点から解説していく。本授業は講義形式でおこないます。毎回のテーマに関する感想をまとめて授業の最後に提出してもらう予定です。授業ではプロジェクターを使用する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	受講ガイダンス	スポーツ産業の産業構造について解説するとともに、授業の狙い、進め方なども併せて説明する
2回	スポーツ産業の産業構造	スポーツ産業の歴史と実態さらに抱えている問題について解説する
3回	スポーツプロダクトとライフサイクル	スポーツを商品として捉え、その特性や商品としてのライフサイクルまたはマーケティングについて解説していく
4回	スポーツサービス産業	スポーツサービス業の目的・形態について歴史的な推移と共に解説していく
5回	スポーツとメディア産業	スポーツの産業化とメディアの関係およびメディア産業の発展について考察する
6回	スポーツ用品産業	スポーツブランドのマーケティングやブランディングについて考察していく
7回	スポーツツーリズム	スポーツイベントとツーリズムの関係について解説していく
8回	スポーツと地域	スポーツイベントやプロスポーツクラブが地域に与える影響について考察していく
9回	フィットネスクラブのマネジメント	民間のフィットネスクラブについて歴史的な変遷や形態およびサービスの変遷について考察していく
10回	公共スポーツ施設のマネジメント	公共スポーツ施設のマネジメントについて現代的な課題およびサービスについて解説していく
11回	スポーツとCSR	CSRについての理解を深めるとともに、スポーツ組織におけるCSRについて考察していく
12回	スポーツとソーシャルインパクト	スポーツイベントが社会に与えている影響について考察するとともに、ソーシャルインパクトを創出する方法や意義について解説していく
13回	メガスポーツイベント（五輪のマーケティング）	オリンピックの近代化や商業化のプロセスを解説する
14回	メガスポーツイベント（サッカーW杯のマーケティング）	サッカーワールドカップの近代化や商業化のプロセスについて解説するとともに、FIFAの世界戦略やマーケティングについても解説していく

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

適宜指示する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

『よくわかるスポーツマーケティング』、仲澤真・吉田政幸 編著、ミネルヴァ書房、2017年

【成績評価の方法と基準】

授業参加状況(感想や理解度の確認のための小テストなど授業内に実施する提出物)(10%)や期末のレポートの内容(90%)から総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

受講者の要望に沿った内容も適宜盛り込んでいきたい

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)The sport industry includes the sport goods, service, and construction segments. (Learning Objectives) This course is an introduction to the fundamental elements of the sport industry. Upon successful completion of this course, students will be able to understand how they can synthesize and apply basic theories, concepts, and practices related to each segment of the sport industry. (Learning activities outside of classroom) Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than two hours for a class. (Grading Criteria) Your overall grade in the class will be decided based on the following Term-end examination: 10%, final report : 90%.

ECN50011 (経済学 / Economics 500)

スポーツ健康政策学特論

海老島 均

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

オリンピックに代表されるエリートスポーツを推進させる政策、また一般市民を対象としたスポーツによる健康政策、一見異なるレベルにおけるスポーツ関連政策に、いかに連続性を見いだしていくのか？ 諸外国の実情および我が国の国家レベルまたは地方自治体レベルでの取り組みを踏まえながら議論を進めていく。受講生が、スポーツや健康をめぐる最新の動向、また各受講生の研究テーマを政策に関連づけることができることを目的とする。

【到達目標】

エリートスポーツ・競技スポーツ環境整備政策の特徴、健康政策の特徴を把握し、目指すべき方向性に向けての政策立案、選択をできるようにする。また両者の連続性、共存性に関する知識を深める。

国内外のスポーツ健康政策の現状を理解し、その比較検討から、我が国の将来に向けてのスポーツ健康政策に関する戦略を受講生個々が提案できるようにする。

By the end of this course, students should be able to do the followings.

-to understand the characteristics of elite sport, competitive sport, community sport and sport for health

-to create the policy to promote different type of sport in order to meet various needs from the public

-to acquire the profound knowledge of the pathway from the community sport to the elite level.

-to be able to plan the strategy for the future development of sport and health promotion in our country.

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

海外のスポーツ健康政策に関する調査事例を紹介するとともに、インターネット等を通して受講生個々が調査分析する機会を持つ。また我が国のスポーツ健康政策に関してはフィールドワークを行う機会を提供し、それぞれの調査結果をもとに議論を重ねる。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	イントロダクション：スポーツ健康政策の社会的背景	世界におけるスポーツ健康政策の現状と課題に関して紹介していく。講義の流れに関しても解説する。
2回	我が国のスポーツ健康政策の経緯	我が国のスポーツ健康政策がどのような変遷を経てきたか、その歴史に関して理解を深める。
3回	我が国のスポーツ政策の現状と課題	スポーツ振興基本計画、スポーツ立国戦略、スポーツ基本法によって発展したこと、また課題について考える。
4回	諸外国のスポーツ政策の分析①（イギリス、アイルランド）	我が国と同様に学校スポーツが盛んな両国のスポーツ政策戦略を学ぶ。
5回	諸外国のスポーツ政策分析②（ドイツ、オランダ、フランス）	地域スポーツクラブがスポーツ実践の基盤となるヨーロッパのスポーツ大国の戦略について学ぶ。
6回	まちづくりと日常的身体活動・スポーツ（コンパクトシティと市民の健康）①	ヨーロッパの都市に多く見られるコンパクトなまちづくりは人々の日常的な身体活動（徒歩や自転車での移動）を活性化させ、人々の健康、コミュニティの活性化に大きな影響を与える。この観点について考える。
7回	まちづくりと日常的身体活動・スポーツ（コンパクト・シティと市民の健康）②	我が国で展開されているコンパクトシティ構想（富山市、宇都宮市等）の事例に関して詳細に検討し、今後のまちづくりと市民の健康の関係性について考える。
8回	スポーツ健康政策と「新しい公共」	「新しい公共」の概念と理解とスポーツ政策や健康政策策定に与える影響について考える。

9回	地方自治体とスポーツ健康政策	わが国の地方自治体で展開されているスポーツ健康政策に関して、その現状と課題を議論する。
10回	NPOやボランティアのマネジメント	コミュニティ・スポーツの発展にNPOやボランティアの果たす役割について事例をもとに考える。
11回	総合型地域スポーツクラブ構想について検証する	総合型地域スポーツクラブの成功事例、課題に関して学び、今後のスポーツ健康政策策定に向けて考える。
12回	学校スポーツと地域スポーツの相互補完関係に関して考える	2023年度からスタートした中学校の課外活動の地域移行に関して現状および今後の課題に関して検討する
13回	スポーツ環境におけるパスウェイ形成の方策に関して	グラスルーツからエリートスポーツへのシームレスな連携をつくる方策に関して諸外国の事例の比較から考える
14回	スポーツ健康政策の方向性とアクターについて	我が国の健康スポーツ政策の目指すべき方向性、アクターの役割について考える。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の授業で、次週に向けての課題図書を紹介または資料を配布する。それらを熟読し、テーマに関しての理解を深める。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。必要に応じてテーマに応じた参考図書、URLを紹介する。

【参考書】

菊幸一他編著『スポーツ政策論』成文堂、2011、日本体育・スポーツ政策学会監修『スポーツ政策学』成文堂、2024、その他必要に応じてテーマに応じた参考図書、URLを紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業時の議論やリアクションペーパーの評価：60%

最終レポートの評価：40%

【学生の意見等からの気づき】

各受講生の研究テーマに即した学びを深める機会をより一層提供できるように努力したい。

【その他の重要事項】

原則対面授業ですが、教材の内容等よりオンライン授業を併用することもあります。

【Outline (in English)】

(Outline and objectives)

The sport policy which promotes elite sport environment towards Olympic Games or the other international competitions and the sport policy which enhances health of ordinal people through sporting activities coexists in different ways dependent on the given countries' policies. These policies can be separated or be integrated. Is it possible to create the continuity? We discuss this issue with the related data and documents about various countries and various levels of sporting fields and daily lives.

(Work to be done outside of class)

Students are expected to complete the reading assignments before the next class. The reading assignments or references are introduced during classes.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on in-class contribution (60%) and the term end exam (40%) .

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)

スポーツジャーナリズム特論

片上 千恵

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

ジャーナリズムという用語は元来、特に新聞などの印刷物による最新の出来事の報道に用いられたが、20世紀のラジオとテレビの出現に伴って、最新の出来事を扱う活字・電子コミュニケーション全般を含むようになった。スポーツジャーナリズムも科学技術の進歩により、より広範囲にそして個人レベルでも世界に公開できる時代になった。

この講義では、日本のスポーツジャーナリズムの変遷を学ぶとともに現代社会における様々な事象をどのように捉え、伝えているか考察する。

【到達目標】

- ・多角的、批判的にスポーツを捉え、客観的に考える力を身につける。
- ・現代日本が抱えるスポーツの課題を見極め、自分なりの意見を発信できる。
- ・メディアリテラシーに基づく判断力・表現力を高める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

パワーポイントを活用した講義形式。毎回、授業冒頭に予め決めた担当者が気になるスポーツニュースを作成資料とともに解説し、全員でディスカッションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の進め方と評価方法の説明。メディアとジャーナリズムの概説。
2回	スポーツジャーナリズムの自由と責任	スポーツジャーナリズムの「自由」とは何か。メディアの法制度について理解する。
3回	スポーツとナショナルイズム	オリンピック・パラリンピック報道から「国民」を考える。
4回	スポーツとLGBTQ+	スポーツ界の多様性の理解と対策の現状を学ぶ。
5回	スポーツ界における不祥事	野球界、角界の賭博問題やドーピングなどの事例とともにガバナンスを考える。
6回	スポーツとジェンダー	女性アスリートの描かれ方とその変遷から学ぶ。
7回	ゲスト招聘	フォト・ジャーナリズムが伝えるものの。写真の役割とは何か。
8回	中間テスト	これまでのまとめ
9回	スポーツ中継	マイナーからメジャーへと変化したサッカー報道の歴史から見えてくるものを考察する。
10回	スポーツとハラスメント	体罰、上下関係、性的、あらゆるハラスメントをスポーツインテグリティの視点から考える。
11回	外部講師：新聞記者	新聞報道の取材と独自性とは何か。
12回	スポーツと経済	スポーツがもたらす経済波及効果をビッグイベントの事例から考える。
13回	スポーツと教育	部活動の地域移行について学ぶ。
14回	総括	授業内レポート作成

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業で取り上げたテーマに関連したレポートをまとめる。日頃のスポーツニュースをチェックする。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

授業内で資料を配布する。

【参考書】

授業内で適宜、紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業内発表（50%）、授業内レポート（50%）で総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, we will study the evolution of sports journalism in Japan and examine how various events in contemporary society are perceived and conveyed.

【Learning Objectives】

The goals of this course are:

A) Developing the ability to perceive sports from various perspectives and critically analyze them.

B) Identifying the challenges facing sports in contemporary Japan.

C) Enhancing judgment and expressive skills based on media literacy.

【Learning activities outside of classroom】

Review what you have learned in each lecture. Checking sports news regularly. Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

In-class reports (50%), and in-class presentations (50%).

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)

スポーツメディア特論

赤堀 宏幸、小池 隆俊

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：水3/Wed.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

世界の政治、経済、文化事象を把握し、これらがスポーツとどう関連付けられるかを根本的な主題としたい。スポーツと政治の関係も追求し、メディアの根本原則も考える。

【到達目標】

オリンピックをはじめ、国際大会や国内プロリーグなどの事例をもとに「スポーツとは何か」「スポーツの真実」「スポーツに可能なもの」などを深く理解する。メディアの歴史を踏まえ、刻々と変化する現在の状況を分析する力を身に着ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

講義形式を基本とし、状況が許せばフィールドワークも取り入れる。新型コロナウイルスの感染状況などによりオンライン授業にする場合もある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

なし / No

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	新聞・通信のスポーツ取材のルール	新聞・通信各社がスポーツ取材をするときのルールや記者クラブシステム、プレスルームの運営、幹事社制度【担当：赤堀先生】
2回	スポーツメディアとメディアスポーツ	アスリート、イベントがあって、メディアが存在する一方で、メディアとスポーツイベントが共存共栄の図式もある【担当：赤堀先生】
3回	オリンピックとマスメディア	オリンピックを報道するマスメディアと大会の規模、競技・開催の変遷【担当：赤堀先生】
4回	メディアと競技種目、公開競技の関係	オリンピックの競技種目、公開競技開催とメディアの関係（今昔）【担当：赤堀先生】
5回	スーパーボウルとイングランドのプレミアリーグ	欧米のスポーツメディアとメジャースポーツの関係の大きさ【担当：赤堀先生】
6回	イチロー、松井秀喜、松坂大輔と日本のスポーツメディア	メジャーリーグベースボール（MLB）にイチローが進んで以降の日本のスポーツメディアの変化【担当：赤堀先生】
7回	日本国内、海外のスポーツ報道の速報性	スポーツの結果報道の新聞、電波という報形態から、より速報性で効果のあるネットメディアへの変遷【担当：赤堀先生】
8回	スポーツメディアの変遷と現在地	新聞がスポーツを伝え始めたのがおよそ140年前、その後ラジオが普及し、さらに映像を加えたテレビが黄金時代を迎えた。しかし近年はインターネットの登場でテレビの存在も揺らぎ始めた。メディアの変遷の歴史と各メディアが融合を加速させている現在地を整理する。【担当：小池先生】
9回	スポーツとテレビ、そしてOTT	スポーツ団体、テレビ、スポンサー、このトライアングルがスポーツをビッグイベントに押し上げた。巨額の放映権に絡みルール変更や競技時間変更などの事態も生じた。さらにOTTの登場で放映権料の高騰に拍車がかかっている。【担当：小池先生】
10回	メディアによるスポーツの商業化とアマチュアリズムの消滅	スポーツメディアの発展はスポーツのプロ化を促した一方で、近代オリンピックにおいてその精神が受け継がれてきた「アマチュアリズム」を消滅させて行く。スポーツの発祥と進展の歩みを知る。【担当：小池先生】

11回	スポーツドキュメンタリー	スポーツ報道の中核の一つにドキュメンタリーがある。選手が勝負の瞬間に何を考え、どんな過程を経たのかを解き明かす手法は、受け手に驚きと納得感を与える。先駆けとなった作品やその後の秀作を例に挙げながらスポーツドキュメンタリーを読み解く。【担当：小池先生】
12回	インノベーションがスポーツを変える	カメラの高度化や解析システムの発達、CG技術の進化などによるインノベーションはスポーツの見方を変え、競技力向上や戦略にも大きな影響を与えている。刻々と変化を続ける現状を洞察する。【担当：小池先生】
13回	誰もがメディアになる時代	SNSで選手が自ら情報を発信することは近年日常的になっている。マスメディアに頼るのではなくSNSによるセルフプロデュースの動きも盛ん。情報発信の変化を捉え、そこから生じる問題点にも目を向ける。【担当：小池先生】
14回	スポーツメディアの近未来	インターネットがメディアの中心的存在となる中、既存メディアもネット展開を加速させている。また、5Gの実用化に伴い新し映像技術が開発されその進歩は目覚ましい。スポーツメディアの近未来を展望する。【担当：小池先生】

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

スポーツ関連のニュースを複数のメディアで常時チェックしておく。加えて政治、経済等社会全般の動向や世論の変化を敏感にとらえておくこと。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて、新聞、書物などを持参する場合がある。

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

レポートで評価する。課題は前半赤堀、後半小池からそれぞれ提示する。

【学生の意見等からの気づき】

直近の出来事を授業で取り上げることで、好評を得ている。今後も随時タイムリーな話題を取り上げていきたい。

【学生が準備すべき機器他】

なし

【その他の重要事項】

大きなトピック、世界を揺るがすスポーツ事象などは常に起こる可能性がある。それを勘案すれば、必ずしもシラバス通り、計画通りにいかない場合もある。

【Outline (in English)】

【Course outline】 This course introduces the relationship of the sports and the economythe culture and especially the politics in the world.It also deals with what the mass medeia should be.

【Learning Objectives】 The objectives of this course are to gain an in-depth understanding on Sports and Media by examining cases from the Olympics Games and other international competitions.

【Learning activities outside of classroom】 Always check sports news on multiple media while paying attention to the societal trends in general such as politics and economy.

【Grading Criteria/Policy】 Students will be evaluated based on their reports. Themes of the reports will be presented by each instructor.

SOC500I1 (社会学 / Sociology 500)

スポーツ組織構造特論

伊藤 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

「人間」と「組織」をマネジメントする際の基礎的な知識を学ぶ。スポーツにおける組織論の諸理論を多角的（経営組織論、人的資源管理論、経営管理論、経営戦略論、リーダーシップ論、モチベーション理論など）に学び、スポーツ組織を効果的にマネジメントするための基本的な理論を理解する。

【到達目標】

1. マネジメントとは何かを明確に表現できる。
2. スポーツ組織を効果的にマネジメントするための理論を理解する。
3. 組織論、モチベーション理論、リーダーシップ理論の基礎知識を理解する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

マネジメントの基本を学修した後、事例を参考にしながらスポーツ組織行動論の基礎を学習する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業の概要説明 授業評価方法の説明
2回	スポーツ組織におけるリーダーシップ1	リーダーシップ理論について変遷を深く理解する。 1. リーダーシップ特性論 2. リーダーシップ行動論 3. リーダーシップ条件適応理論 4. 変革型リーダーシップ
3回	マネジメントとは1 マネジメントの使命	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する。 マネジメントの役割、社会的責任について学習する
4回	マネジメントとは2 マネジメントの方法	マネジメントの必要性、マネジャー、マネジメントの技能について学習する。
5回	組織とは スポーツの組織化、ビジネス化	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する。
6回	スポーツ組織のコントロールシステム	スポーツ組織における目的や戦略、経営計画の立案方法および、それらの評価手法について学習する。 組織コミットメント
7回	スポーツ組織の経営環境と組織開発	スポーツ組織の環境適応、組織デザイン、組織構造について学習する。 スポーツ組織における組織変革、組織開発、チームビルディングについて学習する。
8回	スポーツガバナンス	スポーツ団体ガバナンスコード、中央競技団体のコンプライアンス強化に関する現状と課題について学ぶ。
9回	アンチドーピングに関する各スポーツ組織の対応について	ドーピング問題に対する世界アンチドーピング機構、国際オリンピック委員会、各国のオリンピック・パラリンピック委員会の動向について学ぶ
10回	スポーツ組織におけるモチベーション	モチベーション理論、期待理論を理解し、人のモチベーションのメカニズムについて理解する。
11回	人的資源管理政策・施策 職務満足と人事施策	人材マネジメント（HRM）の諸機能、戦略的人的資源管理（SHRM）、職務満足について理解し、人事施策がいかに組織と個人に影響するか、人事管理プロセスを学習する。

12回	多様性マネジメント	多様性について学習し、スポーツ組織においていかに多様性マネジメントを行うかについて学習する。
13回	ケーススタディー1	スポーツ組織におけるマネジメントに関する事例についての資料を事前に配布し、リーディング・アサインメントを課し、授業でグループディスカッション、グループプレゼンテーションを行う。
14回	プレゼンテーション	スポーツ組織に置けるマネジメントに関する事例について各自で調査し、プレゼンテーションを行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎授業の復習を行い、次週に授業に備えて下さい。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

「マネジメント【エッセンシャル版】基本と原則」（P.F.ドラッカー著）ダイアモンド社

"Managing Organizations for Sport and Physical Activity" Third Edition. Chelladuai, P. Holcomb Hathaway, Publishers

【成績評価の方法と基準】

成績は、リアクションペーパーの内容（20%）、レポート（30%）、プレゼンテーション（50%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline and Learning Objectives)

Students will learn the basic knowledge necessary in managing "human resource" and "organization". You will study the various organizational theory in sports from different perspectives (management organization theory, human resource management theory, management theory, management strategy theory, leadership theory, motivation theory, etc.), and understand the basic knowledge to effectively manage sports organizations.

(Learning activities outside of classroom)

Compile a report related to the theme covered in class.

(Grading Criteria /Policy)

Grades will be evaluated on the content of the reaction paper (20%), report (30%), and presentation (50%).

MAN50011 (経営学 / Management 500)

スポーツフィールドスタディー演習

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：木2/Thu.2 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ消費者のニーズや特性を理解するための市場調査を実際に行う。

【到達目標】

1. 量的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
2. 量的なアンケート調査を実施し、結果をまとめることができる。
3. 質的な市場調査における質問項目および調査計画を適切に作成することができる。
4. 質的なインタビュー調査を実施し、結果をまとめることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ組織は多様化するスポーツ消費者のニーズやライフスタイルに応じたサービスの提供を提供しなければならない。本授業はスポーツ消費者のニーズの理解において欠かすことのできない市場調査および解析の手法を学ぶとともに、実際の調査をとおして学習内容を実践経験へとつなげることが目的である。受講者はスポーツメーカー、プロスポーツチーム、フィットネスクラブなどのスポーツ消費者から収集したデータを解析し結果を報告することで、現場における課題の解決に資する証左の提示方法を習得する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	スポーツマネジメント 現場の課題	スポーツマネジメント現場の実務担当者が持つ課題を特定し、その解決においてどのようなデータが必要とされているのか理解する。
2回	社会調査の種類	量的なアンケート調査と質的なインタビュー調査の特徴をそれぞれ理解し、調査の目的に応じて使い分けることのできる判断力を身に付ける。
3回	質問項目の作成	量的なアンケート調査において設定する必要のある人口動態的特性、心理的特性、行動的特性、関係的特性などに関する質問項目について学び、自ら作成する。
4回	調査票の作成	調査票の説明および依頼文の作成に加え、回答者が答えやすい質問項目のデザインやレイアウトを学び、さらにアンケートにおける共通手法分散バイアスや疲労バイアスなどの制御方法についても学習する。
5回	標本抽出方法	社会調査における標本抽出方法について、確率抽出法と非確率抽出法の二種類から学びを深め、各自の調査に適したサンプリング方法を選択する。
6回	量的データの入力	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを、エクセルとSPSSを用いて学習する。
7回	量的データの記述統計	実際に収集したデータを用いて、度数分布、平均値、標準偏差、クロス集計などの記述統計について学習する。
8回	心理的要因の分析	信頼性と妥当性の検証を必要とする心理的要因の分析方法について学ぶとともに、これらの要因間の関係性を分析する。
9回	図表の作成	記述統計と心理的要因の分析結果を、エクセルによってグラフや表にまとめる。
10回	質的インタビューの質問項目の作成	質的なインタビュー調査の質問項目を帰納的アプローチから作成する方法を学習する。

11回	質的データの分析方法	質的データを分析するため、テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化、類型化について学習する。
12回	質的データの分析の実施	テキストデータの切片化、コーディング、カテゴリ化を実際に行う。併せて、収集した質的データの分析結果をエクセルの表やパワーポイントの図などでまとめる方法を学ぶ。
13回	プレゼンテーションの準備	収集した量的データと質的データの分析結果をパワーポイントスライドとしてまとめる。
14回目	プレゼンテーション	学期を通じて実施した量的研究と質的研究の結果を、パワーポイントを用いて発表する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業外の課題として質問項目の作成、調査計画の立案、調査の実施、結果の集計などが順番に出題されます。これらに計画的に取り組んでください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

Jリーグスタジアム観戦者調査（日本プロサッカーリーグ）
スポーツ白書（笹川スポーツ財団）

【成績評価の方法と基準】

課題1（調査票の作成）：25点

課題2（アンケート調査の実施および結果の分析）：25点

課題3（インタビュー調査の実施および結果の分析）：25点

課題4（調査レポート）：25点

【評価基準】 課題1～4の評価基準は以下とする：

25点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでおり、導き出した解答も課題に対して的確に答えている。

20点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使うとともに、自分の独自の視点から課題に取り組んでいる。

15点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえ、キーワードを正しく使いながら課題に取り組んでいる。

10点：指定の形式に沿い、授業の内容を踏まえて課題に取り組んでいる。

5点：指定の形式に沿って書いている

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論を基に履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

Learning Objectives

Sports organizations must provide services according to the needs and lifestyles of diversifying sports consumers. The purpose of this class is to learn the market investigation and analysis method indispensable in understanding the needs of sports consumers and to connect learning contents to practical experience through actual investigation. Students will learn how to present evidence that will contribute to solving problems at the practical environment by analyzing data gathered from sports consumers such as sports makers, professional sports teams and fitness clubs and reporting the results.

Learning activities outside of classroom

As assignments outside of class, Students will be asked creating research questionnaires, drafting a survey plan, conducting the survey, and tabulating the results.

Assignment 1 (Creating a questionnaire): 25 points

Task 2 (Conducting a questionnaire survey and analyzing the results): 25 points

Assignment 3 (implementation of interview survey and analysis of results): 25 points

Assignment 4 (Survey report): 25 points

Grading Criteria / Policy

The evaluation criteria for tasks 1 to 4 are as follows:

25 points: In accordance with the designated format and based on the contents of the class, the keywords are used correctly, and the problem is tackled from a unique point of view, and the answers derived are also accurate answers to the problem.

20 points: Following the designated format, based on the content of the class, using keywords correctly, and working on the assignment from your own unique perspective.

15 points: In line with the designated format and based on the content of the class, students are working on assignments using keywords correctly.

10 points: Working on the assignment according to the designated format and based on the contents of the class.

5 points: Writing according to the specified format

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツコーチング学特論

齋部 俊二

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：月3/Mon.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ競技者育成のためのスポーツコーチング、また生涯スポーツのためのコーチングについてその本質と理論を理解し、その実践法を探究する。

【到達目標】

効果的なスポーツコーチングの実践のために必要な専門的知識を習得し、応用する能力を養う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

球技スポーツ、個人スポーツなど様々な競技スポーツやレクリエーションスポーツなどの生涯スポーツに関するコーチングの方法や実践に関する論文や文献を読み解き要約を行う。さらにそれらについて自身の考えを述べるとともにディスカッションを行い、その内容をまとめる。また、実際のコーチングの問題、課題を検討するために、フィールドワークや事例報告などのフィールドスタディを実施し、プレゼンテーションによる発表、報告を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツコーチングとは	スポーツコーチングの本質を理解する。 国内外のスポーツコーチングの実践について理解する。
第2回	スポーツコーチングの方法① (球技系・集団型スポーツ)	競技型スポーツコーチングの理論を習得する。 球技系・集団型スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第3回	スポーツコーチングの方法② (個人型スポーツ：競争型・対人型)	個人型（競争型・対人型）スポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第4回	スポーツコーチングの方法③ (生涯スポーツ)	生涯スポーツコーチングの理論を習得する。 レクリエーションスポーツのコーチングについてその理論と実践方法を事例から検証する。
第5回	コーチングに必要なスキル	リーダーシップ、コミュニケーション能力などコーチングに必要なスキルについて理解を深める。
第6回	コーチングの実践① (技術)	技術面から見たコーチング実践について理解を深める。
第7回	コーチングの実践② (体力)	体力面から見たコーチング実践について理解を深める。
第8回	コーチングの実践③ (戦術)	戦術面から見たコーチング実践について理解を深める。
第9回	コーチの心理	競技者の心理を理解したうえでコーチの心理について考える。
第10回	コーチング哲学	コーチの持つべき哲学について検討する。
第11回	コーチング倫理・危機管理	コーチの持つべき倫理・危機管理について検討する。
第12回	系統的指導プログラムの構成① (競技スポーツ)	競技スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う。
第13回	系統的指導プログラムの構成② (生涯スポーツ)	生涯スポーツのトレーニングプログラムの作成、発表を行う。
第14回	スポーツコーチング研究方法	スポーツコーチングの研究手法、データの解析方法を習得する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

論文検索サイトや図書館検索システムを利用しコーチングに関する論文や文献を読み、要約しておくこと。

準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に設けないが、適宜論文や文献を使用する

【参考書】

コーチングの心理 Q & A 不味堂

スポーツトレーニング理論 ブックハウスHD

【成績評価の方法と基準】

授業状況（70%）および授業内に行う課題レポート（30%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

学生にとって有意義な講義となるよう努めます。

【Outline (in English)】

【授業の概要 (Course outline)】

The aim of this course is to gain in-depth knowledge of sports coaching and to learn how to develop one's own coaching style.

【到達目標 (Learning Objectives)】

The goal of this class learns necessary expertise for practice of effective sports coaching and develops ability to apply.

【授業時間外の学習 (Learning activities outside of classroom)】

Your study time will be more than four hours for a class.

【成績評価の方法と基準 (Grading Criteria /Policy)】

Final grade will be calculated according to the following process: short reports (30%) and usual performance score (70%).

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ運動学特論

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：金4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

人間の動きの成り立ちについて、解剖学、生理学、バイオメカニクスなどの複合的な観点から理解することを目指す。

【到達目標】

・解剖学、生理学、運動の力学的メカニズムといった、運動学の基礎となる知識を習得する。
・レポートの作成を通じて学際的な観点や考え方を身に付ける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

課題図書を要約してプレゼンテーションを行ってもらおう。その際、ただ内容をまとめるのではなく、まとめた内容に関する批判的考察や自らの専門分野とのつながりまで検討してもらおう。加えて、課題図書を通じて学んだことを踏まえて、簡易的なレポートを作成してもらおう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	運動学の対象、方法、目的、意義を説明する。 本講義で扱う課題図書を紹介し、発表順を決める。
第2回	身体の解剖学と運動学	人体の構造・機能と、運動時におけるキネマティクスとキネティクスに関するプレゼンテーションを行う。
第3回	身体の神経学と生理学	随意運動の制御メカニズムと筋収縮メカニズムに関するプレゼンテーションを行う。
第4回	上肢の運動学	上肢各関節に関する構造と機能に関するプレゼンテーションを行う。
第5回	下肢・体幹の運動学	下肢と体幹の各関節に関する構造と機能に関するプレゼンテーションを行う。
第6回	発達と姿勢の運動学	発達に伴う反射経路や感覚運動統合、姿勢の変化についてプレゼンテーションを行う。
第7回	歩行の運動学	歩行時の筋活動や関節運動、床反力についてプレゼンテーションを行う。
第8回	行為のニューラルネットワーク	行為を生み出す神経システムの基礎についてプレゼンテーションを行う。
第9回	行為の運動学習と行為システム	運動学習理論および運動学習における感覚フィードバックの機能に関するプレゼンテーションを行う。
第10回	運動制御論	ベルンシュタインの運動制御論を中心とした、各種運動制御論に関するプレゼンテーションを行う。
第11回	身体性認知科学	意識とは何か、意識の志向性に関するプレゼンテーションを行う。
第12回	レポートの作成①	本講義内で作成するレポートの概要について説明する。
第13回	レポートの作成②	自前で問いを設定し、その問いを検討するための実験方法、予想される結果と考察をまとめる。
第14回	レポートの報告	レポートのプレゼンテーションを行ってもらい、全体でディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

割り当てられた箇所を事前に読んで、内容をプレゼンするためのパワーポイントスライドを作成する。
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

宮本省三・八坂一彦・平谷尚大・田淵充勇・園田義顕. 人間の運動学. 協同医書、2016

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 (50%) : 発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。
② 発表内容 (50%) : 要約の妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

レポート作成・発表を行うためのパソコン (Word, Powerpoint)

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】**【Course outline】**

The purpose of this class is to learn the origins of human movement from anatomy, physiology, and biomechanics.

【Learning objectives】

The following are some of the basic knowledge requirements for the study of kinesiology: anatomy, physiology, and biomechanics.

The course is designed to provide students with an interdisciplinary perspective through the preparation of reports.

【Learning activities outside of classroom】

Read the assigned sections of the book in advance and prepare a presentation.

【Grading Criteria/Policy】

Usual performance score (50%)

Content of presentation (50%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツバイオメカニクス特論

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金4/Fri.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ中の運動を筋力や身体内部で作用する内力と、重力や地面反力などの外力との相互作用と捉えるバイオメカニクスのものの見方について、実験やデータ分析を通じて理解する。

【到達目標】

- ・計測法の原理・活用方法を習得する。
- ・身体運動の計測・分析計画を立てられるようになる。
- ・レポートの作成を通じて問題設定能力や文章作成能力を向上させる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

バイオメカニクスにおける主要なデータ取得機器である Motion Capture System の計測および分析法について実習形式で学んでいく。加えて、レポートの作成とそれに関するプレゼンテーションを行ってもらう。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	バイオメカニクスの対象、方法、目的、意義について説明する。本講義内においてどのような動きのデータを取得するのかを定める。
第2回	並進運動の力学	並進の力と運動の関係について学び、簡単な計算を行う。
第3回	回転運動の力学	回転の力と回転運動の関係について学び、簡単な計算を行う。
第4回	Motion Capture System を用いた動きのデータの取得①	Motion Capture System の原理、計測・分析法を説明する。
第5回	Motion Capture System を用いた動きのデータの取得②	第1回で決めた動きのデータを取得する。
第6回	取得されたデータの処理	取得されたデータのラベリングと整理を行い解析できるような状態にする。
第7回	データ分析①	取得された動きのデータの分析例を説明する。
第8回	データ分析②	第7回の例以外の分析について考えてもらう。
第9回	分析結果の考察①	第7回の分析例に沿った結果の考察について説明する。
第10回	分析結果の考察②	第8回で行った分析結果に関する考察を行ってもらう。
第11回	レポートの作成①	本講義内で作成するレポートの概要について説明する。
第12回	レポートの作成②	自らで問いを設定し、その問いを検討するための実験方法、予想される結果と考察をまとめる。
第13回	レポートの報告①	レポートの内容をプレゼンテーション形跡で発表するための資料を作成する。
第14回	レポートの報告②	レポートを発表してもらい、全体でディスカッションを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

取得されたデータの処理や分析を授業時間外に行うことがある。本授業の準備学習・復習時間は各 2 時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

特に指定しない。

【参考書】

- ・「スポーツバイオメカニクス」 深代千之ほか編著、朝倉書店
- ・「スポーツバイオメカニクス 20 講」 阿江通良、藤井範久、朝倉書店

【成績評価の方法と基準】

① 平常点 (50%)：発言、質問、議論を自ら進んで行った場合のみ平常点に加算する。

② 発表内容 (50%)：要約の妥当性、論理的考察の有無の観点から総合的に評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

取得されたデータの分析、レポート作成・発表を行うためのパソコン (Word, Excel, Powerpoint)

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

To understand the biomechanical view of human movement as an interaction between muscular and internal forces acting within the body and external forces such as gravity and ground reaction forces through experiments and data analysis.

【Learning Objectives】

Objectives are to master the operation technique of biomechanical machines and to measure and analyze the movements.

【Learning outside of classroom】

Students may process and analyze the obtained data outside of the classroom.

【Grading Criteria/Policy】

Usual performance score (50%)

Content of presentation (50%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツトレーニング学特論

NEMES ROLAND JANOS

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：水5/Wed.5 | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

概要：

この授業では、スポーツにおける体力要素の向上を目指す基本的なトレーニング方法として、ストレンクス・コンディショニングトレーニングを中心に学びます。さまざまなトレーニング方法が身体にどのような影響を及ぼし、どのような適応が起こるかについての理解を深めます。また、特定の目的や対象に応じた適切なトレーニングプログラムの作成方法も学びます。

目的：

体力要素のトレーニング方法の理解：
 ストレンクス・コンディショニングを含む各種トレーニング方法について学び、その効果や適用方法について理解を深めます。

身体への適応と機序の理解：

トレーニングによる身体への適応（筋力増強、持久力向上など）と、それらの生理的・生化学的機序について理解を深めます。

トレーニングプログラムの設計：

対象者のニーズや目的に応じたトレーニングプログラムを作成するための基礎理論を学びます。

様々なスポーツ現場における実践的なトレーニングプログラムの段階的な設計方法についても学びます。

この授業を通じて、履修者はスポーツパフォーマンス向上のための科学的かつ実践的なトレーニング方法を理解し、実践する能力を獲得します。また、個々のアスリートやチームのニーズに合わせた効果的なトレーニングプログラムを設計し、運用するスキルも身に付けます。

【到達目標】

包括的なトレーニング理論と実践能力の習得

多様なトレーニング理論の理解：

筋力、パワー、全身持久力、スピード、協調性、柔軟性など、各種トレーニングの理論と方法について深い理解を得ます。

具体的なプログラミングスキル：

トレーニングの目的に応じた適切な目標設定と課題の特定を行う能力を習得します。

実践的なトレーニングプログラムの立案と実施に関する具体的なスキルを身に付けます。

目標と課題の設定能力：

トレーニングを推進するための目標と課題を明確に設定し、それに基づいた効果的なプログラムを計画します。

傷害評価と対応：

トレーニング中や競技中に起こりうる傷害に対する評価能力を習得します。

傷害の予防と回復に効果的な対応策を理解し、適用する能力を養います。

対象者評価と運動処方：

指導対象者の能力、ニーズ、制約などを総合的に評価し、それに基づいた適切な運動処方を行います。個々の対象者に合わせたカスタマイズされたトレーニングプログラムを作成し、実施します。

この授業を通じて、履修者はトレーニング理論の理解を深め、具体的なトレーニングプログラムの立案と実施、傷害の評価と対応、対象者の評価と適切な運動処方に関する実践的なスキルを習得します。これにより、履修者はスポーツパフォーマンスの向上と傷害予防に寄与する資格あるトレーナーとして活躍できるようになります。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

授業アプローチ：科学的根拠に基づく講義と実践的議論

原理・原則の理解：

運動処方・運動療法におけるトレーニングプログラムの立案と実施に関する基本的な原理・原則について講義を行います。トレーニングの効果を最大化し、傷害リスクを最小限に抑えるための方法論を学びます。

エクササイズの特性と効果の分析：

さまざまなエクササイズの特性と、それらが身体に及ぼす効果について詳細に学びます。エクササイズを科学的な視点から分析し、その適用と効果について深く理解します。

年代別トレーニングの注意点：

各年代（子供、青年、成人、高齢者）におけるトレーニングの注意点について学び、それぞれのニーズに合わせた運動処方の方法を理解します。

個人差の理解と対応：

トレーニングの効果に影響を与える個人差の要因（体質、健康状態、運動経験など）について学びます。個々の対象者に最適なトレーニングプログラムを設計し、適切な指導を行うためのスキルを習得します。

議論と事例研究：

講義で学んだ内容に基づき、具体的なケーススタディや事例を通じて議論を行います。

実際のスポーツ現場や臨床現場でのトレーニングプログラムの立案と実施について深く理解し、実践的な能力を養成します。

この授業を通じて、履修者はトレーニングプログラムの科学的な立案と実施に関する知識と実践的な議論能力を養い、個々の対象者に最適化された運動処方を提供できるようになります。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	授業概要、基礎的知識の確認、原理・原則
2回	コーチングとトレーニング	コーチング学、コーチング現場とトレーニング学の関係
3回	トレーニングの基礎	様々な能力、スキルについて学ぶ
4回	アスレチックな能力の評価	測定方法や目的について学ぶ
5回	ジュニア世代におけるフィジカルトレーニング	トレーニングにおける年代別、競技レベル別考え方
6回	トレーニングモデルと漸増負荷性の原理	トレーニング負荷、様々な方法、順序について学ぶ
7回	トレーニングのための準備	一般と専門的体力トレーニングについて学ぶ
8回	効率的な運動運動のためのモーターパターン化	効率が良い運動パターンについて学ぶ
9回	コアトレーニングについて	コアとコアの安定化と強化について学ぶ
10回	トレーニングの基本期分け（ピリオダイゼーション）	ピリオダイゼーションにおける様々な考え方について学ぶ
11回	柔軟性	柔軟性の最適化について学ぶ
12回	球技のピリオダイゼーションにおける近代的な考え方	戦術的なピリオダイゼーション（タクティカル）とブロックピリオダイゼーションについて学ぶ
13回	技術・戦術トレーニング	トレーニングと技術や戦術の関係について学ぶ
14回	試験	まとめと解説

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学、生理学等基礎的知識の確認。海外の論文の翻訳・紹介。自身の経験から各種トレーニングを考察する本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

トレーニングのための生理学的知識、市村出版
 競技力向上のトレーニング、大修館書店
 スポーツコーチング学、西村書店
 ストレンクストレーニング&コンディショニング、ブックハウス・エイチデイ
 トレーニングの科学的基礎、ブックハウス・エイチデイ
 測定と評価 現場に活かすコンディショニングの科学、ブックハウス・エイチデイ

High-Performance Training for Sports, Human Kinetics

【成績評価の方法と基準】

2回プレゼンテーション（1回25%）、試験（50%）

【学生の意見等からの気づき】

本年度授業担当者変更によりフィードバックできません。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline

The main goal of the course is to gain a general understanding of basic physiology and methodology in sports training science. Training and conditioning will be presented by a practical coaching point of view. Students are required to discuss and present related research papers.

Learning Objectives

The goals of this course to

1. understand the various training theories and methodologies for strength, power, total body endurance, speed, coordination, flexibility, etc.;
2. learn about appropriate goal and task setting and programming methods to promote training with specific programming; evaluate injuries to be practiced and exercise prescription appropriate for the subject in conjunction with evaluation of the subject to be taught.

Learning activities outside of classroom

Confirmation of basic knowledge of functional anatomy and physiology. Translation and introduction of foreign papers.

Preparation and review time for this class, which discusses various types of training based on his/her own experience, will be 2 hours each. Grading Criteria / Policy

Two presentations (25% each), final exam (50%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

発育発達学特論

高見 京太

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金1/Fri.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

乳幼児期から高齢期までのヒトの一生にわたる心身の変化について理解し、各時期における健康課題を明らかにすることで、その解決方法を探る。特に学童期から中・高生期においては、学校教育の中での保健体育科目を通じた運動実践や健康づくりについて追求する。また、中年期以降は加齢・老化と身体活動との関係をもとに、生活習慣病予防について議論する。

【到達目標】

- ・発育・発達、加齢に伴う身体変化について理解する。
- ・科学的根拠に基づいた健康教育や対策について検討できる能力を身につける。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

人の誕生から成長、成熟、老化といったライフステージに沿って、その過程を概観し、生涯における心や身体、健康や体力の変化の現象を明らかにする。授業は、講義による基本的知識の共有した上で、受講者が準備した各回のテーマに沿った話題について受講者全体で討論する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	イントロダクション	用語の定義をして、発育期発達の区分を確認し、その評価方法を理解する。
2	発育発達の見方・とらえ方	身長や体重など、様々な発育曲線の読み方を学習し、早熟と晩熟、生活環境、運動能力などとの関係性を考察する。
3	発育曲線	発育発達や関連分野の論文等でしばしば引用されるスキヤモンの発育発達曲線が、どのように作られたかを理解し、その解釈を議論する。
4	発育期の肥満と痩せ	種々の身体組成測定法の原理を学んで、年代ごとの肥満と痩せの判定や骨格筋量の変化について理解する。
5	発育期の体力・運動能力	体力を定義し、発育期に身につけるべき体力と運動能力について理解する。
6	新体力テスト	世代ごとに定められた測定種目について、背景やねらい、特徴を理解し、新体力テストの範囲外となる幼児期の体力テストについて、歴史的変遷を理解し、現在の状況を知る。
7	幼児の体力テスト	現在の子供の体力の現状を知るとともに、文部科学省や厚生労働省、また日本学術会議などが発表している指針や提言を理解する。
8	子供の体力の提言	発育期の体力の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
9	発育期の体力の変遷	発育期の生活習慣の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
10	発育期の生活習慣の変遷	発育期の健康状態の変遷について、論文や国・自治体が発表しているデータをもとに考察する。
11	発育期の健康状態の変遷	発育期の健康関連指標を理解し、体力や身体活動量との関係を考察する。
12	発育期の健康関連指標との関係	国内外の発育期の身体活動のガイドラインについて理解する。
13	発育期の身体活動量のガイドライン	各自の研究テーマと関連付けた発育発達の問題を紹介し、互いに議論して、幅広い視野で発育発達を考察する。
14	発育発達の関連話題	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業の復習と次回の授業の学びのキーワードについて下調べを行う。また、話題提供の担当となった回には、討論のテーマと必要に応じて資料を用意する。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

テキストの指定はしない。講義内容との関連で、参考となる資料を配布していく。

【参考書】

必要に応じて紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への参画状況 80 %
課題レポート 20 %

【学生の意見等からの気づき】

各受講者の研究テーマと関連を持たせるように、授業内容を工夫する。

【Outline (in English)】

Course outline

The aim of this course is to help students acquire to be able to understand the physical and mental changes that occur throughout a person's life and clarify the health problems that arise at different times and search for solutions.

Learning Objectives

By the end of the course, students should be able to do the followings:

To understand growth, development, and physical changes associated with aging.

To be able to consider health education and measures based on scientific evidence.

Learning activities outside of classroom

Students will be expected to have completed the required assignments after each class meeting. Your study time will be more than four hours for a class.

Grading Criteria /Policy

Your overall grade in the class will be decided based on the following

Short reports: 20%, in class contribution: 80%

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ教育学特論

永木 耕介

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：金3/Fri.3 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

学校体育を含むスポーツ教育の歴史・課題・展望について理解を深める。

【到達目標】

学校体育を含むスポーツ教育の基礎的知識を修得し、その知識を課題解決へ向けて応用できるようになる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」「DP2」「DP3」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

広義の「スポーツ」について、概念、歴史、文化的様相を捉えながらその教育的側面を別出する。次いで、日本の学校体育および国際スポーツの様相を捉えながらその教育的側面を別出する。さらに、現代のグローバル化したスポーツの様相を捉えながら日本の学校体育/地域スポーツの今日的課題と今後の展望について議論する。特に後半では受講生の参加による議論を促し、レポートを課す。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	本授業のスケジュール、ねらい、概要、評価等について受講生に説明する。
2回	スポーツ・体育とは何か	スポーツと体育の概念について、これまでの日本での捉え方を含めて解説する。
3回	スポーツの歴史①	未開～古代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
4回	スポーツの歴史②	前近代～近代のスポーツについて概説し、その教育的側面を論じる。
5回	スポーツの歴史③	日本の江戸期における武術教育について論じる。
6回	スポーツの歴史④	日本の明治期における体操・欧米スポーツの輸入と定着が学校体育にもたらした影響について論じる。
7回	嘉納治五郎とクーベルタン	近代オリンピックの主導者・クーベルタンのスポーツ教育思想を、日本体育界の牽引者・嘉納治五郎の体育思想と関連づけながら論じる。
8回	日本の体育とオリンピック	東京オリンピック（1964年および幻に終わった1940年）について、日本の体育/スポーツ教育への影響という観点から論じる。
9回	戦後日本の学校体育①	昭和の戦後における学校体育について、学習指導要領の変遷を中心に論じる。
10回	戦後日本の学校体育②	現代におけるスポーツのグローバル化を捉え、主に学校体育に与える影響について論じる。
11回	日本における体育授業の現状と課題①	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に学習内容・教材づくりの観点から論じる。
12回	日本における体育授業の現状と課題②	今日の日本における体育授業の現状と課題について、主に教授法の観点から論じる。
13回	日本における学校運動部活動の教育的意義および現状と課題	学校運動部活動の教育的意義について歴史的視点から講述し、さらに現状と問題点について地域スポーツのあり方と関連づけながら論じる。
14回	学校体育/スポーツ教育における道徳教育の可能性	マナー、フェアプレイ、アンチ・ドーピング、責任学習など、学校体育/スポーツ教育が有する道徳教育としての可能性について論じる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

ディスカッションおよびレポート作成のための講義内容の復習と、自己の意見を補足するための文献資料の調査等。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

現代スポーツは嘉納治五郎から何を学ぶのか（ミネルヴァ書房）、よくわかるスポーツ倫理学（ミネルヴァ書房）、運動部活動の戦後と現在（青弓社）、等。

【成績評価の方法と基準】

ディスカッション等の参加状況（60%）、レポート（40%）

【学生の意見等からの気づき】

今年度も少人数制の利点として、各種のトピックについて一歩深い議論を行いたい。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。

【その他の重要事項】

今日の学校体育/スポーツ教育は様々な課題や問題点を抱えているが、なぜそうなっているのか、改善するためには何が必要なのか、本授業でそれらを考える知力と見識を養いたい。

【Outline (in English)】

[Course outline] This class is for students to consider why many subjects in Physical Education/Sports Education, and what is necessary to improve in these subjects.

[Learning Objectives] Acquire the basic knowledge of sports education including school physical education and be able to apply that knowledge to solve problems.

[Learning activities outside of classroom] Collect materials for discussion and reaction paper preparation.

[Grading Criteria /Policy] Participatory attitude (60%), understanding by reaction paper (40%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツメンタルトレーニング演習

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：水4/Wed.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、アスリートやスポーツチームのメンタルサポートに資する理論と方法の習得を目的とします。各授業では、アスリートやスポーツチームが抱える心理的諸問題に対する理解、ならびにその対処法となるスポーツメンタルトレーニングやスポーツカウンセリングをはじめとするメンタルサポートの理論と方法に関するテーマに取り組みます。

【到達目標】

1. アスリートが抱える心理的諸問題の改善に資するメンタルサポート（スポーツメンタルトレーニング、スポーツカウンセリング等）の理論と方法を習得する。
2. チームビルディングに資するメンタルサポートの理論と方法を習得する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業では、まずスポーツフィールドで実践される種々のメンタルサポートや心理アセスメントの理論と方法に関する国内外の動向について概説する。次に、1) スポーツメンタルトレーニングならびにスポーツカウンセリングの諸技法の学習、2) 心理アセスメントの体験的学習に取り組む。また受講生は、当該領域に関する国内外の文献を精読し、その内容を抄録にまとめたうえで発表し、全体で討議する。なお、授業で取り組むレポートやリアクションペーパー等に対する講評やフィードバックは、次回授業時に行う予定です。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	授業の概説説明、メンタルトレーニングの略史
2	メンタルサポートの方法	アスリートのメンタルサポートをめぐる諸理論を概観する
3	心理アセスメント	心理アセスメントによる測定・評価について学ぶ
4	スポーツメンタルトレーニング	スポーツメンタルトレーニングをめぐる諸理論を概観する
5	スポーツカウンセリング	スポーツカウンセリングをめぐる諸理論を概観する
6	動機づけの理論と方法	動機づけに関する抄録発表および討議
7	目標設定の理論と方法	目標設定に関する抄録発表および討議
8	リラクゼーションの理論と方法	リラクゼーションに関する抄録発表および討議
9	認知療法の理論と方法	認知療法に関する抄録発表および討議
10	行動療法の理論と方法	行動療法に関する抄録発表および討議
11	事例研究Ⅰ	アスリートの実力発揮に関する事例研究
12	事例研究Ⅱ	アスリートの心理臨床に関する事例研究
13	事例研究Ⅲ	チームビルディングに関する事例研究
14	総括	本授業のまとめを行ない、今後の展望を探る

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。その具体的な取り組み内容は次の通りです。

1. 授業はプレゼンテーションおよび討議により構成されるため、各自の研究テーマに関連する最新のトピックスに触れておくことが望ましい。
2. 指定した文献等がある場合には、事前に精読しておくようにしてください。
3. スポーツ場面や日常生活で感じたこと・気づいたことを日々記録することが望ましい。記録した内容が本授業の理解を深める手がかりとなります。
4. テレビ、新聞、Web等から発信される種々のスポーツ関連の情報に目を向ける習慣をつけてください。その作業により、本講義内容の理解が深まります。

【テキスト（教科書）】

必要に応じて資料・文献等を配布します。

【参考書】

1. 中澤 史「アスリートの心理学」日本文化出版 2016
2. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
3. 内田 直「スポーツカウンセリング入門」講談社 2011

【成績評価の方法と基準】

1. 授業への参画状況が50%、リアクションペーパー、レポート等の提出物が50%の配分として総合評価します。
2. 出席回数から授業実施回数の2/3に満たない場合はE評価となります。
3. 授業開始から20分以内までの入室を遅刻とし、それ以降の入室は欠席とします。また、遅刻3回で欠席1回の扱いとします。
4. やむを得ない理由がない限り全ての授業に出席してください。やむを得ない理由とは、病気、怪我、冠婚葬祭等による欠席を指します。
5. 急遽、病気、怪我、冠婚葬祭等により欠席することになった場合、出席可能となった授業時にその旨について担当教員に報告するとともに、そのことを証明できる資料を担当教員に提出してください。
6. レポートでは、授業のテーマや内容を踏まえた上で適切な記述がされているかについて評価します。
7. リアクションペーパーでは、授業で習得した内容が適切に記述できているかについて評価します。
8. 授業への参画状況とは、単に出席していることを意味するのではなく、ディスカッションや各種授業運営に主体的に関わることを評価の対象とするという意味です。

【学生の意見等からの気づき】

多様な体験型実習やグループワークを取り入れ、より実践的な授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができるモバイル機器を準備してください。

【その他の重要事項】

1. 授業内容に関する説明等を実施するため初回授業から出席してください。
2. 原則として対面授業を実施する予定です。ただし、感染症の影響等によりオンライン授業に変更される場合があります。そのため、学習支援システムやメールによる案内を確認するようにしてください。
3. 授業計画は、感染症の拡大状況、受講者数や受講者からの要望に応じて変更される場合があります。
4. 本授業では、社会的スキルの一つとみなされる「ホウ・レン・ソウ（報告、連絡、相談）」の実施を求めます。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students acquire the fundamental theory and methods to contribute to psychological support of athletes and sport teams.

【Learning Objectives】

1. Learn the theory and method of mental support (sports mental training, sports counseling, etc.) that contributes to the improvement of athletes' psychological problems.
2. Learn the theory and methods of mental support that contribute to team building.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparatory study and review time for this class is 2 hours each. The specific details of our efforts are as follows.

1. Classes consist of presentations and discussions, so it is advisable to be in touch with the latest topics related to your research theme.
2. If you have any specified documents, please read them carefully in advance.
3. It is desirable to record daily what you feel / notice in sports scenes and daily life. The recorded content will be a clue to deepen your understanding of this class.
4. Get in the habit of looking at various sports-related information sent from TV, newspapers, the Web, etc. This work will deepen your understanding of the contents of this lecture.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

1. Participation status in class, reaction paper: 50%.
2. Submissions for various assignments: 50%.

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

チームビルディング演習

山田 快

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：火1/Tue.1 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

この授業では、チームビルディングについて実践的に学んでいきます。

【到達目標】

スポーツチームをはじめ、多様な組織が最大のパフォーマンスを発揮する上で活用されているチームビルディングの手法を身につけることを目指します。とりわけ、受講者が各フィールドで活かせるチームビルディングのプログラムを生み出し、それを実践できるようにすることを目標とします。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」「DP3」「DP5」「DP6」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

チームビルディングに関する知識を学び、学んだ手法を実践していきます。そこで得た気づきや学び（効果的な実践ポイントなど）を受講者間でシェア・ディスカッションします。その際、授業内で挙がったコメントを紹介したり、スポーツとは異なるフィールドにも注目することで学びを深めていきます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	ガイダンス	授業の概要と計画を確認し、共有する。
第2回	チームビルディングの基礎	チームビルディングの基礎知識を学ぶ。
第3回	チームビルディングの理論①	チームビルディングの概念について学ぶ。
第4回	チームビルディングの理論②	チームビルディングの理論について学ぶ。
第5回	身体を用いたワークの実践①	アイスブレイクなどについて学び、実践する。
第6回	身体を用いたワークの実践②	ミラーゲームなどについて学び、実践する。
第7回	チームビルディングの評価	チームビルディングの評価方法を学ぶ。
第8回	ファシリテーションの手法①	オープニングを体験し、実践する。そこで得た気づきをディスカッションする。
第9回	ファシリテーションの手法②	クロージングを体験し、実践する。そこで得た気づきをディスカッションする。
第10回	ファシリテーションの手法③	リビジットを体験し、実践する。そこで得た気づきをディスカッションする。
第11回	ワークショップのデザイン①	スポーツチームを対象に「気づき」を重視したワークショップを企画し、実践する。そこで得た学びをディスカッションする。
第12回	ワークショップのデザイン②	スポーツチームを対象に「内省」を重視したワークショップを企画し、実践する。そこで得た学びをディスカッションする。

第13回	ワークショップのデザイン③	スポーツチーム以外の組織を対象としたワークショップを企画し、実践する。そこで得た学びをディスカッションする。
第14回	チームビルディングの可能性	チームビルディングがもつ可能性についてディスカッションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

学習した内容を実践し、活用できるようになることを目指して、主体的に毎回の授業で提示される課題に取り組んでください。関連する論文や書籍なども用い、積極的に理解を深めていってください（1回の授業につき、4時間以上の準備・復習が求められます）。

【テキスト（教科書）】

特にありません。

【参考書】

必要と希望に応じて、適宜紹介します。

【成績評価の方法と基準】

以下の項目を基準として、総合的に評価を行います。

①授業への参画状況（毎時の課題やグループワーク、意見交換、プレゼンテーションなど）：60%

②授業の到達目標に対応した学期末課題：40%

然ることながら、欠席と遅刻は減点の対象になります。

【学生の意見等からの気づき】

前回の開講から少々時間が経過していますが、当時受講者から「教員もディスカッションに加わることで学びが深まる」との意見を頂きました。今回も本点を意識して、積極的に受講者と意見交換を図りながら進めていきたいと考えています。

【その他の重要事項】

各年での開講を予定しているため、2025年度は開講されない可能性があります。他の授業との兼ね合いもあるかと思いますが、できる限り本年度に受講されることをお勧めします。

【Outline (in English)】**【Course Outline】**

This course focuses on learning the various knowledge of team building.

【Learning Objectives】

The goal of this course is to be able to practice the team building skills and workshop.

【Learning Activities Outside of Classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend four hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

Grading will be decided based on participation behavior (60%), and the performance for term-end task (40%) in the class.

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

アスレティックトレーニング特別演習

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位

曜日・時限：月4/Mon.4 | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツにおける外傷・障害予防、運動機能評価に基づいた運動療法の実践方法について演習を通して学習する。アスレティックリハビリテーション、ストレンクス&コンディショニングの背景となる国内外の研究論文の検討から、最新の研究成果や知見について理解する。

【到達目標】

スポーツ外傷・障害に関する基本的な身体特性の評価方法、予防・機能改善のためのコンディショニング・リコンディショニングについて学び、実際の研究計画立案のための基礎となる知識を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP6」に関連

【授業の進め方と方法】

授業の前半は教員の発表によるディスカッションを行う。その後学生の発表を主体とした演習形式で行う。アスレティックリハビリテーション、ストレンクス&コンディショニングに必要な解剖学的基礎知識（筋・腱・関節・神経等）の復習やスポーツ外傷・障害に対する評価、スポーツ外傷・障害予防・パフォーマンスアップのためのエクササイズに関する文献（論文）精読と発表が中心である。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	ガイダンス	文献（論文）購読について、機能解剖学知識の確認
2回	スポーツ外傷・障害予防	緊急対応、安全管理体制、アライメント、関節可動域、筋力評価、スペシャルテスト
3回	アスレティックリハビリテーション	スポーツ外傷・障害評価、運動療法、リスク管理
4回	上肢の評価	手・前腕・肘・肩関節の評価／講義
5回	上肢の運動療法	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／講義
6回	文献講読：上肢①	手・前腕・肘・肩関節の評価／文献（論文）講読
7回	文献講読：上肢②	手・前腕・肘・肩関節の運動療法／文献（論文）講読
8回	体幹の評価	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／講義
9回	体幹の運動療法	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／講義
10回	文献講読：体幹①	頸部・胸腰椎・骨盤の評価／文献（論文）講読
11回	文献講読：体幹②	頸部・胸腰椎・骨盤の運動療法／文献（論文）講読
12回	下肢の評価	足・膝・股関節の評価／講義
13回	下肢の運動療法	足・膝・股関節の運動療法／講義
14回	文献講読：下肢およびまとめ	足・膝・股関節の評価／文献（論文）講読

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

機能解剖学・生理学の知識が必須である。

本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

講義の際に紹介する

【参考書】

- 臨床スポーツ医学編集委員会：スポーツ外傷・傷害の理学診断・理学療法ガイド第2版（文光堂）
- 小林直行，成田崇矢，泉重樹：女性アスリートのための傷害予防トレーニング（医歯薬出版）
- 日本スポーツ協会編，公認アスレティックトレーナー専門科目テキスト（財団法人日本体育協会）1～9
- 広瀬統一他，アスレティックトレーニング学（文光堂）

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（30%）、プレゼンテーション・レポートの取り組み状況（70%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表に基づいた議論を演習の中心に置いている。そのため議論が活発になり、双方向性の授業が展開できたと考えている。本年度もこの方法で続けていく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

学生自身の発表の際には、PCとパワーポイント使用による発表が基本になる。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of the athletic training seminar is as follows, students study how to practice exercise therapy based on sports injury prevention and motor function evaluation. Students review domestic and international research papers and present the latest research results and findings.

【Learning objectives】 Students will learn about evaluation methods related to sports injuries, training and conditioning for prevention of sports injuries, as well as acquire knowledge that will serve as a basis for students to formulate their own research plans.

【Learning activities outside of classroom】 Before each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】 Your overall grade in the class will be decided based on the following, Class presentation: 70%, in class contribution: 30%.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 I

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

論文講読能力、課題設定能力を高め、自らの研究テーマであるアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を整理し明確にする。

【到達目標】

1. 修士1年生対象の研究構想発表会および修士論文の計画の準備ができる力を身に付けることを目標とする。
 2. 上記に基づき、スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ外傷・障害予防、コンディショニング、リコンディショニング、運動器に対する物理療法の効果等に関する国内外の文献を検討し、修士論文の研究手法や内容について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、コンディショニング、リコンディショニング、各種トレーニング方法、統計解析法などに関する国内外の文献を討議し、論文作成における関連知識と方法論を深く修得する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	論文抄読の概要、各自の研究計画発表①
2回	スポーツ外傷・障害予防に関する論文抄読	スポーツ外傷・障害予防とはなにかについて論文抄読を通して議論する。
3回	スポーツ外傷・障害予防とエクササイズに関する論文抄読	スポーツ外傷・障害予防のためのエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
4回	スポーツ外傷・障害（上肢）評価の論文抄読	上肢のスポーツ外傷・障害評価やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
5回	スポーツ外傷・障害（体幹）評価の論文抄読	体幹のスポーツ外傷・障害評価の論文抄読やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
6回	スポーツ外傷・障害（下肢）評価の論文抄読	下肢のスポーツ外傷・障害評価やエクササイズに関する論文抄読を通して議論する。
7回	スポーツ外傷・障害予防・評価：まとめ	これまでみてきたスポーツ外傷・障害予防・評価に関する研究から自身の研究について議論する。
8回	研究計画発表②	これまでの活動を通して各自の研究計画発表を改めて行う。
9回	コンディショニング・リコンディショニング（上肢）の論文抄読	上肢のコンディショニング・リコンディショニングに関する論文抄読を通して議論する。
10回	コンディショニング・リコンディショニング（体幹）の論文抄読	体幹のコンディショニング・リコンディショニングに関する論文抄読を通して議論する。
11回	コンディショニング・リコンディショニング（下肢）の論文抄読	下肢のコンディショニング・リコンディショニングに関する論文抄読を通して議論する。
12回	一般的物理療法の論文抄読	物理療法に関する論文抄読を通して議論する。
13回	東洋医学的物理療法（鍼灸マッサージ）の論文抄読	東洋医学について講義するとともに東洋医学的物理療法（鍼灸マッサージ）に関する論文抄読を通して議論する。
14回	研究に関するプレゼンテーション	抄録、プレゼンテーションファイル、ポスター作製したものを発表するとともにフィードバックを行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究領域以外の研究にも積極的に触れる姿勢が望まれる。
 本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. 田中喜代次他, 身体活動科学における研究方法, NAP
2. 広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂
3. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター編, アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン, サンライブ企画

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

論文抄読と研究計画の進捗とのバランスをとりながら進めていきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 Students are required to clarify their research topics by organizing related knowledge in the field of athletic training and sports medical science.

【Learning objectives】 Students review literature on sports injury disability prevention, athletic rehabilitation, and physical therapy to gain a better understanding of their master's research.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】 Grading will be decided based on lab reports 50%, and the quality of the students experimental performance in the lab 50%.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 I

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成のため、研究とは何かということを学んでいく。具体的には課題の設定と、問題を解決するための能力や方法を習得することを目的とする。

【到達目標】

初学者として、必要な知識や能力の獲得。
 具体的には以下について修士論文作成に必要な水準の能力の獲得を目指す。
 ・研究倫理の問題
 ・研究の妥当性や信頼性の担保
 ・適切な課題の設定
 ・研究の価値(学術性・新規性)
 ・適切な分析方法

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業は、研究者として必要な資質や能力を養うことを目的として進めていく。基本的にはテーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	修士論文についての理解	修士論文とはどのような論文であり、いかなる水準が求められるのか十分に理解する。併せて、文献の検索方法について学ぶ。
2回	スポーツマネジメント領域の捉え方①	スポーツマネジメントとはどのような概念であり、学問として体系だっているのかについて解説する
3回	スポーツマネジメント領域の捉え方②	スポーツマネジメントの独立性や新規性について理解を深める
4回	スポーツマネジメントの実践①	スポーツマネジメント研究が現場でどのように用いられているのか事例を用いながら解説する
5回	スポーツマネジメントの実践②	スポーツマネジメント研究における成果を現場にてどのように用いているのかについて解説する
6回	スポーツマネジメントに関する研究課題①	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマについて解説する
7回	スポーツマネジメントに関する研究課題②	スポーツマネジメント領域における主な研究テーマ、特に近年の傾向について解説する
8回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る①	先行研究で扱っているデータや分析方法について検討する。
9回	スポーツマネジメントに関する資料・データを読み取る②	プロ・スポーツリーグやチームの定量的な情報を持ちて、経営的な課題や顧客の行動を検討する
10回	課題に対する解決方法の検討および提案①	課題に対する適切な分析手法（単純集計、クロス集計、t検定等）について検討する
11回	課題に対する解決方法の検討と提案②	課題に対する適切な分析手法（回帰分析、多変量解析等）について検討する
12回	要因とモデル	先行要因および結果要因を概念図と文章にて説明する
13回	問題の所在	社会的、学術的な観点から問題の所在について検討する
14回	研究の目的	何をどこまで明らかにするかみついで検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献の抄読など予習を必要とする内容が多いため、事前に文献を読む事と、資料をあらかじめ用意しておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究および文献

【成績評価の方法と基準】

期末レポート(30%)および授業への関与状況(40%)、成果物の評価(30%)などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 I

小田 佳子

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツコーチング領域（スポーツ哲学・スポーツ教育学・武道論を含む）の学術研究として修士論文を完成させるために、必要となる様々な概念や理論について学習するとともに、先行研究で明らかにされていない研究課題を特定し、自らの研究テーマを設定する。

具体的には、

- (1) 課題設定能力を高め、自らの研究テーマ（目的）を整理し明確にする。
- (2) 学部時代の卒業論文で培った知識に加え、スポーツ科学の新たな知見を加えた上で高い水準に結実させる。緻密で広範な見識（先行研究）を理論的基礎として、修士論文執筆への基礎的な思考や方法論を身につける。

【到達目標】

- (1) 各自の問題意識に基づいて研究テーマを設定できる。
- (2) 各自が選んだ研究テーマに関連する先行研究を概括し、過去の研究が明らかにできなかった課題を特定することができる。
- (3) 学術的貢献を果たすため、研究の目的、重要性を示すことができる。
- (4) 研究テーマにおける重要概念を正しく定義し、理論的な背景を説明することができる。

具体的には、

- A. 研究構想発表会の準備ができる力を身につけること。
- B. そのためには研究を十分に展開できるような日本語力の習得と、先行研究を深いところまで読み込む広範な知識の獲得が欠かせない。
- C. 体育やスポーツ、武道とその周辺に点在する「魅力」や「問題点」を十分に洞察できるよう、「スポーツ」と「健康」およびそれらを取りまく「社会環境」について、互いの連携にも意識をおきながら、体系的に理解する能力を身につけることが目標である。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツコーチング・哲学・武道関連の重要概念、理論、事例などについて理解を深め、各自の研究テーマを決定するため、授業では様々な重要概念や理論について探究し、どのように自身の研究に応用できるのかについてディスカッションを行う。受講者は毎回事前に配布される資料を読み、議論に参加する準備を行う必要がある。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション 修士論文の説明	本演習の目的および授業計画や実践内容などについて理解するとともに、修士論文において求められる研究の内容、構成、意義について学ぶ。
2	研究計画の設定	修士課程入学時に提示した自己の研究課題と研究計画を見直し、1年を通して取り組む研究計画を立てる。
3	先行研究を調べる	自己の研究課題に関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読む。
4	先行研究をまとめる	自己の研究課題に関して理解が深まるような研究テーマを設定するため、先行研究を調べ、読み、まとめる。
5	文献の整理	研究のテーマとなる先行研究の問題を特定するため、15本～20本程度の文献を検索し、それぞれの特徴（目的・方法・結論など）をまとめる。
6	研究の背景	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定する。
7	概念的枠組み①	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
8	概念的枠組み②	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。

9	概念的枠組み③	修士論文研究で扱う重要概念や分析において測定する主要因をすべて定義し、概念的枠組みを明確にする。
10	研究の目的	これまでの研究背景をもとに研究課題を設定し、研究の目的を設定する。
11	研究の重要性	自己の研究の必要性・意義・従来の研究との差(独創性)について明確にする。
12	研究の新規性	自己の研究の新規性について明確にする。
13	仮説の設定	仮説を理論的根拠とともに導出する。
14	研究方法および研究環境と対象	研究方法と研究環境を設定し、対象とする文献や事象（母集団）を特定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業は、事前に配布される論文をしっかりと読んで疑問や感想を書き出し、ディスカッション形式で展開される演習に参加できるように準備してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー、概念図の作成、先行研究の問題の特定、研究目的の設定、研究の重要性の特定、重要概念の定義の各項目を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

学生自身のこれまでの経験やフィールドワークの中にある「暗黙知」を自分自身で振り返り、分析し、活字におきかえ「形式知」として評価する過程を重視する。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】

In order to complete a master's thesis as academic research in the field of sports coaching (including sports philosophy, sports pedagogy and martial arts theory), students learn about the various concepts and theories required, identify research issues that have not been clarified in previous research and set their own research topics.

【Learning Objectives】

- (1) To improve problem-setting skills and to organize and clarify one's own research theme (purpose).
- (2) In addition to the knowledge gained through the undergraduate thesis, add new knowledge in sports science and bring it to a high level of fruition. Acquire basic thinking and methodology for writing a master's thesis, based on a theoretical foundation of detailed and extensive insights (previous research).

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation will be comprehensive for each of the following items: review of previous research, development of a conceptual diagram, identification of issues from previous research, establishment of research objectives, identification of research importance, and definition of key concepts.

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 I

瀬戸 宏明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
配当年次：1年次
備考（履修条件等）：
その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①課題設定能力を高め、自らの研究テーマを整理し明確にする。
- ②研究課題を設定する

【到達目標】

- ①9月に実施予定の研究構想発表会の準備ができる力を身につける
- ②修士論文作成のための基本姿勢（先行研究への理解や論理的思考など）を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

研究テーマを軸にディスカッションを中心とした専門的知識の習得を迫り、論文作成に関する知識や方法論の習得を目指す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	大学院における修士課程のありかた 研究計画発表
2回	研究倫理	研究に必要な倫理、心構えなど
3回	プレゼンテーションの方法	抄録やプレゼンテーションの方法について学習する
4回	文献・資料リストの作成	文献・資料リストの作成の重要性の理解
5回	課題について検討①	課題検討のための論文抄読
6回	課題について検討②	別の関連領域からさらに論文抄読をおこなう
7回	問題点について検討①	抄読をした論文に対する問題点の検討
8回	問題点について検討②	現時点での課題設定の問題点の検討
9回	中間報告	研究計画についての検討
10回	研究デザインのレビュー①	研究意義の確認、問題の構造化、論理の構成を検討
11回	研究デザインのレビュー②	具体的な分析の枠組みを設定し、研究デザインの妥当性の検討
12回	リサーチクエスションの決定	リサーチクエスションの決定を議論する
13回	リサーチクエスションの決定	リサーチクエスションを踏まえてリニカルクエスションを決定する
14回	まとめ	研究課題の決定

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

関連した領域内の文献の精読、資料作成
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適時紹介する

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーションへの取り組み状況：50%
研究への取り組み状況：50%

【学生の意見等からの気づき】

現在のところ特になし

【その他の重要事項】

特になし

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

- ① Improve the ability to set tasks and organize and clarify your own research themes
- ② Set a research theme

【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Acquire the ability to prepare for the research concept presentation.
- Acquire understanding of previous research and logical thinking.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process lab reports(50%) and the quality of the students experimental performance in the lab (50%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習 I

望月 拓実

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマネジメントに関する基本的な知識および修士論文作成に必要な基本技能を習得する。具体的には、量的調査・質的調査の理解及びそれぞれのデータ分析方法を理解しながらデータ収集・分析までの流れを学習する

【到達目標】

- 1：量的調査・質的調査の基礎を理解できている
- 2：量的調査・質的調査の実際の流れを理解し実践できる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回で提示される課題を作成したうえで、最終的に修士論文作成に必要な量的調査・質的調査を用いた小論文を作成する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と到達目標の確認、後期の学習方法を段階的に整理し理解する
2	量的調査研究の種類と手順	量的調査の基本的な概要と種類、構成の流れを学習する
3	質的調査研究の種類と手順	質的調査の基本的な概要と種類、構成の流れを学習する
4	質問紙調査の作成方法とデータ集計方法	量的データおよび質的データ取得に必要な質問紙調査・インタビューガイドの作成方法を習得する
5	量的データ分析手法1（クロス集計）	量的データ分析に必要な単純集計、クロス集計を習得する
6	量的データ分析手法2（カイ二乗検定）	量的データ分析に必要なカイ二乗検定、残差分析を習得する
7	量的データ分析手法3（t検定）	量的データ分析に必要なt検定、一元配置分散分析を習得する
8	量的データ分析手法4（二元配置分散分析）	量的データ分析に必要な二元配置分散分析とそのバリエーションを習得する
9	量的データ分析手法5（因子分析）	量的データ分析に必要な探索的因子分析、確認的因子分析を習得する
10	量的データ分析手法6（回帰分析）	量的データ分析に必要な単回帰分析、重回帰分析、ロジスティック回帰分析を習得する
11	量的データ分析手法7（共分散構造分析）	量的データ分析に必要な共分散構造分析を習得する
12	量的調査の事例実践と発表	講義で学習したデータ分析をデモデータを用いて分析し結果を発表する
13	質的調査の事例実践と発表	講義で学習した質的研究をデモデータを用いて分析し発表する
14	調査手順と統計分析のまとめ	本講義で学習した量的調査・質的調査の手法を総括した小論文を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義に必要な事前資料の読み込みや発表に向けた準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

量的調査・質的調査の概要、統計分析と各調査の実践の理解度の各項目をを総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this seminar, students will learn the fundamentals of sport management and the skills necessary to write a master's thesis. Specifically, students will learn the process of data collection and analysis, with an understanding of quantitative and qualitative surveys and their respective data analysis methods.

【Learning Objectives】

- 1: Understand the fundamentals of quantitative and qualitative research.
- 2: I can understand and practice the actual flow of quantitative and qualitative research.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the materials in advance and prepare the presentation required for each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Comprehensive overview of quantitative and qualitative surveys, statistical analysis, and understanding of each survey practice.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅱ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 研究構想の作成、予備実験・予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
 2. 修士論文作成に必要なアスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究方法論を修得する。

【到達目標】

1. 2年次4月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかれる力を獲得する。
 2. スポーツ活動とスポーツ外傷・障害予防、コンディショニング・リコンディショニング、運動器に対する物理療法の効果等に関する国内外の文献を講読・討議し修士論文の研究計画の完成・予備実験等を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防を軸に、運動機能評価、コンディショニング・リコンディショニング、各種トレーニング法などに関する国内外の文献を討議し、研究計画を完成させるとともに予備実験等の実践を含め方法論を磨く。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	各自の研究計画の発表、ディスカッションを行う。
2回	スポーツ外傷・障害予防に関する論文抄読	スポーツ外傷・障害予防と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
3回	スポーツ外傷・障害評価に関する論文抄読	スポーツ外傷・障害評価と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
4回	上肢・体幹のコンディショニング・リコンディショニングに関する論文抄読	上肢・体幹のコンディショニング・リコンディショニングの研究に関する論文抄読を通して議論する。
5回	下肢のコンディショニング・リコンディショニングに関する論文抄読	下肢のコンディショニング・リコンディショニングの研究に関する論文抄読を通して議論する。
6回	運動器に対する物理療法に関する論文抄読	運動器に対する物理療法と自身の研究に関する論文抄読を通して議論する。
7回	予演／ディスカッション	各自の研究に関するプレゼンテーションを行い、研究計画について議論する。
8回	研究計画発表（練習）	各自の現時点での研究計画に関するプレゼンテーションを行い、議論する。
9回	総合的な論文抄読	スポーツ外傷・障害予防・評価、コンディショニング・リコンディショニング、運動器に対する物理療法に関する論文抄読を通して、各自の研究計画について議論する。
10回	エクササイズの前備実験の実施	エクササイズ・トレーニングに関するミニ実験を行い結果を検討する。
11回	評価の前備実験	評価に関するミニ実験を行い結果を検討する。
12回	動作解析に関する前備実験	三次元動作分析機器計測に関するミニ実験を行い結果を検討する。
13回	前備実験のまとめ	これまでの前備実験・論文抄読から自身の研究計画を検討する。
14回	研究計画発表会	修士論文の研究計画を完成させ、発表会にて発表を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各自の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. 田中喜代次他, 身体活動科学における研究方法. NAP

2. 広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂
 3. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター編, アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン. サンライフ企画

【参考書】

適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

これまでのように学生が積極的にかかわることで本演習を活発に実施していきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 There are two purposes of this seminar. First, through preliminary experiments and preliminary surveys, comprehensively enhance the ability to study such as data collection and analysis. Second, to make a research plan for master's thesis.

【Learning objectives】 Students will prepare a master's thesis outline and research plan.

【Learning activities outside of classroom】 Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading criteria/policy】 Grading will be decided based on lab reports 50%, and the quality of the students experimental performance in the lab 50%.

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツマネジメント研究にて用いられる概念や、課題について理解するとともに、修士論文作成に資する研究方法や分析の手法などについて理解する。

【到達目標】

修士論文作成において、ベースとなる以下の事柄について理解し、設定しうる能力の獲得を目標とする
 ・研究の目的、方法を設定できる。
 ・合理的な根拠をもって仮説の設定ができる。
 ・正しい標本の抽出や測定尺度の設定ができる。
 ・適切な分析方法を用いることができる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本講義は、テーマに即した文献や資料を自らでまとめ、プレゼンをおこなう形で進めていくものとする。事前・事後学習の内容 各回の予習・復習には約90分～120分かかると想定されます。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	スポーツマネジメント領域の修士論文に求められる学術的重要性と実践的重要性について学ぶ
2回	文献の整理	スポーツマネジメント研究における主なテーマや課題につて整理するため、15～20本程度の文献を検索し、それぞれについてまとめる
3回	先行研究のレビュー①	レビュー結果について報告する(概念化)
4回	先行研究のレビュー②	レビュー結果について報告する(測定方法)
5回	先行研究のレビュー③	レビュー結果について報告する(研究環境)
6回	研究の新規性・重要性	新規性のある要因の設定や要因間の関係について整理し、学術的・実践的な重要性についてまとめる
7回	研究の目的・リサーチエスチョン	研究の目的とリサーチエスチョンを設定する。
8回	仮説の設定①	自らの論文にて設定する仮説導出部分について検討する
9回	仮説の設定②	設定する仮説の合理的な根拠となる理論についてまとめる
10回	研究の方法	自らの研究を進めるうえで用いる手法(質的、量的、混合型)について検討する
11回	研究方法の妥当性①	標本抽出の方法や、分析の手法、要因と項目の妥当性などについて検討する
12回	研究方法の妥当性②	統計的な妥当性、信頼性だけでなく、内容的な妥当性や研究対象に対する尺度の設定や分析における妥当性についても検討する
13回	記述統計	実際のデータを用いて分析を行い、結果を記述する
14回	t検定・分散分析	さらに、取得したデータを用いて実際の分析を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

この授業は予習を必要とします。事前に出題される課題をまとめ、授業内で発表および議論できる状態にしておくこと。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

授業への関与状況(30%)、成果物の評価(40%)、提出物や議論の内容(30%)などを踏まえ、総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria/Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅱ

小田 佳子

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文の作成に必要な方法論を学習するとともに、自己の研究テーマに沿った方法論および研究構想を設定する。

具体的には、

- ① 研究構想の作成、継続しての先行研究調査・さらに研究テーマ周辺の人々や活動の予備調査を通して、データ収集や分析といった研究する力を総合的に高める。
- ② 研究対象となる具体的な競技種目を自ら設定し、そこに内在するスポーツが「日本的（全国）」なものなのかや「ローカル」なもの、また「国際的」なものなのかを見極めながら分析する。
- ③ スポーツコーチング領域の修士論文の作成に必要な研究方法論を十分に理解する。

【到達目標】

修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請を行うことを目標とする。

1. 修士論文の目的、リサーチエスジョン、仮説を設定する。
2. 修士論文の研究の目的に応じて適切な研究方法を選択する。

具体的には、

- ① 2年次4月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備に取りかかることができる。
- ② 具体的な研究計画を踏まえ、必要に応じて予備調査を実施、分析するとともに、修士論文の全体構想を確立する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマを決定し、研究方法論について学習し、研究計画の立案をたてる。研究方法論（目的、リサーチエスジョン、仮説、研究方法）を設定し、倫理申請が行えるよう準備をしていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	先行研究① 組織の仕組み	スポーツは個人で楽しむのがベースだったが、いつしか組織のあるなしが、そのスケールに大きな差を生むことになった。改めてスポーツに関わる組織の仕組みを総括的に検討する。
2	先行研究② 組織の仕組み	競技団体。この組織は競技の特性によって、影響力、認知度、経済的な力など大きな違いが生まれている。その根源にあるところを知る。
3	先行研究③ 組織の仕組み	スポーツ庁は、日本のスポーツに関してある種の責任を負った官庁だ。本来自治的に動くはずのスポーツと、国の機関としてのスポーツ庁の関係を知っておく。
4	先行研究④ 組織の仕組み	学校体育が日本のスポーツのいわば「畑」であった時代。それが今徐々に変わろうとしている。変化は着実に日本社会にも影響を与えている。動いて止まない学校教育の今を考える。
5	先行研究⑤ 組織の仕組み	競技スポーツを取り上げたときに誰もが必ず視野に入れる、それがIOC（国際オリンピック委員会）である。その施政方針は、世界のスポーツのこの先に大きな影響を与えかねない。IOCの仕組みと思想の変遷を追う。
6	先行研究⑥ 組織の仕組み	研究対象とするスポーツの理念とメディア対応を確認すると同時に、スポーツの国際競技団体の存在を客観視する。その国際競技団体の現在とこれからの展望する。

7	研究目的と方法	様々なスケールで分析を続けてきた、スポーツを取り巻く組織論を背景に、研究テーマにこれまでの知見を重ねながら、研究目的を確認する。
8	研究方法の検討	研究テーマと目的に沿った研究方法を先行研究から検討する。
9	プレゼンテーション①	研究テーマに即した対象競技種目の指導法ならびに指導理念などをピックアップし、その構成を客観的に分析しながら、研究目的に即した方法論の見直しをする。
10	プレゼンテーション②	取り上げた研究テーマに関連する先行研究（論考）を参考にしながら、自身のプレゼンテーションの改善を行う。
11	プレゼンテーション③ 検討	ここまでの修士論文の骨子を、ここ2回の検討を参考にしながら、プレゼンテーションを修正する。
12	研究倫理審査	研究倫理審査申請を行うための準備を整える。予想される結果についても検討する。
13	プレゼンテーション④	研究倫理審査のインフォームド・コンセントを準備し、研究倫理審査に関するプレゼンテーションを行う。
14	総括	修論とプレゼンを対比させながら、現段階の総括を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

本授業の標準的な予習・復習時間は各2時間とする。

研究テーマに関する先行研究について、できるだけ多くの文献を抄読する。研究テーマと密接な関わりのある特定の組織やチーム、指導者、選手、スタッフなどにアプローチし、恒常的に情報のやりとりをしながら、独自の観点からのまとめを仕上げる材料を常時収集すること。研究論文、海外の事例にも間断なく視点を置いておくこと。本授業の準備・復習時間は、各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

先行研究のレビュー、概念図の作成、先行研究の問題の特定、研究目的の設定、研究方法の検討と設定、重要概念の定義の各項目を総合的に判断する。

【学生の意見等からの気づき】

昨年度授業実績なし。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

スポーツ庁の「スポーツ白書」や笹川スポーツ財団から出る調査系の書籍には必ず目を通しておきたい。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The aim of this course is to help students learn the methodology required for the preparation of a master's thesis, and to set up a methodology and research concept in line with their own research topic.

【Learning Objectives】

(1) To improve research skills such as data collection and analysis through the development of a research concept, ongoing previous research and preliminary investigation of people and activities around the research topic comprehensively.

(2) Students set up their own specific sporting events to be studied and analyze them, identifying whether the sports inherent in them are 'Japanese (national)', 'local' or 'international'.

(3) To gain a good understanding of the research methodology required for the preparation of a master's thesis in the area of sports coaching.

【Learning activities outside of classroom】

The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria / Policy】

Review of previous research, development of concept maps, identification of previous research problems, setting of research objectives, consideration and setting of research methods, and definition of key concepts are comprehensively assessed.

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅱ

瀬戸 宏明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

- ①構成力、実験、調査といった具体的な研究のノウハウを習得する
②関連領域の知識と方法論の習得

【到達目標】

- ①2年次4月に提出する修士論文の概要および研究計画の作成準備にとりかかれる力を獲得する
②修士論文作成のための具体的方法論を習得する

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

文献のみならず、実験方法もブラッシュアップして研究課題の完成に必要な具体的な方法論の習得を目指す

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	研究計画の進捗報告と今後について
2回	先行研究のレビュー	数本の関連領域の論文抄読
3回	先行研究に関する討論	精読した論文について妥当性について討論する
4回	研究計画にかかわるレビュー	研究の進行に必要な調査や器材について、関連領域の論文抄読
5回	研究計画に関する討論	精読した論文について予定研究計画への応用について討論する
6回	先行研究、研究計画のレビュー	いままでの経過をふまえて今後について総合討論する
7回	予演	研究計画の進捗を含めたプレゼンテーション
8回	予備実験の習得	研究計画に必要な予備実験についての習得
9回	予備実験の検証	予備実験の精度や妥当性などについて検証
10回	予備実験の総括	本実験への適用について修正や最終決定を検討する
11回	分析方法の習得	予備実験の結果について統計学的手法を用いて検証をおこない、統計学的手法を習得する
12回	分析方法の検証	予備実験の結果に対する統計学的手法の精度や妥当性などについて検証する
13回	分析方法の総括	本実験に対する統計学的手法の最終決定をする
14回	研究計画発表	研究計画の完成と発表

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

事前に指定、検索した文献を精読して授業に望むこと。
その際に必ず簡単な要約を作成し、提出すること
本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

適時紹介する

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み（50%）
口頭試問（50%）

【学生の意見等からの気づき】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

教員は整形外科医であり、スポーツ医学に長らく関わってきている。
そのため現場で求められているものを授業で展開可能である。

【Outline (in English)】

【Course outline】

- ① Acquire specific research know-how such as composition, experiments, and surveys
② Acquisition of knowledge and methodology in related fields
【Learning Objectives】

By the end of the course, students should be able to do the followings:

- Gain the ability to work on the outline of your dissertation and preparation for research planning.
- Learn specific methodologies for writing a dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

【Grading Criteria /Policy】

Final grade will be calculated according to the following process

Classroom Attitude (50%)

Oral examination (50%)

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅱ

望月 拓実

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習ではスポーツマネジメントに関する基本的な知識および修士論文作成に必要な基本技能を習得する。具体的には、学術的文章の基本構造の理解及びその解釈方法を理解しながら論理的思考力・批判的思考力を学習する

【到達目標】

- 1：学術的文章の基礎を理解できている
- 2：スポーツマネジメント領域の文献内容を理解し要約できる
- 3：論理的思考・批判的思考の基礎を理解できている"

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

各回で提示される課題を作成したうえで、最終的に修士論文作成に必要な論理的思考・批判的思考を用いた小論文を作成する

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション	演習の目的と到達目標の確認、前期の学習方法を段階的に整理し理解する
2	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（研究背景）	修士論文レベルでの研究背景の概要を理解し設定方法を学習する
3	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（リサーチクエスチョン）	修士論文レベルでのリサーチクエスチョンの概要を理解し、設定方法を学習する
4	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（研究目的）	修士論文レベルでの研究目的の概要を理解した上で、序論全体からみた調整及び設定方法を学習する
5	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（先行研究の整理）	修士論文レベルでの渉猟した先行研究の整理と問題点の導出方法を学習する
6	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（研究方法）	修士論文レベルでの研究方法の概要を理解した上で設定方法を学習する
7	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（研究結果）	修士論文レベルでの研究結果の概要を理解した上で提示方法を学習する
8	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（考察）	修士論文レベルでの考察の概要を理解した上で、記述方法を事例をもとに学習する
9	スポーツマネジメント領域における学術論文構造の理解（結論）	修士論文レベルでの結論の概要を理解した上で設定方法を学習する
10	学術論文作成における論理的思考方法	修士論文レベルでの論理的思考方法全般を学習する
11	スポーツマネジメント領域における論理的思考方法	スポーツマネジメント領域を事例に論理的思考方法を実践する
12	学術論文作成における批判的思考方法	修士論文レベルでの批判的思考方法全般を学習する
13	スポーツマネジメント領域における批判的思考方法	スポーツマネジメント領域を事例に批判的思考方法を実践する
14	学術論文構造と思考方法のまとめ	これまでの学習内容を総括した小論文を作成する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

毎回の講義に必要な事前資料の読み込みや発表に向けた準備をすること。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする

【テキスト（教科書）】

なし

【参考書】

なし

【成績評価の方法と基準】

学術論文構造の理解、論理的思考方法、批判的思考方法の理解度の各項目を総合的に判断する

【学生の意見等からの気づき】

本年度新規科目につきアンケートを実施していません

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this course, students will learn the fundamentals of sport management and the basic skills needed to write a master's thesis. Specifically, students will learn logical and critical thinking skills while understanding the basic structure of academic texts and how to interpret them.

【Learning Objectives】

- 1: Understand the basics of academic writing.
- 2: Understand and summarize the content of sport management literature.
- 3: Understand the fundamentals of logical and critical thinking.

【Learning activities outside of classroom】

Students are expected to read the materials in advance and prepare the presentation required for each lecture. The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria/Policy】

Understand the structure of academic writing, logical reasoning, and critical thinking methods

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

泉 重樹

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

1. 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
2. アスレティックトレーニング、スポーツ医学分野の関連知識と研究の方法論から修士論文を作成する。

【到達目標】

1. 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
2. スポーツ活動と外傷・障害、スポーツ傷害予防、アスレティックリハビリテーション、運動器に対する物理療法の効果、等に関する研究方法より、各自の研究計画に基づき研究を実践する。
3. 関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防、コンディショニング・リコンディショニング、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究計画に基づき実験等を実践し、データをまとめ、そのデータに基づき議論を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	各自の研究計画の振り返り、ディスカッション
2回	研究倫理	研究倫理について、科学的不正行為の7領域について
3回	研究実践／実験計画	各自の研究計画に基づいた実験計画立案・記載方法について
4回	研究実践／実験方法	各自の研究計画に基づいた実験方法の確認と検証
5回	研究実践／参加者と器具及び手順	各自の研究計画に基づいた参加者、使用器具、手順の確認
6回	研究実践／分析方法	各自の研究計画に基づいた実験結果の分析方法の検討
7回	中間プレゼンテーション	中間発表に至る過程での振り返りとまとめ、各自のプレゼンテーション、研究方法の再検討
8回	研究実践／論文抄読1 ／統計概念の理解	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、統計学の基礎について
9回	研究実践／論文抄読2 ／変数間の関係	実験等研究実践内容の報告
10回	研究実践／論文抄読3 ／偏相関・重回帰	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、偏相関・重回帰について学ぶ
11回	研究実践／論文抄読4 ／差の統計的検定	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、t検定と分散分析について学ぶ
12回	研究実践／論文抄読5 ／ノンパラメトリック法	実験等研究実践報告、各自の専門領域の抄読、ノンパラメトリック検定について学ぶ
13回	中間発表・予演	各自内容のプレゼンテーションおよびディスカッションを行う
14回	中間発表会	各自の研究の中間発表の発表完成させる

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って論文抄読、研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とする。

【テキスト（教科書）】

1. 田中喜次他, 身体活動科学における研究方法.

【参考書】

1. 広瀬統一他, アスレティックトレーニング学, 文光堂
2. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター編, アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン, サンライフ企画

他、適宜紹介する。

【成績評価の方法と基準】

授業への取り組み状況（50%）、プレゼンテーションの取り組み状況（50%）

【学生の意見等からの気づき】

学生の発表による演習方式を中心とし、学生と双方向のやり取りの機会をより増やし、学生自身が積極的ににかかわることで本演習をより活性化していきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 There are two purposes of the seminar. First, to perform experiments to concretely execute the research plan necessary for master thesis preparation. Second, to create a master's thesis from the methodology of athletic training and/or sports medicine research.

【Learning Objectives】 Acquire the applied skills to concretely carry out the research plan necessary to prepare a master's thesis. Practice research based on one's own research plan from research methods related to sports injury prevention and conditioning.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Engagement in class (50%), presentation (50%)

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

伊藤 真紀

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本演習の到達目標は以下の通りである：

1. 修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請を行う。
2. 調査計画を作成し、量的および質的調査票の質問項目を決定し、データの収集を行う。
3. 収集したデータを適切な統計手法を用いて分析し、結果を図表や文章にまとめる。

【到達目標】

本演習の到達目標は、修士論文の序論の執筆、研究計画の立案、倫理申請を行う。

データを収集する際の調査計画を作成し、量的および質的調査票の質問項目を決定し、データの収集を行う。また、収集したデータを適切な統計手法を用いて分析し、第5章の「結果」を原稿としてまとめることを目標とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

各自の研究テーマを決定し、研究方法論について学習し、研究計画の立案をたてる。研究方法論（目的、リサーチクエスション、仮説、標本抽出方法）を設定し、倫理申請が行えるよう準備をしていく。授業では各自の進捗状況について討議し、計画的に修士論文の執筆を進めるよう指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・修士論文の構成の確認	本演習の進め方を理解するとともに、修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
2	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
3	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画（日程、期間、対象者等）について討議する。
4	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
5	質問項目の作成（質的調査）	研究目的に応じた質的分析を行うための質問項目を設定する。
6	質的データの整理・分析	質的データを収集し、グラウンデッド・セオリー・アプローチを用いて収集したデータを整理し、コード化、カテゴリー化を行う。分析の途中経過を報告し、修正等の必要性について討議する。
7	調査における課題の確認	質的データの結果を踏まえて、量的調査の調査項目を精査する。
8	質問項目（量的調査）	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
9	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
10	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリー変数の作成などを行う。
11	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
12	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。

13	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の分析	推計統計を用いて仮説を検証し、結果を本文に記述する
14	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

調査計画の作成および対応する本文の執筆：20点
 調査票の作成および本文の執筆：20点
 データ収集および対応する本文の執筆：20点
 調査分析および対応する本文の執筆：20点
 尺度の信頼性および妥当性の検証と対応する本文の執筆：20点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の際に、本文執筆の進捗状況と次回の講義課題を確認します。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

本演習では修士論文のデータ収集を完了する必要があります。

【Outline (in English)】

(Course outline)

Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion.

(Learning Objectives)

In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study.

(Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria / Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義においては修士論文について「方法」の手順に従ってデータを収集し、「結果」の分析および信頼性・妥当性の検討を適切に行うことを目的とします。

【到達目標】

本演習の到達目標は、調査の仕様を確定させ、実際にデータを収集する際の調査計画を作成し、それに基づいてデータを収集することと、収集したデータから得られた結果を適切な統計手法を用いて分析し、まとめることである。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

計画的に修士論文の執筆を進める。毎週、受講者は事前に指示された点について授業時間外に記述・分析し、演習ではそれに関する添削を受ける。併せて、次の学習課題に関して指導を受ける。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	修士論文の章立ての確認	修士論文が論理的な構成のもとで成り立っているか確認する。
第2回	研究環境および対象の決定	修士論文のデータを収集する研究環境および対象を設定し、母集団と標本を特定する。
第3回	調査計画	実際にデータを収集するための調査計画を立てる。
第4回	質問項目	調査対象者の人口動態的特性、心理的要因、行動的特性などを測定するための質問項目を設定する。
第5回	調査票の作成	対象となる標本の人口動態的、心理的、行動的特性を測定するための調査票を作成し、データを実際に収集する。
第6回	序論（研究目的、重要性）と分析方法の調整	序論（1章）の研究目的や研究の意義が、方法（4章）で分析しようとする内容と一致しているか確認し、必要に応じて修正する。
第7回	調査データの入力およびデータクリーニング	データ入力、欠損値や異常値のクリーニング、変数の定義、カテゴリ変数の作成などを行う。
第8回	記述統計	標本の特性を示すために必要な記述統計を実施し、本文にその結果を記述する。
第9回	心理的尺度の信頼性と妥当性	対象者の心理的特性を分析した結果を図表で示し、それらを説明する文章を記述する。
第10回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）	推計統計を用いて仮説を検証する。
第11回	結果：仮説の検証（要因間の関係性）の記述	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第12回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）	必要に応じて二元配置の分散分析やセグメント別の多母集団構造方程式モデリングなどを行い、その結果を説明する文章を記述する。
第13回	結果：仮説の検証（調整変数の検証）の記述	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を本文に記述する。
第14回	まとめ	まとめとして、目的、方法、結果の内容が論理的につながるように調整するとともに、データや結果が正確に記述されているか確認する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

授業時間外の学習として毎週与えられる課題に取り組み、それを事前に記述・分析してきてください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

データ収集：20点

記述統計：20点

尺度の信頼性および妥当性：20点

仮説検証（関係性）：20点

仮説検証（調整変数）：20点

【評価基準】

それぞれの課題で獲得する得点は、以下の基準によって決定する。

100%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進め、研究としての新規性が十分に認められる。

80%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定と仮説に従って理論的な検証を進めている。

60%：計画に沿って研究を実施する際、科学的な方法に基づいて客観性を確保するとともに、明確な概念規定のもとで議論を展開している。

40%：計画に沿って研究を実施する中で、科学的な方法に基づき客観的に発表（または記述）している。

20%：自身が立てた計画に沿って研究を実施している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では理論に基づくことで履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

(Course outline) Master's theses are composed of the sections of introduction, literature review, conceptual framework, hypotheses development, method, results, discussion, and conclusion. (Learning Objectives) In this course, following the methodology designed for the master's thesis of each student, s/he will collect data and analyze the results of her/his study. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the method and result sections. (Grading Criteria/Policy) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の作成に向けて実験結果を解釈し、考察につなげることを目的とします。

【到達目標】

1. 研究データの分析法を習得する
2. 修士論文の結果を完成させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

履修者それぞれの研究課題の実験データの解析法、データの解釈について検討する。必要な情報・知識を深めることで結果を作成し、場合によっては方法なども修正する。適宜履修者がプレゼンテーションを行い、それに対して教員がフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	筋力の本測定	筋力データを取得し、分析する
2回	筋電図の本測定	筋電図データを取得し、分析する
3回	筋厚の本測定	筋厚データを取得し、分析する
4回	筋硬度の本測定	筋硬度のデータを取得し、分析する
5回	結果の確認	院生ごとに「結果」をディスカッションし、必要ならば「方法」を再検討する
6回	統計処理	統計分析を行う
7回	筋力結果のプレゼンテーション	筋力結果の方法から結果までをプレゼンテーションする
8回	筋電図のプレゼンテーション	筋電図の方法から結果までをプレゼンテーションする
9回	筋厚のプレゼンテーション	筋厚の方法から結果までをプレゼンテーションする
10回	筋硬度のプレゼンテーション	筋硬度の方法から結果までをプレゼンテーションする
11回	得られた結果の総合的解釈	それぞれの結果を総合的に解釈する
12回	結果を踏まえた考察の着想	結果に基づいた考察を検討する
13回	結果の限界	結果に基づく研究の限界を検討する
14回	考察についての検討	これまでの授業をふまえて総合的な考察を検討する

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献検索やプレゼンテーション資料の作成を実施してもらいます。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の「結果」の完成度(60%)、プレゼンテーション(40%)とします

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の結果の執筆に向けて、個別の課題に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよびプレゼンソフト

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of data acquisition and analysis to students.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding of interpretation of the results.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on results of master thesis (60%) and lab reports and presentations (40%)

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅲ

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を総合的に高める。
 ②研究の実効とデータ解析

【到達目標】

① 修士論文作成に必要な研究計画を具体的に実行していくための応用力を身につける。
 ② 修士論文の中核となる本調査を実施し、解析により仮説設定につながる根拠を得る。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

一定のプロセスを経て研究計画を進め、本調査実施及び結果の解析に向けて着実に研究を進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	年間計画の検討	研究テーマに応じた年間計画を定めるとともに、研究の目的について明確化する。
2回	研究テーマに沿った文献調査	研究テーマに関連する文献調査を実施し、実施しようとする研究の新規性、妥当性について検証する。
3回	研究目的となる仮説の立案	先行研究を踏まえ、研究目的となる仮説を立案する。
4回	仮説設定に向けての予備調査の検討	仮説設定を目的とし、予備調査を企画・立案する。
5回	予備調査の実施	予備調査を実施し、調査内容の課題について検討する。
6回	本調査に向けた論点整理	本調査のための準備を進め、課題となる論点について整理する。
7回	本調査の実施にむけての準備と実施	本調査に向けて準備をすすめる、調査を実施する。
8回	統計処理の手法の確認	収集データに対する分析方法について検討する。
9回	収集データの整理及び入力	収集データについて問題点の整理を行い、入力を進める。
10回	調査結果の解析	集計したデータをもとに統計的解析を進める。本調査の統計的解析を進めるとともに、結果についてまとめる。連性についてまとめる。
11回	先行研究との関連性の検討	先行研究との整合性や関連性について検討したうえで、本研究から導き出せる仮説について検証する。
12回	修士論文全体構想の方向性について検討	研究成果を踏まえ、当初の修士論文全体構想について課題を明らかにし、改善を図るための方策を考える。
13回	中間発表会用発表資料の作成	発表資料の作成と改善点の把握
14回	中間発表会用プレゼンテーション資料の作成	プレゼンテーションの資料作成と改善

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

調査法や調査結果の解析法について自身で事前に理解を深めておくとともに、分析を進める。準備には前後4時間以上をかけて事前準備及び振り返りを実施し、授業に臨むこととする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜配付。

【参考書】

適宜アナウンスする。

【成績評価の方法と基準】

論文作成に向けた進捗状況・レポート（70%）、プレゼンテーション（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業ごとに、研究の方向性などについて意見交換を積極的に実施し、学生にとって不利益を被ることのないよう配慮する。

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

(Course outline)This course deals with thesis for master degree of health education, public health. It also enhances the development of academic skills for graduation from university.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to complete graduation thesis based on the sophisticated expertise of health education or public health.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend over 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process graduation thesis(70%),mid-term presentation(30%)

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

泉 重樹

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

修士論文作成に必要な研究の文章化を行う。さらに自身の研究を発信する力を高める。

【到達目標】

1. 引き続き、スポーツ外傷・障害予防、コンディショニング・リコンディショニング、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究を実践する。
2. 研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションを行う。
3. 関連分野における学会発表を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ外傷・障害予防、コンディショニング・リコンディショニング、運動器に対する物理療法の効果等に関する各自の研究実践結果に基づき議論を行うとともに、修士論文を完成させる

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	オリエンテーション	これまでの各自の研究の振り返り、ディスカッション
2回	研究実践／方法論の振り返り	実験等自身の行ってきた研究方法の振り返り
3回	研究実践／結果のまとめ	実験等自身の行ってきた研究の結果報告
4回	研究実践／結果に基づいた考察	自身の行ってきた研究の結果に基づいて考察する
5回	研究実践／考察（外傷・障害予防の観点）	自身の行ってきた研究について外傷・障害予防の観点から考察する
6回	研究実践／考察（運動機能評価の観点）	自身の行ってきた研究について運動機能評価の観点から考察する
7回	学会発表予演およびディスカッション	自身の行ってきた研究のプレゼンテーションおよびディスカッション
8回	学会発表	関連各種学会で研究発表を行う
9回	研究実践／考察（アスレティックトレーニング全般含む）	学会発表で得られた知見を踏まえてさらに考察を深める
10回	研究実践／考察の完成	自身の研究の考察までを文章として完成させる。
11回	修士論文の完成（仮）	予備審査提出用の修士論文を完成させる
12回	査読後の修士論文チェック	予備審査を踏まえて、修士論文を推敲する
13回	修士論文の完成および最終発表予演	修士論文を完成させるとともに審査会用のプレゼンテーションの予演を行う
14回	最終発表会	修士論文の最終発表を行う

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

自身の研究分野だけでなく、広い視野を持って研究に臨む姿勢が重要である。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

田中喜代次他、身体活動科学における研究方法、NAP

【参考書】

1. 広瀬統一他、アスレティックトレーニング学、文光堂、2019
 2. 日本スポーツ振興センターハイパフォーマンススポーツセンター編、アスリートのためのトータルコンディショニングガイドライン、サンライフ企画、2023
- 他、適宜紹介する

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

学生による発表が演習の中心となる。学生と双方向のやり取りの機会を増やし、学生自身が積極的にかかわることで本演習をより活性化していきたい。

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

【Course outline】 There are two purposes of the seminar. First, to create a master's thesis from the introduction to the conclusion. Second, to prepare for final presentation and master's thesis review board.

【Learning Objectives】 Students will conduct experimental research and survey research on the prevention of sports injuries and disorders, and write a graduation thesis.

【Learning activities outside of classroom】 The standard preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】 Evaluation will be based on research plan (10%), presentation (20%), and graduation thesis (70%).

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

伊藤 真紀

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、各自の研究テーマのもと修士課程で培った総合的な研究遂行能力の集大成として修士論文を書き上げを目的とする。また、研究に取り組んだ成果を発信する能力を身に付け、修士論文発表会に臨むことを目的とする。

【到達目標】

履修者は本演習を通じて以下の目標に到達する：

1. 分析結果を考察するとともに、仮説の検証が示す意味を客観的に解釈し、そこから引き出した知見(学術的貢献、実践的提案、研究の限界、今後の展望)について記述する。
2. 実施した研究では明らかにできなかった点や研究方法における問題点を記述するとともに、今後の研究が取り組むべき研究課題や改善点についても言及する。
3. 指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善できる。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。各授業では、履修者が研究の進捗状況について発表し、指導教員との討議を通して修士論文の内容を精査する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	オリエンテーション・研究内容の確認	修士論文が論理的な構成のもとで作成が進んでいるか確認する。
2	結果（質的データ分析）	質的分析（グラウンデッド・セオリー・アプローチ）を用いて収集したデータを整理し、コード化、カテゴリー化を行う。分析結果を、図表を用いて示す。
3	結果（記述統計、心理的尺度、因子間相関）	標本の基本属性の集計に加え、心理的尺度の因子分析を行って合成信頼性、平均分散抽出、因子間相関を報告し、これらの結果を確定させる。
4	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
5	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
6	考察（棄却された仮説）	仮説と一致しない結果や予期せぬ結果ついて、何故そのようなことになったのか慎重に考察する。
7	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
8	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
9	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
10	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
11	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の7章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。

12	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。
13	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
14	論文審査への対応方法（原稿の修正）	各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（毎回資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

結果（分析）：10点
 結果（仮説検証）：10点
 考察（学術的貢献）：10点
 考察（予期せぬ結果）：10点
 考察（実践的貢献）：10点
 考察（研究の限界と今後の展望）：10点
 結論（目的の達成度）：10点
 文章力：10点
 書式、体裁、参考文献、巻末資料：10点
 全体を通しての完成度：10点
 合計：100点

【評価基準】

それぞれの観点を以下の基準に従って評価する：

- 10点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へとつなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。
 8点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとつなげ、内容に独創性と論理性がある。
 6点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとつなげ、内容に独創性がある。
 4点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとつなげている。
 2点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

毎回の講義の際に、本文執筆の進捗状況と次回の講義課題を確認します。

【学生が準備すべき機器他】

修士論文を執筆するためのパソコン、マイクロソフト・オフィス（ワード、エクセル、パワーポイント）

【その他の重要事項】

本演習では修士論文を完成し、提出します。初稿の完成は11月30日とし、12月1日から副指導教員による初稿の添削を受けてもらいます。

【Outline (in English)】

(Learning objectives)

The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to analyze data and write the result and discussion sections.

(Grading criteria) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis the quality of writing on the master's thesis on research setting (20%), measurement (20%), data collection, sample characteristics (20%), and reliability and validity assessments (20%).

OTR60011 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本講義では、研究をまとめ、その成果を発信する能力を身に付けること、研究テーマのもと修士課程の集大成として修士論文を書き上げることを目的とする。

【到達目標】

本講義では結果が示唆する内容についてまとめ、考察部分を書き上げること、主・副指導教員や他者からの助言に従って修士論文に修正を加え、指摘された問題点を適切に改善することを目的とする。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

これまでの学習を基に、修士論文を計画的な手順（文献研究、調査の計画、データ収集、分析、結果の考察）に沿って進め、論文を完成させることを目的とする。本演習では修士論文の結果の考察、本文の執筆、全体的な推敲を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツマネジメント研究としての修士論文	スポーツマネジメント領域の修士論文の水準と論理的な構成のもとで作成が進んでいるかどうかを確認する。
第2回	考察（心理的尺度）	心理的尺度の因子分析の結果を先行研究、研究環境、サンプル特性、データ収集方法などと照らし合わせながら考察し、学術的貢献について論じる。
第3回	考察（要因間の関係性）	要因間の関係性に関する仮説検証の結果を考察し、修士論文が果たす学術的貢献についても論じる。
第4回	考察（調整変数の影響）	調整変数の影響に関する仮説検証の結果を考察し、研究環境やグループ間の違いを説明するとともに、結果が示す学術的貢献についても記述する。
第5回	考察（棄却された仮説）	仮説どおりにならなかった結果や予期しなかった結果ついて、何故そのような事態になったのか慎重に考察する。
第6回	考察（実践的貢献）	研究結果を基に、修士論文がスポーツマネジメントの現場に対して果たす実践的貢献について説明する。
第7回	考察（研究の限界と今後の展望）	各自の修士論文の作成において生じた制約、方法上の限界、バイアス、弱点などについて記述するとともに、それらを踏まえ今後の展望を紹介する。
第8回	研究の目的、結果、考察つながり	研究を通じて目的がどの程度達成されたかどうかを確認し、論理性に問題があれば修正する。
第9回	結論	目的と結果を照らし合わせ、どの程度目的が達成されたかを説明するとともに、結論として重要な発見を特定し、記述する。
第10回	引用文献、巻末資料	引用文献と巻末資料を整え、修士論文を書き上げる。
第11回	全体を通しての推敲	序論、先行研究、概念的枠組みと仮説、方法、結果、考察、結論の7章から成る修士論文を読み返し、内容を精査する。
第12回	他者評価に基づく修正	指導教員や副指導教員をはじめとした専門家から問題点を指摘してもらい、内容を適切に修正する。

第13回	論文審査への対応方法（プレゼンテーション）	各自の修士論文の論旨（目的、重要性、主な結果、学術的貢献）が明確に伝わる研究報告とするためのプレゼンテーション資料を作成し、実際に発表する。
第14回	論文審査への対応方法（原稿の修正）	各自の修士論文に対して与えられる指摘や批判を想定するとともに、それらへの適切な対応方法について十分に理解し、実際の対応に役立てる。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

2年次後期には分析に必要なすべてのデータが揃います。各自が修士論文の作成を進め、序論から結論までの論理性を再度確認し、必要に応じて修正してください。本授業の準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし（必要に応じて資料を配布する）

【参考書】

各学生の研究テーマに関連する先行研究や学術図書

【成績評価の方法と基準】

考察（心理的尺度）：10点
 考察（仮説検証）：10点
 考察（予期せぬ結果）：10点
 考察（学術的貢献）：10点
 考察（実践的貢献）：10点
 考察（研究の限界と今後の展望）：10点
 結論（目的の達成度）：10点
 文章力：10点
 書式、体裁、参考文献、巻末資料：10点
 全体を通しての完成度：10点
 合計：100点

【評価基準】

それぞれの観点で以下の基準に従って評価する：

10点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者からの指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性が十分にあり、修士論文として優れた水準に達している。
 8点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性と論理性がある。
 6点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげ、内容に独創性がある。
 4点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆するとともに、他者から指摘を適切に修正へとなげている。
 2点：これまでに学習してきた内容を踏まえて執筆している。

【学生の意見等からの気づき】

授業では論理性に注意し、履修者がより深く考えるように進めていきます。

【Outline (in English)】

(Course outline) This course introduce how to complete the master's thesis and to learn the presentation skill. (Learning objectives) The purposes of this course are to (1) develop skills to present the results of a research study and (2) write a master's thesis that is worthy of being considered as a scientific paper in the field of sport management. (Learning activities outside of classroom) Before each class, students are expected to analyze data and write the result and discussion sections. (Grading criteria) Grading will be decided based on the quality of writing on the master's thesis (100%).

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【Learning activities outside of classroom】

Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Policy】

master's thesis (100%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

本授業では、修士論文の考察を進めることで、論文完成につなげることを目的とします。

【到達目標】

1. 修士論文の結果を完成させる
2. 修士論文の発表にむけたプレゼンテーション能力を向上させる

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

履修者それぞれの研究テーマにあわせた考察をまとめる。あわせて結語と要旨を作成し、必要な支援をする。適宜履修者がプレゼンテーションを行い、それに対して教員がフィードバックする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	筋力の論文の考察	先行研究をもとに筋力論文の考察をまとめる
2回	筋電図の論文の考察	先行研究をもとに筋電図論文の考察をまとめる
3回	筋厚の論文の考察	先行研究をもとに筋厚論文の考察をまとめる
4回	筋硬度の論文の考察	先行研究をもとに筋硬度論文の考察をまとめる
5回	考察全体のまとめ	全体を通して考察をまとめる
6回	修士論文の結語	修士論文の結語を作成する
7回	修士論文の要旨	修士論文の要旨を作成する
8回	結語と要旨の作成	全体を通して結語と要旨を検討する
9回	緒言の発表	緒言のスライドを作成し、プレゼンテーションする
10回	方法の発表	方法のスライドを作成し、プレゼンテーションする
11回	結果の発表	結果のスライドを作成し、プレゼンテーションする
12回	考察の発表	考察のスライドを作成し、プレゼンテーションする
13回	修士論文全体の発表	修士論文発表会に向けた発表練習する
14回	発表スライドと発表時間の最終確認と投稿準備	最終的なプレゼンテーションの確認と論文投稿の準備をする

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

文献検索やプレゼンテーション資料の作成を実施してもらいます。これらの準備学習・復習時間は各2時間を標準とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要となる参考書をその都度紹介する。

【成績評価の方法と基準】

修士論文の完成度ならびにプレゼンテーション（100%）

【学生の意見等からの気づき】

修士論文の執筆に向けて、個別の課題に対応していきます。

【学生が準備すべき機器他】

PCおよびプレゼンソフト

【その他の重要事項】

特になし。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course introduce how to complete the master's thesis and to learn the presentation skill.

【Learning Objectives】

The end of the course, students should acquire to write master's thesis.

OTR600I1 (その他 / Others 600)

スポーツ健康学演習Ⅳ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【Outline (in English)】

(Course outline)This course deals with research of health education, and public health. It also enhances the development of valuable academic skills for master's degree.

(Learning Objectives)

The goals of this course are to complete graduation thesis based on the sophisticated expertise of health education or public health.

(Learning activities outside of classroom)

Before/after each class meeting, students will be expected to spend over 2 hours to understand the course content.

(Grading Criteria/Policy)

Final grade will be calculated according to the following process

Mid-term presentation(10%),thesis for Master-degree(80%),in class contribution(10%)

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

①修士論文作成に必要な研究の文章化、そしてこれを発信する力を高める。

【到達目標】

①研究データを論文として纏め上げ、わかりやすくプレゼンテーションできる。
 ②研究成果は学会等で発表する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP3」「DP4」「DP5」「DP7」に関連

【授業の進め方と方法】

全体の研究計画をもとに、修士論文中間発表会での指摘も踏まえ、改善にあてる。その上で、修士論文の全体構成を確認し、理論構成や考察の充実を図っていくことにより、修士論文を完成させる。また、先行研究の検索は継続して実施し、最新の知見が修士論文に反映されるよう指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1回	中間発表会での発表	研究テーマ、目的、仮説、研究方法、結果が発表できるよう指導する。
2回	中間発表会の振り返り	発表会で得られた、質問等を踏まえ、改善点を抽出し、方策を考える。
3回	統計解析の手法の検討	統計解析により追加分析を実施する。
4回	改善点の検討	データの解釈を見直し、改めて新規性、妥当性について議論する。
5回	全体構成に関する論点整理	先行研究と本研究で得られた成果との関連性について論点整理をおこなう。
6回	修士論文の構成の検討	学会での質問事項や新たな情報をもとに論文構成について検討する。
7回	先行研究の整理	修士論文の研究テーマに関連する先行研究をもとに研究に至った背景をまとめる。
8回	調査方法の整理	修士論文の調査方法について整理する。
9回	修士論文の結果の検討	得られた結果について内容の順序性や統計的検討も踏まえ、整理する。
10回	修士論文の考察の検討	結果を基に、先行文献とも関連させながら考察を深める。受講生間の意見交換での示唆を参考にしよう指導する。
11回	修士論文の考察の作成	全体構成を考慮し、前提となる仮説に立脚した考察を作成する。
12回	修士論文作成	修士論文について完成を目指す。
13回	修士論文審査の準備	論文審査会に向けて、口頭試問のりハーサルを行う
14回	修士論文の修正	審査会の指摘や評価をもとに、論文の修正点について指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

修論執筆に向けて必要となる先行研究についてまとめ、修論の考察が深められるようにする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて論文や資料を配付。

【参考書】

学校保健研究（学会誌）

【成績評価の方法と基準】

修士論文完成に向けた資料・データの分析、考察・まとめ等の達成度（80%）、修士論文中間発表会におけるプレゼンテーション（10%）、発表会等への参加態度（10%）

【学生の意見等からの気づき】

授業ごとに、意見交換を積み重ねることにより、研究遂行にあたって疑問点を残さないよう心掛ける。

【その他の重要事項】

特になし。

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発特論A (ヘルス領域)

泉 重樹、越智 英輔、鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的 (何を学ぶか)】

スポーツ健康学高度開発特論A (ヘルス系) では、医科学的なアプローチから、身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションに関する専門的知識や技能を修得する。運動科学的アプローチからは、機能解剖学、運動生理学、運動指導について、健康科学的アプローチから、健康教育・公衆衛生学に関する専門的知識を修得する。以上により、生涯を通じての積極的な健康づくりを支援・指導できるようになるための専門的知識や技能を修得し、健康づくりの高度な促進を支援・指導できるようになることを目的とする。

【到達目標】

健康づくりの高度な促進を支援・指導するための知識と技能の修得

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか (該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連)】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

医科学的アプローチ (泉) から身体の構造と機能に基づく評価・処置、運動器リハビリテーションについて解説し、運動科学的アプローチ (泉、越智) から機能解剖学、運動生理学、運動指導について解説する。健康科学的アプローチ (鬼頭) から健康教育・公衆衛生学については解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を1コマ分行う (担当：鬼頭)。

【アクティブラーニング (グループディスカッション、ディベート等) の実施】
あり / Yes

【フィールドワーク (学外での実習等) の実施】
あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を行う (担当：鬼頭)。
第2回	機能解剖学、健康科学の研究分野と課題	機能解剖学、健康科学、運動器リハビリテーション分野の具体的研究を紹介しそれぞれの研究分野あるいは重複する分野を紹介しながら整理する (担当：泉)。
第3回	姿勢とアライメントが運動器に及ぼす影響についての研究課題	正常な姿勢を理解し実際に修得し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかなどを体験しながら考察していく。こうしたマルアライメントが運動器疾患に及ぼす影響についての研究を紹介し議論する (担当：泉)。
第4回	習慣的動作が運動器に及ぼす影響についての研究課題	日常生活動作に関わる正常な動作パターンを理解し、これから逸脱した時のストレスがどこにかかるかを体験しながら考察していく。正常から逸脱した動作パターンを繰り返すことで引き起こされる運動器の障害について研究論文を紹介し議論する (担当：泉)。
第5回	アスレティックトレーニング	日本のアスレティックトレーニングを北米のアスレティックトレーニングの歴史と現状を対比させながら紹介し超高齢社会の日本におけるヘルスケア専門職としての役割を議論する (担当：泉)。
第6回	スポーツ現場の安全管理	本邦のスポーツ時緊急対応計画の現状を米国のスポーツ現場の安全管理の最新状況と対比させながら紹介するとともにスポーツ現場の安全管理の実態に関して議論する (担当：泉)。

第7回	外傷・障害予防	アスレティックトレーナーを中心にスポーツ現場で行われる外傷・障害予防に関する研究を紹介しながらスポーツ傷害を「防ぐことが可能である必然的な事象」として向き合うための方策について議論する (担当：泉)。
第8回	コンディショニング・リコンディショニング	外傷・障害の受傷から競技復帰までの取り組みについて主に外傷・障害評価および運動器リハビリテーションの観点から研究を紹介しスポーツにおける多職種の役割と連携について議論する (担当：泉)。
第9回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学①	運動生理学的視点から健康の維持・増進および疾病予防を理解する。関連する最新の知見からライフステージ別あるいは疾患別に解説およびディスカッションする (担当：越智)。
第10回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学②	運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う骨格筋の損傷・肥大に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする (担当：越智)。
第11回	身体運動科学、運動生理学的視点による運動科学③	健康づくりを高度に促進するための運動・栄養摂取について理解を深める。特に運動に伴う呼吸循環器系の応答・適応に関して、先端的知見をミクロ・マクロの視点から解説およびディスカッションする (担当：越智)。
第12回	健康教育の視点による健康科学①	生涯を通じての健康を妨げる要因、危険行動について現状把握と課題克服に向けての取組の在り方について論じる。(担当：鬼頭)
第13回	健康教育の視点による健康科学②	学校教育における健康教育の課題と対応について論じる。(担当：鬼頭)
第14回	公衆衛生学の視点による健康科学	健康への環境対策や感染症対策などに焦点を当て、疫学的な視点も踏まえて、対策の手立て等について論じる。(担当：鬼頭)

【授業時間外の学習 (準備学習・復習・宿題等)】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。予習・復習少なくとも2時間は必要である。

【テキスト (教科書)】

適宜、資料を配付する。

【参考書】

適宜、資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

授業での取組状況 (参加態度による) (40点)、レポート60点 (担当者：鬼頭、泉、越智が20点満点で評価)

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

泉担当：特になし。越智担当：特になし。鬼頭担当：ノートパソコン。

【その他の重要事項】

各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがある。

【Outline (in English)】

【Learning Objectives】

Students will acquire the knowledge, and skills to be able to support and lead on health promotion through one's life.

【learning activities outside of classroom】

Before/after each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

【Grading Criteria/Polic】

Your overall grade in the class will be decided based on the following. Reports(60%),in class contriobution(40%)

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発特論B (マネジメント領域)

伊藤 真紀、井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論B（マネジメント系）では、スポーツ組織のマネジメントに関する基礎的かつ専門的知識を修得することを目的とし、履修者はスポーツ組織の内部環境と外部環境のマネジメントについて学ぶ。スポーツ組織の内部環境のマネジメントについてはスポーツ組織論のアプローチから理解を深める。スポーツ組織の外部環境のマネジメントについては、スポーツマーケティング論のアプローチから学習する。

【到達目標】

高度なスポーツマネジメント能力の向上において不可欠な (1) スポーツ組織の内部環境のマネジメント（スポーツ組織論）と (2) 外部環境のマネジメント（スポーツマーケティング）について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

学期の前半では組織論、組織行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の内部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学習するとともに、履修者の興味のある事例にそれらをあてはめ、考察する。学期の後半ではマーケティング論、消費者行動論、社会心理学などの知見をスポーツへと応用し、スポーツ組織の外部環境のマネジメントの構造、重要概念、理論について学び、併せて履修者の興味のある事例にそれらを適応・調整することで理解を深める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：オンライン/online

回	テーマ	内容
第1回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を行う(担当：伊藤)。
第2回	組織行動論	組織論の目的、組織とは何か、組織の分類、組織の境界線、経営組織と集団行動（チームのダイナミクス）、組織文化について学習する(担当：伊藤)。
第3回	個人の理解(パーソナリティと対人認知)	パーソナリティと組織行動について学習する。組織における対人認知、対人的コミュニケーションと組織コミュニケーション、組織における効果的なコミュニケーション戦略について理解を深める(担当：伊藤)。
第4回	組織の中の集団	組織の中の集団チームを理解する。コミュニケーションプロセス並びに異文化コミュニケーションについて理解する(担当：伊藤)。
第5回	動機付けの基本的なコンセプト	モチベーション理論（自己決定理論、期待理論など）を理解し、人のモチベーションのメカニズムを理解する(担当：伊藤)。
第6回	モチベーション理論（自己決定理論、期待理論など）を理解し、人のモチベーションのメカニズムを理解する(担当：伊藤)。	リーダーシップ理論の変遷を理解し、スポーツ組織における効果的なリーダーシップの在り方について学習する(担当：伊藤)。
第7回	組織変革と組織開発	組織の理念、ビジョン、戦略に関する考え方を理解し、スポーツ組織における組織形態について学習し、組織開発におけるマネジメントについて学習する(担当：伊藤)。

第8回	スポーツビジネスと顧客満足	人々がスポーツに求めるニーズに応え、顧客満足を獲得することはスポーツ組織の重要なマーケティング目標である。今回はこのテーマについて、顧客満足理論と属性理論の視点から理解を深める(担当：井上)。人々はスポーツイベント、選手、チーム、スタジアム、開催都市、スポンサーなどに対して好意的、あるいは非好意的な態度を形成する。そのメカニズムを態度理論と精緻化見込みモデルによって解明する(担当：井上)。
第9回	スポーツ消費者態度	人々は外部環境からの刺激や自己の心理状態を理由にスポーツ関連の対象（イベント、選手、チーム、スポンサー、テクノロジーなど）の評価を変容させる。この変容のプロセスを計画的行動理論とテクノロジー受容モデルの視点から学ぶ(担当：井上)。スポーツは人々のアイデンティティ形成と密接に関わっている。アイデンティティに基づいたスポーツマーケティングを理解するため、社会的アイデンティティ理論と組織的アイデンティフィケーション理論をスポーツへと応用する(担当：井上)。人々はスポーツ関連の対象との関係性を段階的に強めていく。このプロセスを理解するため、心理的連続モデルとスポーツ関与について学習する(担当：井上)。
第10回	スポーツ消費者の態度変容	スポーツブランドのイメージは付加価値を生み出す。この価値の構造と高め方について、ブランド価値モデルとブランドビルディング理論の視点から理解を深める(担当：井上)。これまで学習した内容をまとめ、スポーツマネジメント能力とは何かという疑問に対する答えを導き出す(担当：井上)。
第11回	スポーツビジネスと社会的アイデンティティ	
第12回	スポーツビジネスと心理的連続モデル	
第13回	スポーツビジネスとブランド	
第14回	まとめ	

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うので、専門的知識の予習・復習が必要となる。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付する

【参考書】

適宜、資料を配付する

【成績評価の方法と基準】

スポーツ組織の内部環境のマネジメントに関するレポート：50点、スポーツ組織の外部環境のマネジメントに関するレポート：50点

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

特になし

【その他の重要事項】

特になし

【Outline (in English)】

(Course outline)

The goal of this course is to understand the management principles of sport organizations.

(Learning objectives)

In this course, students will learn both internal and external management theories which include organizational behavior and sport marketing.

(Learning activities outside of classroom)

Before each class, students are expected to read relevant articles and book chapters.

(Grading criteria)

Grading will be decided based on mid-term (50%) and final (50%) reports. Upon successful completion of this course, students will be able to understand the logic, importance, and uniqueness of the management of sport organizations.

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発特論C (コーチング領域)

永木 耕介、中澤 史、林 容市、木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

スポーツ健康学高度開発特論C（コーチング領域）では、自然科学および心身科学的アプローチから、履修者が高度なスポーツパフォーマンスの発揮・向上に関する専門的知識を修得しつつ、選手・コーチやスポーツ組織の支援・指導について理解を深めることを目的とする。また、人文社会科学的アプローチから、履修者が生涯スポーツに結びつく学校体育や社会一般を含めたスポーツ教育としてのよりよい支援・指導について理解を深めることを目的とする。

【到達目標】

高度なスポーツパフォーマンス向上に対する支援・指導、および質の高いスポーツ教育の支援・指導について理解を深める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」,「DP2」,「DP3」に関連

【授業の進め方と方法】

自然科学的アプローチ（木村：バイオメカニクス、林：体力学・体力測定評価学）からスポーツパフォーマンス向上のための体力や身体の機能と構造・メカニズム、測定・評価方法等について解説し、さらに心身科学的アプローチ（中澤：スポーツ心理学）から人格形成に及ぼす効果やメンタルトレーニングの技術・方法について解説する。また、人文社会科学的アプローチ（永木：スポーツ教育学）から生涯スポーツ教育について解説する。なお、研究倫理教育として、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を1コマ分行う（担当：林）。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究倫理について	研究倫理教育の一環として、研究者によるねつ造、剽窃等の不正行為の徹底した防止を目的に、本学が指定するeラーニングコースを利用した講義を行う（担当：林）。
第2回	生涯スポーツ教育① -学校体育の目標の変遷-	日本の学校体育がどのような目標と内容によって行われてきたのかについて諸外国との比較を踏まえて解説し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第3回	生涯スポーツ教育② -学校運動部と学校外クラブについて-	日本のスポーツを支えてきた学校運動部および学校外クラブのこれまでと今後のあり方について講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。
第4回	生涯スポーツ教育③ -スポーツの教育的価値とは何か-	スポーツの教育的価値がどのように捉えられてきたかについて、日本と諸外国を対比させながら講述し、ディスカッションを通して理解を深める（担当：永木）。

第5回	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	応用スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第6回	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援	臨床スポーツ心理学に依拠したアスリートの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援の競技力向上効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第7回	心理支援におけるアスリートの心理社会的スキル	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの心理社会的スキルの向上に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第8回	心理支援におけるアスリートの人格形成	人間関係の軋轢、進路、怪我などの心理的課題を訴えるアスリートへの心理支援に関する先行研究を提示し、その支援がアスリートの人格形成に及ぼす効果についてディスカッションを通して理解を深める（担当：中澤）。
第9回	体力学・測定評価学① -体力測定・評価で明らかになるものとは-	スポーツやトレーニング時の身体状態などを測定・評価する種々のテストについて解説し、国内外におけるテストの開発や評価法の変遷について理解を深める（担当：林）。
第10回	体力学・測定評価学② -体力測定・評価の信頼性・妥当性-	体力やパフォーマンスを測定する種々のテストの妥当性、評価の信頼性について解説し、テストで得られる結果と生理的要因などとの関連について理解を深める（担当：林）。
第11回	体力学・測定評価学③ -データを分析・評価方法する適切な統計手法-	体力・パフォーマンステストで得られた結果を分析・評価する方法、さらに代表的な統計手法を解説し、適切な測定・評価を選択できる能力を身につける（担当：林）。
第12回	トレーニング科学における理論と実践	トレーニング科学とはどんな学問分野なのかを説明した後に、共有されている理論を紹介する。加えて、トレーニング科学の理論や知見がどのように活用されているのかを紹介する。
第13回	バイオメカニクスにおける理論と実践	バイオメカニクスとはどんな学問分野なのかを説明した後に、共有されている理論を紹介する。加えて、バイオメカニクスの理論や知見がどのように活用されているのかを紹介する。
第14回	トレーニング科学とバイオメカニクスの接点	トレーニング科学とバイオメカニクスの特性を踏まえた上で、両者を融合させた新たな研究のかたちについて紹介する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

オムニバス形式により担当教員が各々の専門的授業を行うため、毎回の授業に対して専門的知識の予習・復習をそれぞれ2時間以上行うことを想定し、各授業を実施します。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料を配付します。

【参考書】

永木担当：『気概と行動の教育者-嘉納治五郎』（生誕150周年記念出版委員会編、筑波大学出版会、2011）、『中学校学習指導要領・保健体育編解説』（文部科学省、東山書房、2017）、『体育の人間形成論』（友添秀則、大修館書店、2009）、『よくわかるスポーツ倫理学』（友添秀則編著、ミネルヴァ書房、2017）

中澤担当：『スポーツメンタルトレーニング教本三訂版』（日本スポーツ心理学会（編）、大修館書店 2016）

【成績評価の方法と基準】

授業参加態度点（40点）、レポート60点（担当者：永木・木村・林・中澤が各15点満点で評価）

【学生の意見等からの気づき】

博士論文の作成に向けて参考になる情報や資料の提示を心がけた授業を展開します。

【学生が準備すべき機器他】

永木担当：特になし。

木村担当：必要に応じて授業中に指示する。

林担当：必要に応じて授業中に指示する。

中澤担当：必要に応じて指示する。

【その他の重要事項】

各担当教員による授業の順番は進捗状況によって変更することがあります。

【Outline (in English)】

【Course outline】 The purpose of this class is to study students' acquired expertise on the demonstration and improvement of advanced sports performance through natural and psychosomatic science approaches and to deepen understanding of how to provide support and guidance to athletes, coaches, and sports organizations. In addition, students will deepen their understanding of providing better support and guidance in sports education related to school physical education and lifelong sports through the humanities and social science approach.

【Learning Objectives】

Promote a greater understanding of support and coaching for improved sports performance and quality sports education.

【Learning activities outside of classroom】

This course is taught in an omnibus format by the faculty members in charge of each specialty and requires 2 hours of preparation and review for each class of specialized knowledge of the faculty members.

【Grading Criteria /Policy】

Grading will be decided based on the contents of class participation (not attendance) (40 %) and the evaluation of a report (60%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 I

井上 尊寛

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

社会科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手技を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ。ソフトウェア等）について指導を行う。
第8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 I

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの収集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手技を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ。ソフトウェア等）について指導を行う。
第8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course aims to provide support on how to collect previous research and data on the research theme and how to organize and examine them.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 I

島本 好平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を行い、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツバイオメカニクスおよびトレーニング科学分野の特性と位置づけを改めて指導する。その上で博士論文の作成に向けて議論を重ねていく。履修者が想定する研究テーマに直結あるいは関連した先行研究の収集、プレゼンテーションを含めたその解釈、そしてデータベース化を指導する。併せて、必要となる測定・分析の原理と手技を指導する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	博士論文作成へ向けて、修士論文との関連を踏まえてどのような研究テーマに関心があるのか、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究テーマの想定②	想定する研究テーマの意義・目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	想定する研究テーマに対して、履修者がこれまでに収集した先行研究・文献資料にはどのようなものがあるのかについてプレゼンテーションし、それに対する意見交換を行う。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	必要な先行研究・文献資料の検索についてインターネットによる調査方法を演習し、また国会図書館、各大学図書館等における資料収集についても推奨し、網羅的な収集の支援・指導を行う。
第5回	外国語（英語）文献の講読①	履修者が新たに入手した英語による重要な先行研究・文献資料を指導教員とともに講読し、意見交換を行う。
第6回	外国語（英語）文献の講読②	前回に加え、英語による重要な先行研究・文献資料を教員とともに講読し、意見交換を行う。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討①	先行研究・文献資料の整理・検討の方法（タグ付、カテゴライズ。ソフトウェア等）について指導を行う。
第8回	先行研究・文献資料の整理・検討②	履修者が研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料を取り上げ、それらの共通性と相違性、実験法についてプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第9回	外国語（英語）によるプレゼンテーション①	履修者が前回で明らかとなった重要な複数の先行研究・文献資料の共通性と相違性、実験法について英語でプレゼンテーションし、意見交換と指導を行う。
第10回	先行研究・文献資料の整理・検討③	研究テーマと関わる重要な複数の先行研究・文献資料の整理・検討を通して、これまで何が明らかなのか、今後の課題は何かについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第11回	外国語（英語）によるプレゼンテーション②	履修者がこれまでの先行研究・文献資料で明らかとなっている点、および今後の課題について英語でプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第12回	研究テーマの検討①	先行研究・文献資料の傾向を踏まえ、暫定的な研究テーマの意義、独創性等についてさらに検討するよう指導する。
第13回	研究テーマの検討②	先行研究・文献資料の傾向を踏まえた暫定的な研究テーマの意義、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	ここまでの作業を踏まえ、暫定的な研究テーマを設定するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備。準備にかかる時間は事前・事後も含め4時間以上は必要。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

適宜、資料を配付。

【成績評価の方法と基準】

資料収集力および分析能力（50%）、プレゼンテーション力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、文献整理用ソフトウェア

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces basic components of research works at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to find the previous studies that the student will be useful to plan the PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria / Policies: Grading will be decided based on lab reports (50%) and presentations (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 I

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

研究倫理の徹底や論文英語のリーディング・ライティングの能力等、基礎的な研究スキルを高めながら、研究テーマに関する先行研究・情報データの蒐集とそれらの整理・検討の方法についての支援・指導を受け、研究構想・計画の立案を行うことを目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、研究の構想を練り計画を立案する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野の研究を進める上で必要となる国内外の先行研究をレビューし、従来スポーツ・コーチング、トレーニングの実際場面で用いられてきた方法や概念と比較検討しながら、多角的かつ客観的な対象の把握ができることを授業の目的とする。また、基礎的な研究スキルとして、種々のデータ分析事例を対象に適切な統計的手法の適用についても指導を行う。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究テーマの想定①	修士論文との関連を踏まえ、博士論文作成へ向けた体力学および体力測定評価学分野の研究テーマについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第2回	研究テーマの想定②	研究テーマを解決することによるスポーツ・コーチング、トレーニングの実際場面における意義、目的、独創性等について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第3回	先行研究・文献資料の収集①	設定した研究テーマに関連する先行研究まとめ、博士論文で取り組む課題の現状をまとめて報告した上で、それに対して履修者間で論議し、研究の方向性について指導を受ける。
第4回	先行研究・文献資料の収集②	前回の論議内容を踏まえて再選定した複数のキーワードで先行研究の検索を行い、博士論文で取り組む課題に関して網羅的に実施した文献研究の結果を報告する。
第5回	先行研究・文献資料の整理・検討①	キーワードごとに選定された論文の結果を整理し、報告されている結果から、現在までに残存している課題を顕在化させ、博士論文で実施する研究課題の選定を行い、指導を受ける。
第6回	先行研究・文献資料の整理・検討②	前回受けた指導を踏まえて選定された課題について再度整理してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
第7回	先行研究・文献資料の整理・検討③	前回受けた指導を踏まえ、先行研究から顕在化した研究課題について文献研究として明文化し、受講生間で論議した上で指導を受ける。
第8回	外国語（英語）によるライティング①	前回までの作業で顕在化した研究課題のなかから一つを選択し、先行研究の結果や研究の進展状況、それらを踏まえた研究課題や社会的意義について英語で文献研究を執筆する。初期段階の作業として、文章のアウトラインを執筆し、指導を受ける。

第9回	外国語（英語）によるライティング②	パラグラフ・ライティングに関する指導を受け、前回執筆したアウトラインを元に英語での文献研究を執筆する。
第10回	外国語（英語）によるライティング③	英語で執筆した文献研究について、履修者間で論議した上で、英文ライティングに関する指導を受ける。
第11回	適切な実験計画の設定	文献研究によって顕在化した課題を解決するために必要となる種々の要因を上げ、履修者間で適切な実験計画について論議し、指導を受ける。
第12回	適切な統計的分析手法の選択①	体力学および体力測定評価学分野において用いられる代表的な実験計画および統計的仮説検定に用いられる統計手法について指導を受ける。
第13回	適切な統計的分析手法の選択②	文献研究を経て設定された実験計画を遂行するための仮説を設定し、適切な統計的仮説検定の手法について検討し、指導を受ける。
第14回	暫定的な研究テーマの設定	前回までの授業作業を踏まえ、暫定的な博士論文の研究テーマを設定し、プレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業において指示します。先行研究等の収集と検討、日本語および英語によるプレゼンテーションの準備等を求めます。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて適宜資料を配付します。

【参考書】

各授業において、必要に応じて適宜資料を配付します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、妥当な研究テーマを設定する能力（25%）、英語での文献研究の執筆能力（25%）、設定された実験計画の設定能力（25%）、プレゼンテーション能力（25%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

一昨年に開校した際には、充実した授業内活動により、論文作成に向けた各種の修学内容をおおよそ達成できたと考えている。次年度は、授業での課題が研究活動のマイルストーンとなるよう、受講生の研究活動の状況も踏まえて授業を展開していく予定です。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Participants will understand research ethics and improve basic skills such as reading and writing skills in English to write academic papers. Parallel to these learnings, students will receive support and guidance in collecting, organizing, examining previous research and information data and are implementing planning of the research theme and a research concept and scheme.

【Learning Objectives】

This class aims to conceptualize the research and develop a scheme to carry it out in preparation for writing the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Preparation and recitation instructions give in each class. In addition, students have to collect and review the previous studies and prepare presentations in Japanese and English. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the ability to establish a good research topic (25%), ability to write a literature study in English (25%), ability to carry out a set experimental design (25%), presentation skills (25%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり/Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし/No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析、二元配置分散分析、多重比較検定等々について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	確認的因子分析、共分散構造分析等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリ分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	調査と分析方法の整合性	定量的、定性的調査と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。
第14回	研究計画の確立②	作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習をおこなう。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等スムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	t検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。

第14回 研究計画の確立②

作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。

【参考書】

必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: The course aims to provide support in developing a research plan for a PhD thesis, summarising and organizing the results of previous research and data on the research topic. The course also aims to improve presentation and logical explanation skills on the occasion of the presentation of the doctoral thesis plan.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presenting a PhD thesis.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on the research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅱ

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を行う。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等をスムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

まず、春学期に進めてきた測定法の原理の理解と手技の習得について、トレーニング科学分野に関わるものを継続する。続いて、先行研究の収集・解釈、データベース化を通じて、履修者が想定した研究テーマを掘り下げ、研究計画を立てる指導を行う。そして計画発表会において受けた意見・指摘を踏まえて、研究計画をより有意義なものへと発展させる指導を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	研究の意義・目的について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第2回	研究の独創性	研究の独創性について、これまでの先行研究と対比させながら履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第3回	実験法の紹介	研究に関連した実験法について、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第4回	実験法の選定	前回紹介・意見交換した実験法のうち、研究目的に最適な手法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第5回	暫定的な仮説構成	研究目的に照らし、選択した対象と方法からどのような結果が予想されるかについて、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	倫理的配慮について	インフォームドコンセント、個人情報の保護等、倫理的配慮について説明し、確認する。
第8回	統計分析法①	基本的なデータ処理法、相関解析等について解説し、履修者が実際にソフトウェアを用いて演習する。
第9回	統計分析法②	T検定、一元配置分散分析等について解説し、履修者が演習する。
第10回	統計分析法③	二元配置分散分析、多重比較検定等について解説し、履修者が演習する。
第11回	内容分析・カテゴリー分析	文献資料等の分析法について解説し、履修者が演習する。
第12回	実験法と分析方法の整合性	実験法と分析方法のマッチングについて履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第13回	研究計画の確立①	研究目的・方法・仮説構成を見定め、具体的な研究計画を確立するよう指導する。

第14回 研究計画の確立② 作成した研究計画を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各プレゼンテーションの準備、研究方法の予習・復習準備にかかる時間は事前・事後も含め4時間以上は必要。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

【成績評価の方法と基準】

研究計画の立案力（40%）、研究方法に対する理解力（40%）、プレゼンテーション力（20%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト、統計分析用ソフト

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to summarize the data at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to summarize the previous studies and the skills of presentation at PhD thesis.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on research plan (40%), understanding of research methods (40%), and presentations (20%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究 II

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

先行研究・情報データの分析・検討結果をまとめ、研究テーマに関するこれまでの国内外の研究成果と課題を整理するとともに、博士論文の研究計画を確立するための支援・指導を受ける。また、1年次の後期に設定される博士論文計画発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文作成へ向け、暫定的な目的・方法・仮説等を備えた研究計画を確立し、また、学会発表等スムーズに行うためのプレゼンテーション力・論理的説明力を向上する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

履修者は、体力学および体力測定評価学分野の研究分野における現在の課題を把握した上で、社会的意義を踏まえた研究目的の設定、在学期間に実施可能な研究計画の構築に向けた指導・支援を行う。また、博士課程在籍年限を踏まえ、学術論文の投稿を見据えた計画立案、研究の実践、論文の執筆を進める。プレゼンテーション力や論理的説明力については、1年次後期に設定される博士論文計画発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究の意義・目的	博士論文で取り組む予定の課題について、実践の社会的意義・目的、獨創性、具体的な課題解決方法を履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導をうける
第2回	研究課題の明確化と設定	研究テーマにおける課題を明確化した上で博士論文全体の構成を検討し、プレゼンテーションを行う。課題間の関係性を踏まえ、研究全体として課題設置の妥当性について指導を受ける。
第3回	研究実施時期の検討	博士論文で実施する課題の解決に必要な期間を踏まえて各課題に取り組むタイムスケジュールを計画し、指導を受ける。
第4回	倫理的配慮	研究実施に際しての倫理的配慮や倫理申請の手続きについて指導を受け、自身の研究における倫理的配慮について検討する。
第5回	リサーチ・プロポーザルの作成	前回までの検討を踏まえ、博士論文のリサーチプロポーザルを作成し、プレゼンテーションを行う。実際に行う研究の方法について履修者間で論議し、指導を受ける。
第6回	研究計画発表会の準備	研究計画発表会（公聴会）のリハーサルとして、履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
第7回	研究計画の精選と再検討	研究計画発表会での指導やコメントを踏まえ、博士論文の研究計画を見直して全体の構成や執筆に向けた作業行程・期間などを検討し、指導を受ける。

第8回	原著論文作成に向けた準備①	博士論文の課題の中から、査読付原著論文の作成を目的とした研究テーマを選択し、研究目的を達成するための具体的な調査方法をまとめてプレゼンテーションを行い、指導を受ける。
第9回	原著論文作成に向けた準備②	前回検討した研究テーマについて実際に研究を行うためのリサーチプロポーザルを作成し、指導を受ける。
第10回	原著論文作成に向けた研究の実践①	原著論文作成に向けて実際に行った実験・調査の途中経過・進捗をまとめてプレゼンテーションを行い、以後の実践内容等について指導を受ける。
第11回	原著論文作成に向けた研究の実践②	実際に行った実験・調査の途中経過・進捗をまとめてプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、論文の投稿に向け、投稿論文の「方法」を執筆して指導を受ける。
第12回	原著論文作成に向けた研究の実践③	実際に行った実験・調査の結果をまとめてプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、得られた結果を踏まえて投稿論文の「結果」を執筆して指導を受ける。
第13回	原著論文作成に向けた研究の実践④	投稿論文の「考察」を執筆し、内容や論理展開、方法や結果との整合性などを履修者間で確認・検討した上で指導を受ける。
第14回	原著論文作成に向けた研究の実践⑤	投稿論文の「緒言」を執筆して履修者で誦読し、論文全体を通じた論理展開の整合性などを確認・検討した上で指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に指示された課題を実施する。次回の授業でのプレゼンテーションや論議、誦読に向けて、実験や調査の実践、資料やスライドの作成を求めます。なお、各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

Research Methods in Physical Activity (Human Kinetics)

【成績評価の方法と基準】

本授業の評価は、研究計画の立案（40%）、研究の実践（50%）、プレゼンテーション力（10%）の配分で行います。

【学生の意見等からの気づき】

受講者には、授業を通じて博士論文の執筆に向けた先行研究の取りまとめを十分に進展させることができたと判断している。また、授業内容を通じた学習により、博士論文の計画発表会においても、今後の研究の進展が期待できる内容のプレゼンテーションを行うことができた。次年度は、先行研究のレビューからの課題設定に重点をおき、授業内での活動を充実させる予定である。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students will engage the tutelage and support of establishing a research scheme for their doctoral dissertation after summarizing and examining previous research and information data and organizing previous domestic and international research results and issues related to the research theme. The program also aims to improve students' ability to give appropriate presentations and logical explanations at the Doctoral Dissertation Presentation in the second semester of the first year.

【Learning Objectives】

Establish a research scheme with tentative objectives, methods, hypotheses for the doctoral dissertation, improve the presentation, and logical explanation skills for smooth presentation at the meeting such as academic conferences.

【Learning activities outside of classroom】

Perform assignments as directed at the time of each class. In addition, students will be assigned to practice experiments and investigations and prepare materials and slides for presentations, discussions, and recitation readings in class. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the ability to research planning (40%), research practice (50%), presentation skills (10%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進めるために、研究目的に応じた研究方法の検討を進める。具体的な実験・調査等の準備を整えた上で、計画を実行していくための基礎を学ぶ。

【到達目標】

研究テーマにもとづいた実験を実施し、具体的なデータを収集して分析を行う。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野の研究分野における博士論文の完成に向けて、具体的な実験や調査の内容を確定し、予備実験の結果等を踏まえて研究の方向性を確定させる。加えて、投稿論文の作成・投稿に向けた準備も進める。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第2回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な実験・調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化に向けて指導を受ける。
第3回	予備実験・調査①	未実施の課題について予備実験・調査を行い、その進捗をプレゼンテーションして履修者間で論議し、研究方法を再検討する。
第4回	予備実験・調査②	前回に引き続き未実施課題の予備実験・調査の進捗および結果をプレゼンテーションし、研究方法確定に向けて履修者間で論議し、指導を受ける。
第5回	予備実験・調査③	未実施課題の予備実験・調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第6回	研究の実践①	博士論文全体の構成を整理し、全体的な方向性、期待される結果等をプレゼンテーションして指導を受ける。また、博士論文を構成する各研究課題については実験・調査を進め、随時授業内で報告して指導を受ける。
第7回	研究の実践②	博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、随時授業内で結果を報告して指導を受ける。
第8回	研究の実践③	前回と同様、博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、授業内で結果を報告して指導を受ける。
第9回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、確認事項や手続き等の指導を受ける。また、論文内容について、査読者の視点に基づくチェック事項について指導を受ける。
第10回	論文投稿後の手続き	論文を学術誌に投稿した後の手続きや査読者からのコメントへの返信について、実例を確認しながら指導を受ける。

第11回	投稿論文原稿の執筆①	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「方法」部分のアウトラインを作成して授業内で報告し、履修者間で内容の確認や論議を行う。また、実験・調査を行った結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第12回	投稿論文原稿の執筆②	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「結果」部分のアウトラインを作成して報告し、内容やまとめ方について指導を受ける。
第13回	投稿論文原稿の執筆③	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「考察」部分のアウトラインを授業内で報告し、履修者間で論議し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第14回	博士論文の構成の確定	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「緒言」部分のアウトラインを授業内で報告し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、各授業時に指示される課題に取り組み、博士論文を構成する実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究方法に対する理解度（50%）、投稿論文の執筆内容（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者の活動に対して適宜フィードバックを行う。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The students learn how to develop the research methods according to the research objectives and preparations for specific experiments.

【Learning Objectives】

Planning the experiments based on the research project.

【Learning activities outside of classroom】

Students conduct experiments to connect their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on comprehension of research methods (50%) and writing content of submitted papers (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

鬼頭 英明

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるため、研究目的に応じた研究方法の選定や開発についての指導を受けながら、具体的な研究・調査等の準備を整え、計画を実行していく。

【到達目標】

研究計画にもとづいた調査・研究を実施し、研究対象について具体的なデータを収集して分析を行い、研究を促進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、
 「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

健康教育学又は公衆衛生学の研究分野における博士論文の完成に向けて、具体的な調査の内容を確定し、予備調査の分析結果等を踏まえて研究の方向性を確定させ、実際の研究活動が促進されるよう指導・支援を受ける。また、並行して投稿論文の作成・投稿に向けた指導・支援も受ける。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者によるプレゼンテーションをもとに、意見交換を行う。
第2回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化する。
第3回	予備調査の検討	未実施の課題について予備調査を行い、その進捗状況のプレゼンテーションをもとに、研究方法を再検討する。
第4回	研究の方向性の確認	未実施の課題に関する予備調査の解析結果から、研究方法の確定に向けて意見交換を実施し、研究の方向性を検討する。
第5回	質的研究の内容検討	予備調査の結果を踏まえ、未実施課題の研究方法を確定させるとともに、博士論文全体の質的研究の部分を検討する。
第6回	質的研究の実施	博士論文全体の構成を整理しながら、質的研究を進めることにより得られる結果を推論し、調査の実施を進める。
第7回	質的研究の解析	質的調査を実施し、得られるであろう結果を解析し、考察を導き出す。
第8回	質的研究からの論点整理	博士論文を構成する研究課題について質的アプローチからの結果をもとに論点整理を進める。
第9回	論文投稿に向けた準備	質的研究遂行後の学術誌への論文投稿に向けての執筆方針を確定させるとともに確認事項について整理する。
第10回	投稿論文原稿の執筆と見直し	学術誌への投稿に向けて執筆を進めるとともに、見直しを行い、投稿原稿の完成度を高める。
第11回	論文投稿に向けた手続き	論文を学術誌に投稿する際の手続きについて検討する。
第12回	投稿論文原稿の完成	論文の最終チェックを行い、投稿する。
第13回	博士論文の構成の見直し	授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討する。
第14回	博士論文の構成の確定	授業期間に実施した研究を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について調査を進める。また、授業終了後の夏期休業を利用して、論文作成に向けたデータを収集するための調査を随時行う。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特にないが、必要な場合には提示する。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度初めて開講する授業でもあることからこれまでの気づきはない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンは常に必要とする。

【Outline (in English)】

(Course outline) In order to advance their doctoral thesis, they will receive guidance on selecting and developing research methods according to their research objectives, prepare for specific experiments and surveys, and receive support to carry out their plans.

(Learning Objectives) The goal of this course are to publish the research results as a paper.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on planned progress of research (50%), and the quality of the student's research performance in the lab(50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅲ

木村 新

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるため、研究目的に応じた研究方法の選定や開発についての指導を受けながら、具体的な実験・調査等の準備を整え、計画を実行していくための支援を受ける。

【到達目標】

研究計画にもとづいた実験・調査を実施し、研究対象について具体的なデータを収集して分析を行い、研究を促進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP2」、「DP3」、「DP4」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の完成に向けて、具体的な実験や調査の内容を確定し、予備実験の分析結果等を踏まえて研究の方向性を確定させ、実際の研究活動が促進されるよう指導・支援を受ける。また、並行して投稿論文の作成・投稿に向けた指導・支援も受ける。さらに、受講生の活動に対しては助言を行い、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける
第2回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な実験・調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化に向けて指導を受ける。
第3回	予備実験・調査①	未実施の課題について予備実験・調査を行い、その進捗をプレゼンテーションして履修者間で論議し、研究方法を再検討する。
第4回	予備実験・調査②	前回に引き続き未実施課題の予備実験・調査の進捗および結果をプレゼンテーションし、研究方法確定に向けて履修者間で論議し、指導を受ける。
第5回	予備実験・調査③	未実施課題の予備実験・調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける
第6回	研究の実践①	博士論文全体の構成を整理し、全体的な方向性、期待される結果等をプレゼンテーションして指導を受ける。また、博士論文を構成する各研究課題については実験・調査を進め、随時授業内で報告して指導を受ける。
第7回	研究の実践②	博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、随時授業内で結果を報告して指導を受ける。
第8回	研究の実践③	前回と同様、博士論文を構成する各研究課題について実験・調査を進め、授業内で結果を報告して指導を受ける。
第9回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、確認事項や手続き等の指導を受ける。また、論文内容について、査読者の視点に基づくチェック事項について指導を受ける。
第10回	論文投稿後の手続き	論文を学術誌に投稿した後の手続きや査読者からのコメントへの返答について、実例を確認しながら指導を受ける。

第11回	投稿論文原稿の執筆①	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「方法」部分のアウトラインを作成して授業内で報告し、履修者間で内容の確認や論議を行う。また、実験・調査を行った結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第12回	投稿論文原稿の執筆②	実験・調査を進め、学術誌への投稿に向けて授業外で「結果」部分のアウトラインを作成して報告し、内容やまとめ方について指導を受ける。
第13回	投稿論文原稿の執筆③	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「考察」部分のアウトラインを授業内で報告し、履修者間で論議し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討し、指導を受ける。
第14回	博士論文の構成の確定	学術誌への投稿に向けて授業外で執筆した「緒言」部分のアウトラインを授業内で報告し、指導を受ける。また、半期の授業期間に実施した研究の結果を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

受講生は、各授業時に指示される課題に取り組み、博士論文を構成する実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて授業内で紹介する。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究方法に対する理解度（50%）、投稿論文の執筆内容（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To progress their doctoral thesis, students receive guidance on the selection and development of research methods according to their research aims.

【Learning objectives】

Conduct main experiments according to the research plans and analyze specific data.

【Learning activities outside of classroom】

The experiments to collect data may be conducted during the summer vacation after the completion of classes.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the research (50%)

Performance of the tasks in each class (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進めるために、実験・文献等による情報収集をさらに進め、それらの整理・分析法を学ぶ。また、2年次に設定される博士論文中間発表会に向けたプレゼンテーションスキルも学ぶ。

【到達目標】

本調査を実施して結果を収集・分析し、考察を与えて学会誌への投稿準備を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野の博士論文執筆に向けて、進行中の実験・調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本調査の実施	現在進行している研究内容を踏まえて博士論文全体としての進捗を報告し、博士論文に含める課題や研究方法の確認・修正を行う。
第2回	現状の確認と今後の課題設定	進行中の研究における結果を報告し、博士論文全体における位置づけや、今後の課題遂行についてプレゼンテーションを行う。また、学位取得のために必要な学術論文の学会誌への掲載に要する期間を踏まえて、研究スケジュールについて指導を受ける
第3回	学会発表等の準備①	学会発表の準備として、学会へのエントリー方法や抄録の種類（構造化抄録等）とその作成における注意点について指導を受ける。
第4回	学会発表等の準備②	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、研究テーマ・目的・仮説・方法・結果のまとめ方について指導を受ける。
第5回	学会発表等の準備③	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、実際の発表を想定した研究内容のプレゼンテーションを行い、それに対して履修者間で意見交換をし、指導を受ける。
第6回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	国際学会の口頭発表を想定し、前回と同一の発表内容を英語でプレゼンテーションし、それに対する指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、以後の展開について指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況に合わせて先行研究を再度レビューし、結果の解釈について履修者間で議論する。
第9回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の検討内容を踏まえて結果を再度吟味・解釈した上でプレゼンテーションを行い、指導を受ける。

第10回	研究結果の解釈と展開④	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。また、得られた結果の状況によっては研究方法を再検討し、博士論文で取り扱う課題を確認する。
第11回	博士論文の執筆に向けた研究の推進①	博士論文の執筆および学位取得の条件を満たすことを目的にさらなる投稿論文の作成を計画し、候補となる研究テーマをプレゼンテーションし、履修者間で議論を行う。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究の推進②	前回計画した投稿論文について、これまで学んだ内容を踏まえてリサーチプロポーザルを作成してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、投稿中の論文についての査読過程の進捗も報告する。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究の推進③	本授業で作成したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査の準備を行い、指導を受ける。
第14回	博士論文の執筆に向けた研究の推進④	本授業で作成したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査を開始し、進捗を報告する。それに対し、長期休暇中の研究活動の方向性について指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価します。

【学生の意見等からの気づき】

受講者とのコミュニケーションが十分に図れるように授業を進める。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Students obtain the data through experiments and references. In addition, they will learn the presentation skills for the doctoral dissertation interim presentation.

【Learning Objectives】

In this class, students will analyze data for submission to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Students will engage in tasks assigned in each class and conduct experiments and investigations to constitute their doctoral dissertations. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

The evaluation of this class depends on the progress of research (50%) performance of assignments in each class (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

鬼頭 英明

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるために、調査・文献等によるデータ収集をさらに進め、それらデータの整理・分析・検討の方法に対する指導を受ける。また、2年次の後期に設定される博士論文中間発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

本調査を実施し、データの収集と分析により結果を導き出し、考察を加えることにより、学会誌への投稿を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

健康教育学又は公衆衛生学分野の博士論文執筆に向けて、進行中の調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究内容の検討	博士論文で取り組む研究の観点・項目、内容等について履修者によるプレゼンテーションをもとに、意見交換を行う。
第2回	研究内容の構成	博士論文で取り組む課題のうち、未実施のものについて具体的な調査等のスケジュールを検討し、博士論文の作成過程を明確化する。
第3回	予備調査の検討	未実施の課題について予備調査を行い、その進捗状況のプレゼンテーションをもとに、研究方法を再検討する。
第4回	研究の方向性の確認	未実施の課題に関する予備調査の解析結果から、量的調査内容の確定に向けて意見交換を実施し、研究の方向性を検討する。
第5回	量的研究の内容検討	未実施課題の量的調査の結果を受けて研究方法を確定させる。また、得られた結果を踏まえて、博士論文全体の量的研究の部分を検討する。
第6回	量的研究の実施	これまでの進捗状況を踏まえ、量的調査に向けて最終確認を行う。また、推定される結果から導き出された考察についてあらかじめ検討する。
第7回	量的研究の解析	量的研究の結果をもとに解析を進めるとともに、考察を導き出す。
第8回	量的研究からの論点整理	博士論文を構成する研究課題について量アプローチからの結果をもとに論文化を進める。
第9回	論文投稿に向けた準備	研究課題遂行後の学術誌への論文投稿に向けて、執筆を進めるとともに確認事項について整理する。
第10回	論文投稿後の手続き	学術誌への投稿に向けて執筆を進めるとともに、関連文献との整合性などの見直しを行い、投稿原稿の完成度を高める。
第11回	投稿論文原稿の執筆と見直し	論文を学術誌に投稿する際の手続きについて検討する。
第12回	投稿論文原稿の完成	論文の最終チェックを行い、投稿する。
第13回	博士論文の構成の見直し	授業期間に実施した研究の結果を受けて博士論文全体の構成を検討する。

第14回 博士論文の構成の確定 授業期間に実施した研究を受けて、課題間の関係性を踏まえて博士論文全体の構成を検討し、研究の方向性を確定する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について調査を進める。また、授業終了後の夏期休業を利用して、論文作成に向けたデータを収集するための調査を随時行う。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし

【参考書】

特になし、必要に応じて適宜配布する。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

本年度初めて開講する授業でもあることからこれまでの気づきはない。

【学生が準備すべき機器他】

パソコンは常時携帯のこと。

【Outline (in English)】

(Course outline) In order to advance your doctoral thesis, you will further collect data through experiments, surveys, literature, etc., and receive guidance on how to organize, analyze, and examine this data. In addition, students will also aim to improve their presentation and logical explanation skills during the doctoral thesis interim presentation held in the second half of their second year.

(Course outline) In order to advance their doctoral thesis, they will receive guidance on selecting and developing research methods according to their research objectives, prepare for specific experiments and surveys, and receive support to carry out their plans.

(Learning Objectives) The goal of this course are to publish the research results as a paper.

(Learning activities outside of classroom) Before/after each class meeting, students will be expected to spend two hours to understand the course content.

(Grading Criteria /Policy) Grading will be decided based on planned progress of research (50%), and the quality of the student's research performance in the lab(50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅳ

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文を進展させるために、実験・調査・文献等によるデータ収集をさらに進め、それらデータの整理・分析・検討の方法に対する指導を受ける。また、2年次の後期に設定される博士論文中間発表会を機に、プレゼンテーション力・論理的説明力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

本調査を実施して結果を収集・分析し、考察を与えて学会誌への投稿を目指す。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文執筆に向けて、進行中の実験・調査等の進展を支援し、得られたデータの整理、先行研究との比較・検討を踏まえた分析・解析に向けて指導を行う。また、学会誌への論文掲載に要する期間なども踏まえて、博士論文執筆および学位取得に向けたスケジュールを確定させる。さらに、2年次後期に設定されている博士論文中間発表会で求められる水準を目指して、履修者の能力が向上するよう指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	本調査の実施	現在進行している研究内容を踏まえて博士論文全体としての進捗を報告し、博士論文に含める課題や研究方法の確認・修正を行う。
第2回	現状の確認と今後の課題設定	進行中の研究における結果を報告し、博士論文全体における位置づけや、今後の課題遂行についてプレゼンテーションを行う。また、学位取得のために必要な学術論文の学会誌への掲載に要する期間を踏まえて、研究スケジュールについて指導を受ける。
第3回	学会発表等の準備①	学会発表の準備として、学会へのエントリー方法や抄録の種類（構造化抄録等）とその作成における注意点について指導を受ける。
第4回	学会発表等の準備②	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、研究テーマ・目的・仮説・方法・結果のまとめ方について指導を受ける。
第5回	学会発表等の準備③	博士論文中間発表会および学会発表の準備として、実際の発表を想定した研究内容のプレゼンテーションを行い、それに対して履修者間で意見交換をし、指導を受ける。
第6回	外国語（英語）によるプレゼンテーション	国際学会の口頭発表を想定し、前回と同一の発表内容を英語でプレゼンテーションし、それに対する指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、以後の展開について指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況に合わせて先行研究を再度レビューし、結果の解釈について履修者間で議論する。
第9回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の検討内容を踏まえて結果を再度吟味・解釈した上でプレゼンテーションを行い、指導を受ける。

第10回	研究結果の解釈と展開④	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、今後の展開について指導を受ける。また、得られた結果の状況によっては研究方法を再検討し、博士論文で取り扱う課題を確認する。
第11回	博士論文の執筆に向けた研究の推進①	博士論文の執筆および学位取得の条件を満たすことを目的にさらなる投稿論文の作成を計画し、候補となる研究テーマをプレゼンテーションし、履修者間で議論を行う。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究の推進②	前回計画した投稿論文について、これまで学んだ内容を踏まえてリサーチプロポーザルを作成してプレゼンテーションを行い、指導を受ける。また、投稿中の論文についての査読過程の進捗も報告する。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究の推進③	前回報告したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査の準備を行い、指導を受ける。
第14回	博士論文の執筆に向けた研究の推進④	本授業で作成したリサーチプロポーザルに従い、実験・調査を開始し、進捗を報告する。それに対し、長期休暇中の研究活動の方向性について指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、授業終了後の夏期休業を利用して、論文作成に向けたデータを収集するための実験・調査を随時行う。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

本授業の成績は、研究の計画的な進展（50%）、毎回の授業における課題の遂行状況（50%）によって評価する。

【学生の意見等からの気づき】

特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ」の単位を取得していることを前提に授業を進行する。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

【Course outline】

To further develop their doctoral thesis, students are further encouraged to collect data through experiments, surveys, and literature, and receive guidance on how to organize, analyze, and examine such data. The aim is also to improve presentation skills through the interim presentation of the doctoral thesis.

【Learning objectives】

Students will conduct main experiments and analyze the results for submission to a journal.

【Learning activities outside of classroom】

The experiments to collect data may be conducted during the summer vacation after the completion of classes.

【Grading criteria/Policy】

Progress of the research (50%)

Performance of the tasks in each class (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

越智 英輔

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータ分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかを確認する。また、分析・検討の結果に対する解釈・考察について学んだ上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成法を学ぶ。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させる。結果に対する考察や解釈を通して投稿論文の準備と博士論文の完成に向けて研究を進める。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認する。残りの博士課程の期間を踏まえて学位取得の条件を達成できるように検討する。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
第2回	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
第3回	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
第4回	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
第5回	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。
第6回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
第9回	論文作成における留意点①	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
第10回	論文作成における留意点②	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がりを、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。

第11回	博士論文の執筆に向けた状況確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断される場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
第14回	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。

また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50%）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students analyze the data to complete their doctoral dissertations, understand the interpretations of the results. Also, the students learn to improve the presentation skills at the conferences and writing skills.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, 【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at the conferences.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50%) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

島本 好平

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を受けた上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させ、含まれる研究課題の解決を通じて投稿論文の掲載と博士論文の完成に向けて研究を推進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認しながら指導を行う。また、博士課程の在籍期間を踏まえて博士論文や学位の取得条件（投稿論文）を達成できるよう指導・助言を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
対面	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
対面	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
対面	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
対面	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。
対面	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
対面	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
対面	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
対面	論文作成における留意点①	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
対面	論文作成における留意点②	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。

対面	博士論文の執筆に向けた状況確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断される場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
対面	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
対面	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
対面	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。

また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50%）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students will analyze and analyze the experiments and surveys they have conducted to complete their doctoral dissertations, confirm the position of the results in the research project, and check whether they are developed in a coherent, logical way manner. The Course also aims to improve graduate students' presentation skills at academic conferences and their ability to write papers.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, by solving the problems of the research project, the graduate students will aim for publication of the submitted papers and completion of the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at academic conferences and other tasks as instructed in each class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50%) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

中澤 史

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進めるよう指示し、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を行い、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

学会発表を行い、博士論文後半部分にあたる論文を作成して学会誌へ投稿する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

博士論文の前半部分の論文作成を通して浮き彫りとなった研究課題の解明を目指し、後半部分の論文作成に必要なデータの収集・分析を進めるよう指導する。分析結果に対する考察に必要な数量的・質的分析法を扱った先行研究を精読し、博士論文の完成に備える。また、学会発表および学術雑誌へ投稿するよう指導する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	研究課題の明確化	博士論文の前半部分の論文作成を通して浮き彫りとなった研究課題についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行い、後半部分の論文の研究課題を明確化する。
2	研究計画の確定	履修者が論文の研究計画について再考した結果についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行い、博士論文の後半部分の研究計画を確定する。
3	調査の実施	研究の準備状況を確認した後、調査を実施するよう指導する。
4	データの収集と分析	履修者が収集したデータを分析した結果についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
5	統計分析の結果の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が統計分析の結果の信頼性・妥当性について検討した結果をプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。

6	統計分析の考察の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が統計分析の結果について考察を加え、導き出した知見についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
7	質的分析の結果の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が質的分析の結果の信頼性・妥当性について検討した結果をプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
8	質的分析の考察の検討	先行研究等を踏まえ、履修者が質的分析の結果について考察を加え、導き出した知見についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
9	成果発表の準備	履修者が一連の研究結果をまとめた内容についてプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を行う。
10	発表・質疑応答	履修者が学会発表を想定したプレゼンテーションを行い、質疑応答の仕方等について指導する。
11	先行研究の精査	投稿論文の分析結果に対する考察に必要な数量的・質的分析法を扱った先行研究を精読し、論文作成の準備を整えるよう指導する。
12	投稿の準備	これまでの研究成果を論文化し、学術雑誌への投稿論文の作成を目指した取り組みを行うよう指導する。
13	投稿論文のリライト	投稿論文の内容について精査し、加筆・修正等の指導を行う。
14	投稿論文の完成	博士論文の後半部分に相当する論文を最終確認し、完成次第投稿するよう指導する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会HPならびに学会誌掲載論文を確認してください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間です。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付します。

【参考書】

1. 日本スポーツ心理学会（編）「スポーツメンタルトレーニング教本三訂版」大修館書店 2016
2. 山田剛史・村井潤一郎「よくわかる心理統計」ミネルヴァ書房 2004 等

【成績評価の方法と基準】

プレゼンテーション関連資料（50%）、プレゼンテーション（50%）の総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

新設科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができるモバイル機器を準備してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

The students are instructed to carry out more precise analysis and examination of the data towards the preparation of their doctoral thesis, and to check that they have sufficient quality and quantity of data. Guidance and advice will also be given on how to discuss the results of the analysis and examination, with the aim of improving presentation skills at conference presentations and the ability to write the thesis.

【Learning Objectives】

Guidance is given so that the student can present at conferences and prepare a paper for the second half of the doctoral thesis and submit it to an academic journal.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

Presentation-related materials (50%), Presentation (50%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

林 容市

開講時期：春学期授業/Spring | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の作成へ向けてさらにデータの精密な分析・検討を進め、十分なデータの質および量を確保できているかをチェックする。また、分析・検討の結果に対する考察の方法について指導・助言を受けた上で、学会発表におけるプレゼンテーション力および論文の作成能力の向上も合わせて目的とする。

【到達目標】

博士論文の全体を通じた構成を完成させ、含まれる研究課題の解決を通じて投稿論文の掲載と博士論文の完成に向けて研究を推進する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析を実施し、研究課題に対しての位置づけ、全体を通じた一貫性のある論理展開などについて確認しながら指導を行う。また、博士課程の在籍期間を踏まえて博士論文や学位の取得条件（投稿論文）を達成できるよう指導・助言を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	学位取得に向けた活動内容の確認	学位の条件（投稿論文等）を満たし博士論文を提出するためのスケジュールを確認し、研究の進捗を踏まえてプレゼンテーションを行い、今後の研究活動について内容や手順等について指導を受ける。
第2回	研究活動の実践と確認①	前回確認したスケジュールに基づき研究活動を進め、活動内容に応じて研究結果、リサーチプロポーザル、新たに生じた課題などを報告し、適宜指導を受ける。
第3回	国際学会での発表準備①	博士論文の課題の中から国際学会での発表に向けて準備を行い、抄録を作成して指導を受ける。
第4回	国際学会での発表準備②	国際学会での発表に向けた研究内容のプレゼンテーションに対して履修者間で意見交換を行い、担当教員からの指導を受ける。
第5回	外国語（英語）によるプレゼンテーションの準備	国際学会での発表に向け、履修者が英語でのプレゼンテーションを行い、それに対する意見交換および指導を受ける。
第6回	研究結果の解釈と展開①	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文における位置づけを明確化できるよう指導を受ける。
第7回	研究結果の解釈と展開②	進行中の研究について、その実験・調査の進行状況や投稿後の査読過程の進捗などを報告し、博士論文の執筆に向けた指導を受ける。
第8回	研究結果の解釈と展開③	進行中の研究について、前回の指導内容を踏まえて博士論文における位置づけを明確化し、指導を受ける。
第9回	論文作成における留意点①	アカデミック・ライティングについて指導を受け、投稿論文や博士論文における作成上の留意点を確認する。
第10回	論文作成における留意点②	投稿論文と博士論文の違い、章立てや課題間の繋がり、全体を通じた一貫性のある構成など、博士論文執筆に向けた留意点について指導を受ける。

第11回	博士論文の執筆に向けた状況確認	これまでに実施した研究活動を総合的にまとめ、博士論文として評価されるに十分な質と量の研究が遂行されているかどうか確認する。条件を満たすと判断される場合には博士論文の執筆を開始し、満たさない場合には今後の活動を見直し、研究計画を再検討する。
第12回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成①	これまでの研究活動の結果を受け、博士論文の課題の再確認、博士論文の章立て等を踏まえた論文の構成を検討する。執筆条件を満たしていない履修者については、以後実施すべき課題を明確化し、活動に対して指導を受ける。
第13回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成②	博士論文の章立て、投稿論文や学会発表の内容の博士論文における位置づけについてプレゼンテーションを行い、履修者間で論議した上で指導を受ける。
第14回	研究の限界および今後の課題の明確化	博士論文で検討する目的に対して、これまでの研究の成果に基づき研究の限界を顕在化させ、今後の課題を明確化した上で、それに対して指導を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。
 また、論文の執筆、学会発表に関連した資料作成や英語プレゼンテーションの準備など、授業ごとに指示される内容について準備や作成の作業を行う。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

国際学会での発表に向けた基礎能力の習得状況（50%）、課題を解決しうる研究計画（博士論文）の設定能力（50%）

【学生の意見等からの気づき】

昨年度初めての授業を行ったが、国際学会での発表や博士論文作成に向けた研究結果の解釈などにおいて、シラバスに準じた活動を実施できた。博士論文の作成に向けての作業はやや遅れてしまったが、次年度は博士論文の提出時期が前倒しになることを踏まえて、よりしっかりとした指導をして行く予定である。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students will analyze and analyze the experiments and surveys they have conducted to complete their doctoral dissertations, confirm the position of the results in the research project, and check whether they are developed in a coherent, logical way manner. The Course also aims to improve graduate students' presentation skills at academic conferences and their ability to write papers.

【Learning Objectives】

Complete the overall structure of the doctoral dissertation. In addition, by solving the problems of the research project, the graduate students will aim for publication of the submitted papers and completion of the doctoral dissertation.

【Learning activities outside of classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the issues to compose their doctoral dissertations as instructed in each class. In addition, graduate students will prepare materials and English presentations related to writing the dissertation and presenting at academic conferences and other tasks as instructed in each class.

【Grading Criteria / Policy】

Grading is based on the sum of the acquisition of basic skills for presentation at international conferences (50%) and the ability to develop a research plan (doctoral dissertation) that can solve the problem (50%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅴ

越智 英輔

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成に向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文をまとめる。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 1」、「DP 2」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

運動生理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を総合的に行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
第2回	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
第3回	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
第4回	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
第5回	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向け、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。
第6回	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第7回	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
第8回	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
第9回	論文の修正③	1月上旬の博士論文提出へ向け、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。

第10回 最終発表会の準備

1月上旬に予定される最終発表会へ向け、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。

第11回 本審査会の準備①

1月中旬に予定される本審査会へ向け、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。

第12回 本審査会の準備②

口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。

第13回 論文の修正①

審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。

第14回 論文の修正②

審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70%）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students summarize their results, interpretations, and considerations for completing their doctoral dissertations. In addition, students need to understand the limitations of their research and future plan.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and presentation.

【Grading Criteria / Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70%) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the presentation(30%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

スポーツ心理学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を行うための指導や支援を行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。さらに、各作業の実践において、必要に応じて適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
対面	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
対面	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
対面	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
対面	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
対面	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。
対面	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
対面	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
対面	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
対面	論文の修正③	1月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。

対面	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。
対面	本審査会の準備①	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。
対面	本審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
対面	論文の修正①	審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。
対面	論文の修正②	審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70%）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

前年度未開講のため、特になし。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students who have taken the Course will receive guidance and assistance in summarizing the results of analyses and investigations of experiments and surveys conducted and making appropriate interpretations and considerations toward completing their doctoral dissertations. In addition, graduate students will clarify the limitations of their research and future tasks and work toward completing their doctoral dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70%) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the oral examination(30%).

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

中澤 史

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：2年次
 備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方について指導する。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業を通して履修者は次のことに取り組む。①博士論文の目的、方法、結果、考察、結論の整合性について検討する。②研究の限界や今後の課題を明確化し、博士論文提出後の研究の継続性・発展性を明確化する。③博士論文審査委員会による指摘事項に真摯に対応し、完成度の高い博士論文を作成する。なお、授業内で行ったプレゼンテーション等の課題に対する講評や解説は当該授業の後半に行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
1	博士論文の原案作成Ⅰ	これまでの研究成果を一連の流れのある博士論文にまとめるための原案について意見交換する。
2	博士論文の原案作成Ⅱ	導出した結論から、研究の目的、仮説、結果、考察等との整合性について見直す。
3	研究の限界・今後の課題	博士論文の限界、今後の課題について意見交換する。
4	博士論文・仮提出	博士論文・仮提出へ向けて、論文の体裁を整える作業に取り組む。
5	予備審査会の準備Ⅰ	予備審査会へ向けて、博士論文の一連の流れを確認するよう指導する。
6	予備審査会の準備Ⅱ	予備審査会を想定したりハーサルを行い、その内容について意見交換する。
7	博士論文の修正Ⅰ	予備審査会の指摘・コメントを踏まえ、博士論文の加筆・修正作業に取り組む。
8	博士論文の修正Ⅱ	加筆・修正を施した博士論文について意見交換および指導を行う。
9	博士論文の修正Ⅲ	博士論文提出へ向けて、各章のつながり等に留意しながら博士論文の内容について再考する。
10	最終発表会の準備	最終発表会へ向けて、履修者が論文の要旨をまとめるとともに論文の内容をプレゼンテーションし、それに対する意見交換および指導を行う。

11	本審査会の準備Ⅰ	本審査会へ向けて、博士論文の全体像および要点を集約した抄録を作成する。
12	本審査会の準備Ⅱ	本審査会での口頭試問に対するリハーサルを行い、その内容について意見交換する。
13	博士論文の修正	審査会の指摘・コメントを踏まえ、博士論文に加筆・修正を施す。
14	博士論文の完成	博士論文を最終確認し、完成する。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

先行研究等の収集と整理およびプレゼンテーションの準備に取り組んでください。国内外のスポーツ心理学関連の学会HPならびに学会誌掲載論文を確認してください。なお、本授業の準備学習・復習時間は各2時間です。

【テキスト（教科書）】

適宜、資料等を配付します。

【参考書】

適宜、資料等を配付します。

【成績評価の方法と基準】

博士論文執筆力（70%）、論理的説明力（30%）による総合評価です。

【学生の意見等からの気づき】

新設科目につき特になし。

【学生が準備すべき機器他】

授業支援システムに接続可能で、課題を作成・提出することができるモバイル機器を準備してください。

【その他の重要事項】

授業計画は、研究遂行状況に応じて順番を入れ替える場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

Guidance is given on how to organise the dissertation towards the completion of the doctoral thesis, examining the consistency of the research topic, objectives, methods, results, discussion and conclusions.

【Learning Objectives】

Complete doctoral thesis.

【Learning activities outside of classroom】

Work on collecting and organising previous research etc. and preparing your presentation. Check the websites of domestic and international sport psychology-related academic societies and articles published in academic journals. The preparation and review time for this class is 2 hours each.

【Grading Criteria /Policy】

Comprehensive evaluation is performed according to the following criteria.

Doctoral thesis writing skills (70%), logical explanation skills (30%)

OTR70011 (その他 / Others 700)

スポーツ健康学高度開発研究Ⅵ

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

博士論文の完成へ向けて、研究テーマ、目的、方法、結果、考察、結論の整合性を検討し、論文のまとめ方を学ぶ。

【到達目標】

博士論文を完成する。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP1」、「DP2」、「DP5」に関連

【授業の進め方と方法】

体力学および体力測定評価学分野における博士論文の完成に向けて、実施した実験・調査等の分析・解析結果をまとめ、適切な解釈および考察を行うための指導や支援を行う。履修者は、研究の限界、今後の課題等を明確化させ、博士論文の完成に向けた最終的な作業を行う。さらに、各作業の実践において、必要に応じて適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

なし / No

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	博士論文の執筆に向けた研究計画の作成	これまでに実施した活動を踏まえ、関連する研究内容の関係性を示す関連図を作成し、博士論文で明らかにする課題の解決に向けた一貫性のある論理展開を定める。さらにこれを踏まえて博士論文の目次を作成する。
第2回	博士論文の作成①	研究テーマ、目的、仮説等との整合性に留意しつつ、前回作成した目次に従ってこれまでに執筆してきた各種原稿を集約し、一貫性のある論理展開のある博士論文を作成する。作成した原稿を授業において履修間で誦読し、意見を集約する。
第3回	博士論文の作成②	前回の授業で集約した意見も踏まえて博士論文の原稿作成を進めて期限までに提出し、その内容について授業内でフィードバック及び指導を受ける。
第4回	博士論文・仮提出	11月上旬の博士論文・仮提出へ向け、論文の可読性が高く、読者の誤解が生じないような文書作成に向けた注意点について指導を受け、博士論文に反映させる。
第5回	予備審査会の準備①	12月上旬に予定される予備審査会へ向けて、博士論文の作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう指導を受ける。
第6回	予備審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題を整理し、予備審査に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第7回	論文の修正①	予備審査会の指摘・コメントを受けて修正した当該箇所について授業内で報告し、受講者間で意見交換を行い、担当教員から指導を受ける。
第8回	論文の修正②	前回の意見交換や指導の内容に準じて博士論文を修正し、当該部分について履修者が説明した上で再度、論文の可読性について意見交換を行う。
第9回	論文の修正③	1月上旬の博士論文提出へ向けて、作成された博士論文を誦読し、論文全体を通じた主張の一貫性、論理的整合性、課題設置の妥当性などを受講者間で論議し、必要に応じて授業担当者からの指導を受ける。

第10回	最終発表会の準備	1月上旬に予定される最終発表会へ向けて、論文の要旨を作成してプレゼンテーションを行い、それに対する受講者間での意見交換を行い、授業担当者からの指導を受ける。
第11回	本審査会の準備①	1月中旬に予定される本審査会へ向けて、博士論文の完成を目指して作成を進めると共に、中心的課題を端的に説明できるよう再度確認を行う。
第12回	本審査会の準備②	口頭試問に対応できるよう博士論文の中心的課題について最終的な構成を行い、口頭試問に向けたプレゼンテーションのリハーサルを行う。
第13回	論文の修正①	審査会の指摘・コメントを受けて、博士論文の原稿における問題点を修正した上で授業において説明し、受講者間で意見交換した上で博士論文の完成に向けた指導を受ける。
第14回	論文の修正②	審査会の指摘・コメントに対応した博士論文を完成させて事前に提出し、授業内でフィードバックを受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

各授業時に適宜指示される博士論文を構成するための課題について実験・調査を進める。また、博士論文の提出や口頭試問等に向けた課題については各自で準備等を実施し、対象となる授業前に設定された期日までに事前に提出すること。なお、各回における予習・復習等の学習の標準時間はそれぞれ2時間以上確保することを求めます。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

博士論文作成過程における作業内容（70%）、各授業で設定される課題の内容（論文原稿の執筆、口頭試問に向けた準備等）の評価（30%）

【学生の意見等からの気づき】

授業における活動は、博士論文の作成に向けて充実したものになったと判断している。しかしながら、博士論文の提出時期については、予定よりもやや遅延してしまい、結果として提出に際してしっかりとした作業を行うことが難しくなってしまった。次年度は、提出期日が繰り上がると予想されることから、研究活動を今年度よりも繰り上げて進めていきたいと考えている。

【学生が準備すべき機器他】

必要に応じて授業中に指示する。

【その他の重要事項】

「スポーツ健康学高度開発研究Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ」の単位を取得していることを前提に授業を進行します。なお、進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

In this class, graduate students who have taken the Course will receive guidance and assistance in summarizing the results of analyses and investigations of experiments and surveys conducted and making appropriate interpretations and considerations toward completing their doctoral dissertations. In addition, graduate students will clarify the limitations of their research and future tasks and work toward completing their doctoral dissertation.

【Learning Objectives】

Complete a doctoral dissertation.

【Learning activities outside of the classroom】

Graduate students will conduct experiments and investigations on the assignments for the doctoral dissertation, which will be given to them in each class. In addition, students are expected to prepare for the submission of their doctoral dissertations and oral examinations by themselves and submit them by the deadline set prior to the class.

【Grading Criteria /Policy】

Grading is based on the sum of the evaluation of the work done during the dissertation writing process (70%) and the content of the assignments set for each class, such as writing the dissertation manuscript and preparing for the oral examination(30%).

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究／理論研究)

井上 尊寛

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャン

パス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関やスポーツマネジメントの現場に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わる現場での視察や業務に係る。そこで、研究成果を支援に結びつける方法を学び、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をマネジメント領域の教員に対してプレゼンテーションする。

「理論研究」では、研究機関から大学へ戻った後、改めて実践研究となる研究計画を立て、それに関する文献を収集して構想をまとめ、同領域の教員に対してプレゼンテーションをおこない、博士論文に実践研究が反映できるよう進めていく。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツマネジメント領域における研究を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の研究理解②	スポーツマネジメント領域における研究のトレンドを理解する。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方、また、実践研究となるための作法を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関やマネジメントの現場に、研究活動として参加する。活動に参加するために、当該研究の詳細を理解する
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、スポーツマネジメントの現場での実際を把握する。
第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、現場での実際についての理解を深める。
第9回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、当該研究に関わる現場の詳細を理解する。
第10回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、現場での課題を科学的根拠に基づき抽出する。
第11回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、課題の解決方法について検討する。
第12回	研究機関での活動⑦	課題を抽出から解決に資する理論の設定および課題の導出等研究のあり方についてまとめる。
第13回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第14回	活動成果のプレゼンテーション	活動成果をまとめ、プレゼンテーションをおこなう。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。準備・復習時間は1回につき4時間以上とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 4 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究／理論研究)

木村 新

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わるスポーツ種目の競技力向上支援に帯同する。そこで、研究成果を支援に結びつける方法や支援を通じて得られた知見を研究へつなげる方法を習得し、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をコーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。「理論研究」では、滞在した研究機関で習得した技法を基に、これまでの先行研究等の資料を収集・分析することで、分野の理論的課題を見つけだし、それに関する研究計画を立て構想をまとめたのちに、コーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツの競技力向上に資する研究内容を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の研究理解②	スポーツの競技力向上に資する支援内容を理解する。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関での、研究活動に参加する。活動に参加するために、研究の詳細を理解する。
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、競技力向上への支援の全容を把握する。
第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、選手、コーチ、トレーナーと競技力向上に向けたディスカッションを行う。
第9回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、研究が関わる支援の現場の詳細を理解する。
第10回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、試合や合宿などの支援の現場に帯同する。
第11回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、支援の効果を観察・学習する。
第12回	研究機関での活動⑦	支援のための研究のあり方を総括する。
第13回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第14回	成果発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーション、参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員が評価を行う。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネージメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: 'The course aims to help doctoral students become familiar with practice by using 'practical research' as an exercise. If the student has already reached the level of an advanced practitioner or needs to enhance the theoretical aspect of the doctoral thesis, the student can conduct 'theoretical research'.

Learning Objectives: At the end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of the classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on the management of the practical research plan (70%) and the ability to disseminate research results (30%)

HSS500I1 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究／理論研究)

島本 好平

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位

曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩

配当年次：1～2年次

備考（履修条件等）：

その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

「実践研究」では、履修者がスポーツ科学の研究機関に一定期間身を置き、研究機関での研究に参画する一方で、その研究に関わるスポーツ種目の競技力向上支援に帯同する。そこで、研究成果を支援に結びつける方法を学び、競技力向上に活かすための研究内容の選定に役立てる。さらに、研究機関から大学へ戻った際に、得られた成果をコーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。

「理論研究」では、研究機関から大学へ戻った後、改めて実践研究となる研究計画を立て、それに関する文献を収集して構想をまとめ、コーチング領域の教員に対してプレゼンテーションする。博士論文の中に実践研究が組み込まれるようであれば組み込む。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	スポーツ研究機関の研究理解①	スポーツの競技力向上に資する研究を理解する。
第2回	スポーツ研究機関の支援理解②	スポーツの競技力向上に資する支援を理解する。
第3回	実践研究の理解①	実践研究の考え方、また、実践研究となるための作法を理解する。
第4回	実践研究の理解②	実践研究となるための論文の書き方を理解する。
第5回	研究機関での活動①	研究機関に応募し、研究活動に参加する。活動に参加するために、当該研究の詳細を理解する。
第6回	研究機関での活動②	研究活動に参加しつつ、競技力向上への支援の全容を把握する。
第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究の進捗状況について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	研究機関での活動③	研究活動に参加しつつ、選手、コーチ、トレーニングサイトの現場を理解する。
第9回	研究機関での活動④	研究活動に参加しつつ、当該研究が関わる支援の現場の詳細を理解する。
第10回	研究機関での活動⑤	研究活動に参加しつつ、試合や合宿などの支援の現場に帯同する。
第11回	研究機関での活動⑥	研究活動に参加しつつ、支援の効果を観察・学習する。
第12回	研究機関での活動⑦	支援のための研究のあり方を総括する。
第13回	活動成果の総括	活動の成果を総括して自らの研究に活かす構想をまとめる。
第14回	活動成果のプレゼンテーション	活動成果を大学でプレゼンテーションする。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となる。なお、本授業の準備学習・復習時間は各4時間とする。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布する。

【成績評価の方法と基準】

多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）

【学生の意見等からの気づき】

記載不要

【学生が準備すべき機器他】

ノートパソコン、プレゼンテーション用ソフト等

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する可能性がある。

【Outline (in English)】

Course outline: This course introduces how to proceed practical research at PhD course.

Learning Objectives: The end of the course, students should acquire an understanding to plan the research strategy including making their career.

Learning activities outside of classroom: Before each class meeting, students will be expected to spend 2 hours to understand the course content.

Grading Criteria /Policies: Grading will be decided based on management of practical research plan (70%) and ability to disseminate research results (30%)

HSS50011 (健康・スポーツ科学 / Health/Sports science 500)

スポーツ健康学高度開発演習 (実践研究/理論研究)

林 容市

開講時期：秋学期授業/Fall | 単位数：2単位
 曜日・時限：集中・その他/intensive・other courses | キャンパス：多摩
 配当年次：1～2年次
 備考（履修条件等）：
 その他属性：

【授業の概要と目的（何を学ぶか）】

当科目は、実践に精通した博士号取得者の養成をねらいとし、演習課題として「実践研究」を中心に進める。一方で、履修者がすでに高度な実践者の域に達している場合や博士論文との関連で理論的側面を充実させる必要がある場合には「理論研究」を認め、これら2種のいずれかにより進める。いずれにしても主・副指導教員の指導のもとで一定期間、自由に選択した課題に従事し、成果に対して複数教員の集団指導と評価を受ける。履修者個人のキャリア形成に役立ち、博士論文作成の基礎あるいは一部となる演習課題をこなすことを目的としている。

【到達目標】

キャリア形成に役立ち、博士論文の基礎あるいは一部となる演習課題をこなす。

【この授業を履修することで学部等のディプロマポリシーに示されたどの能力を習得することができるか（該当授業科目と学位授与方針に明示された学習成果との関連）】

ディプロマポリシーのうち、「DP 4」、「DP 5」に関連

【授業の進め方と方法】

本授業での「実践研究」は、履修者が一定期間、自由に選択した課題に従事し、その成果に対するコーチング専門領域の複数教員による指導と評価を行う。この一例として、競技スポーツや体力向上を目的としたコーチングやトレーニングの現場において、担当教員の専門とする体力学・体力測定評価学の内容に関連した、実際の指導やトレーニング計画、体力の測定・評価、データ分析などの業務を一定期間担当し、そこで得られた知識・技能、経験を整理し、自己の能力の発展に向けた研究を実践させる。また、履修者が既に高度な実践者の域に達している場合や博士論文取得との関係で理論的側面を充実させる必要がある場合には、「理論研究」として博士論文の研究内容に隣接したテーマを選定し、レビュー論文を作成する。テーマに関する先行研究をシステムティック・レビューによって網羅的に把握し、各研究において提示されている結果をメタアナリシスによって量的に分析し、結果について考察する。担当教員は、主に研究計画、レビュー手法、分析方法、考察の妥当性、成果の発表方法等について指導・支援する。いずれの場合も、担当教員を中心としたコースワークによって、研究目的および計画の設定、実際の活動内容や収集するデータの確認、分析・解析方法の選定、考察の妥当性の検証、成果発表の方法の選定などについて指導・支援を行う。さらに、課題等に対しては適宜フィードバックを行う。

【アクティブラーニング（グループディスカッション、ディベート等）の実施】

あり / Yes

【フィールドワーク（学外での実習等）の実施】

あり / Yes

【授業計画】 授業形態：対面/face to face

回	テーマ	内容
第1回	研究課題の設定	個人の関心にもとづいて研究課題を選択すること、「実践研究」「理論研究」のいずれを選択するのか等、当授業の概要と目的について確認する。
第2回	研究課題の意義・目的	意義・目的について履修者がプレゼンテーションし、それに対する意見交換と指導を受ける。
第3回	研究方法の検討	どのような研究方法で成果を出すのかについて検討する。
第4回	研究対象の検討	実践研究：研究対象における業務内容の確認、研究実践対象としての妥当性について検討する。 理論研究：システムティック・レビューに向けたキーワード、検索媒体について検討する。
第5回	分析対象の検討	実践研究：研究対象における実践で得られる内容について確認し、研究の方向性について検討する。 理論研究：レビューした文献の研究対象としての妥当性について確認する。
第6回	分析方法の確認およびデータの整理	実践研究：予備調査の結果や収集可能なデータを用いて実際の分析方法について検討を行う。 理論研究：レビューした文献の内容をまとめた上で再度キーワード等を再検討し、検索を進める。

第7回	中間発表	専門領域の担当教員を中心とした公聴会のもとで、研究構想・計画について履修者がプレゼンテーションを行い、研究課題が遂行可能であるか等について意見交換を行う。
第8回	課題従事のプロセス①	実践研究：現場での実践状況を再確認し、指導やトレーニング計画、体力の測定・評価の内容について研究目的の達成に向けて再検討する。 理論研究：レビューした文献の内容を検討し、目的を達成するために精選する。
第9回	課題従事のプロセス②	実践研究：授業において現場での実践状況を報告し、それを受講者間で論議した上で、必要に応じて活動内容の改善を検討する。 理論研究：レビューした文献に記載されている内容を、実際の分析に向けて整理する。
第10回	課題従事のプロセス③	実践研究：前回の授業で確認・改善した現場での実践状況について再度報告し、受講者間で論議した上で、最終的な研究の方向性、収集データの内容について検討する。 理論研究：前回の授業で実施したレビューした文献に記載されている分析結果を用いて、分析に向けたデータセットを作成する。
第11回	課題従事のプロセス④	実践研究：現場での指導やトレーニング計画、体力の測定・評価を実践した結果を、分析に向けてまとめる。 理論研究：前回作成したデータセットを用いて、実際にメタアナリシスを行い、統計的な分析を実践する。
第12回	課題従事の成果①	実践研究：現場で得られた各種データの分析を行う。 理論研究：前回行ったメタアナリシスの結果を受講者間で論議し、どの様な考察が可能か検討する。
第13回	課題従事の成果②	実践研究：現場での実践から得られたデータの分析結果の解釈について受講者間で論議し、研究のまとめに向けて方向性を定める。 理論研究：メタアナリシスの結果に基づき、研究のまとめに向けて受講者間で論議する。
第14回	成果発表	博士課程担当教員全員参加の公聴会のもとで、研究成果について履修者によるプレゼンテーションおよび参加者との質疑応答を行い、専門領域の担当教員から評価を受ける。

【授業時間外の学習（準備学習・復習・宿題等）】

開講時期は1年次の秋学期もしくは2年次の秋学期であるが、演習課題によっては長期を要するため、指導教員と相談しながら履修時期より以前に課題に着手しておくことが必要となります。各回の予習・復習の標準時間はそれぞれ2時間とします。

【テキスト（教科書）】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【参考書】

特になし。必要に応じて資料を配布します。

【成績評価の方法と基準】

本授業は、多様な実践的課題を解決しマネジメントできる能力（70%）、研究成果の社会的発信・還元能力（30%）で評価します。

【学生の意見等からの気づき】

全体を通じて、理論研究に関する内容は充実させることができたが、実践研究については、やや活動が滞ってしまったと感じている。研究科の定員との関係で、受講生数がごく少数での授業となっていることから、次年度は受講生とのコミュニケーションをより密に行い、研究目的が達成できるよう尽力していく予定である。

【学生が準備すべき機器他】

特になし。必要に応じて授業内で指示します。

【その他の重要事項】

進捗状況によって授業計画の順番は変更する場合があります。

【Outline (in English)】

【Course outline】

This course aims to train doctoral students who are well versed in practice. Therefore, the course will focus on practical research as an exercise. However, if the student is already capable of advanced practice, or if the theoretical aspect of the course needs to be enhanced, the student will work on either practical or theoretical research. Under the guidance of the chief and sub-chief examiner and sub-supervisors, students work on a freely selected project for a certain period and receive group guidance and evaluation from multiple faculty members on the project results. This program aims to help students develop their careers and practice exercises that will form the basis or part of their doctoral dissertations.

[Learning Objectives]

The class aims to work on and accomplish tasks that will help career development and serve as the basis or part of a doctoral dissertation.

[Learning activities outside of classroom]

The class starts in the fall semester of the first or second year in the Doctor's Degree Program. However, depending on the content of the assignment, students may be necessary to efforts regarding issues for an extended period. Therefore, it is necessary to consult with the supervising professor and begin the assignment before starting the course period. The standard time for preparation and review for each class is 2 hours each.

[Grading Criteria /Policy]

The evaluation of this class depends on the ability to solve and manage a diversity of practical issues (70 %) and the ability to disseminate and return research results to society (30 %).

